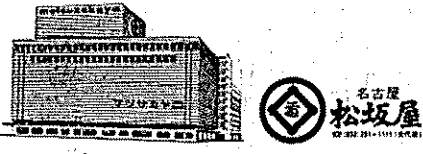


楽しいお買い物はマツザカヤ



能楽の友

題字は熱田神宮 榎田宮司筆

発行 能楽の友社

名古屋市千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
一部 70円

日本能楽会名古屋公演 能楽特別鑑賞会 3月6日 熱田神宮能楽殿で

57年の新春を迎えて

能楽協会名古屋支部
支部長 井上松次郎

謹んで昭和五十七年の新春を拜
ぎ申し上げます。
昨年中は、能狂言愛好の皆様は、当地能楽界のために多大のご
支援を賜り、能楽協会名古屋支部
の主要な催能でありました熱田神宮
祭奉納能、新能、大衆能、歳末助
け合い義捐金募集能、さらに愛知
県芸術祭、名古屋市青少年のため
の芸術劇場等の諸行事をつつがな
く終了できましたことを衷心から
感謝申し上げます。ごさいま
す。

◆演能カレンダー◆
(熱田神宮能楽殿)

〔57年1月〕

3日(日) 能楽協会名古屋支部初式 (関係者のみ)
7日(木) 学生能と狂言の会 (来場歓迎)
15日(日) 名古屋清瀬会能 (来場歓迎) (番組③面)
24日(日) 名古屋青年会能 (有料) (番組③面)
31日(日) 名古屋青年会別会 (有料) (番組③面)

〔2月〕

7日(日) 名古屋宝生会定式能 (有料) (番組④面)
11日(祝) 名古屋宝生会定期能 (有料) (番組④面)
14日(日) 名古屋観世会定期能 (有料) (番組④面)
20日(土) 名古屋九泉会定期能 (有料) (番組④面)
21日(日) 熱田新能 (来場歓迎)

〔3月〕

6日(土) 日本能楽会名古屋公演・能楽特別鑑賞会 (有料)
7日(日) 大梅蔵狂言会 (来場歓迎) (有料)
14日(日) 大梅蔵狂言会 (来場歓迎) (有料)
21日(祭) 泉会大会 (来場歓迎)
22日(休) 名古屋泉会大会 (来場歓迎)

〔4月〕

4日(日) 豊星会大会 (来場歓迎)
11日(日) 観世会大会 (有料) (来場歓迎)
18日(日) 邦語会大会 (有料) (来場歓迎)
24日(日) 梅若盛義 (来場歓迎)

(演能変更の節はご了解下さい)

皆様には一段のお力添えを賜りま
すようお願い申し上げます。年頭のご
あいさつと致します。

重要無形文化財として能楽部門
の総合指定を受けている社団法人
「千手」即曲之舞(シテ観世元正、
舞各三番)
日本能楽会では、重要無形文化
財保持者による地方公演を毎年企
画し開催しているが、名古屋公演
は前回の昭和五十三年につづく四
年ぶりの特別鑑賞会であり、観世、
宝生の両宗家の来演と相まって充
実した催能が期待される。

謹賀新年
熱田神宮能楽会
謹賀新年
熱田神宮能楽殿
熱田神宮 宮司 篠田康雄
権宮司 長谷晴男

観世元昭	観世元正	観世雅雪	観世鏡之丞	観世栄夫	名古屋観世会	梅若萬三郎	橋香会	幽花会	片山慶次郎	山本観衛会	山本観勝会	梅若盛義	上田照也	誠交会 奥善助					
東京都渋谷区恵比寿南 一―二十一―十四	東京都中野区東中野2―6―14	大槻清韻会	大槻秀夫	大槻文藏	井上嘉久	鳳鳴会	武田太加志	武田志房	藤井久雄	名古屋淡交会	橋岡久共	武田詠楽会	武田小兵衛	武田欣司	武田邦弘	名古屋橋岡会	井戸良造	井戸和男	大阪府阿倍野区文の里4―24―17 電話〇六(六二二)二二一九番

めたいこと、十一月、松村博
司博士(中世文学・染花物語、学
もおすこやかにご研究を続けられ
ますように。
思が、ご冥福をお祈りします。
(五六・三二)二九、野村広二

神宮東門店 熱田区新宮坂町一 電話(682) 5598(代表)

演能案内

名古屋清韻会能

昭和五十七年一月十五日(祭)十時始

熱田神宮能楽殿

神歌 加野昭二郎 千歳伊藤 晏義

高砂 加野昭二郎 伊藤 晏義

連吟東 北 高田 武雄

仕舞 網之殿 伊藤 敏子 花 月

杜 若キリ 奥田 薫 松 風

業 藤千 手 高橋 宗司

仕舞 雲林院 竹本百合子 鐘之段 阿田 満子

遊行 柳 川瀬 泰子 船井 慶キリ 磯貝 勝子

能 二人 静 西村 欽也 後藤 孝一郎

仕舞 羽 衣キリ 山田 欣也 班

殺生 石 福間 克彦 近藤 幸江

仕舞 狂 布 亮 井上松次郎 大野 弘之

仕舞 鐵 輪 御牧 紀代 忠 渡辺 節子

胡蝶 小出 文子 經 正 長谷川 実

藤 戸 富士道周明 郎 耶 興村 久枝

熊 野 泉 真澄 通 小 町 鬼頭貴代子

富士太鼓 佐藤アヤ子 弱 法 師 守部 啓子

能 狸 古井 佐季 坂富 雅介 吉田 定男

後見 近藤 幸江 地謡 伊藤 晏義

祝言 菊 上 茂 大槻 文蔵

賀 葵 茂 大槻 文蔵

祝言 菊 上 茂 大槻 文蔵

〔御来場歓迎〕 主催名古屋清韻会

青陽会定期能

一月二十四日(日)午前十一時始

熱田神宮能楽殿

東 北 長谷川 章 青木 武弘

仕舞 山 本 田 勲

仕舞 九 加賀 敏彦

仕舞 小 須部 紗枝

仕舞 鶴 飯田 雅介 鬼頭 英二

仕舞 衣 西村 欽也 河村 隆一郎

仕舞 今 参 野村又三郎 井上礼之助

仕舞 花 月クセ 高橋 瞭一

仕舞 草子洗小町 今村 嘉男

仕舞 清沢一政 祖父江修一

仕舞 後見 梅田 邦久 今沢 美和

仕舞 狂 舞 久田 徹二

仕舞 花 狂 舞 梅田 邦久

仕舞 殺生 石 西村 欽也 河村 隆一郎

仕舞 後見 今沢 美和 地謡 今村 嘉男

仕舞 附祝言 (当日券二千円) 主催 青陽会

第一回 五月九日(日) 第二回 八月八日(日)

第三回 十月十六日(土) 第四回 一月

事務所 名古屋市中区新宮坂一 熱田神宮能楽殿内(電六七二二九二二)

の要を受けたが、帝の病氣はそののでご理解賜りますようお願いいたします。

幸田会 近藤 幸江 岡崎市鶴田本町十一番地 電話(〇五六八)〇二五二九	翠韻会 生駒 里 翠 名古屋市名東区猪高町上社屋間84 電話(八三三)七〇三二五七二七番	重陽会 菊池 重 郷 大山市大宇相生五九一六 電話(〇五六八)〇四五〇一	緑名会 田 中 武 尾張旭市城山町三ツ池六一九八 電話(〇五六八)〇三三〇四番	松和会 中 村 和 男 各務原市那加桜町2-11 電話(〇五八三)〇二七九四番	清韻会 今 村 嘉 勇 岩倉市東新町下境52-101 電話(八三六)〇七二三八	宝生英雄 宝生 英 照	宝生英照 宝生 英 照	名古屋巽会 辰 巳 孝	佐野正治 佐野 正 治 〒921 金沢市果野町四丁目二十四	佐野由於 佐野 由 於 東京都文京区湯島四丁目11-16 秀和レジデンス七〇三	内藤泰二 内藤 泰 二	金剛流華月会 今 井 清 隆 京都市北区小山下板倉町二三 電話(〇七五)四九二二六四七	豊嶋三千春 豊嶋 三 千 春 名古屋市東区泉2丁目23-9 マルミタウンマンション205号	廣田後援会 廣 田 後 援 会 廣 田 隆 一 廣 田 幸 稔	金剛永謹 金 剛 永 謹	廣田後援会 廣 田 後 援 会 廣 田 隆 一 廣 田 幸 稔	金剛永謹 金 剛 永 謹	春敲会 金 春 晃 実	本田光洋 本 田 光 洋 東京都中野区上高田二丁目二五八二 電話(〇三三)八六二六四一	金春欣三 金 春 欣 三 東京都杉並区成田東四丁目35-20 電話(〇三三)三二五七三二番	金春安明 金 春 安 明 〒167 東京都杉並区南荻窪3-17-16 電話(〇三三)三二二五七一	金春信高 金 春 信 高	金春安明 金 春 安 明	李川周子 李 川 周 子 名古屋市千種区西崎町3ノ6	後援会 廣 田 泰 三 能	菊扇会 廣 田 泰 三 能	林鉄郎 林 鉄 郎	八声会 金 春 流 中 村 富 次 伊勢市富町一丁目一四一七 電話(八三六)〇二四五六番
--	---	---	--	--	--	----------------	----------------	----------------	-------------------------------------	--	----------------	--	--	--	-----------------	--	-----------------	----------------	--	--	---	-----------------	-----------------	----------------------------------	------------------	------------------	--------------	---

豊中市本町六丁目〇六
水藤元三
名古屋市名東区平和ケ丘3-176
日車マンション四〇四

和泉元秀舞台四十年 記念狂言会

昭和五十七年一月三十一日(日)午後一時

熱田 神宮能楽殿

舞 兼子 神

末廣 かり 和泉元弥

佐渡 狐 野村又三郎

庵の梅 和泉元秀

朝比奈 井上松次郎

木六 野村万之丞

三宅藤九郎

主催 和泉宗家後援会

金費 全自由席三千元 (一部指定席制)

お申込みは 和泉宗家後援会 〇三(九七四)〇五〇六

名古屋和泉会 〇五二(三三二)一四三〇

熱田神宮能楽殿 〇五二(六七)二九二二

名古屋市内各プレイガイド

第二十六期・第一回 名古屋宝生会定式能

二月七日(日)午後一時始

熱田 神宮能楽殿

佐藤 耕司

能 春日龍神 西村 欽也 山口 亮太 鬼頭 好信

間 杉江 元 河村 亮太 森本 重一

後見 辰巳 孝 関口 精吾 鬼頭 嘉男

後見 鈴木 義久 石井 孝三 加藤 正利

八島 吉田 俊彦 衣斐 正宜

仕舞 東 北キリ 戸田 和 地謡 辰巳 正宜

網ノ段 倉本 雅 地謡 鈴木 義久

能 遊行 柳 西村 欽也 算 敏一 鬼頭 嘉男

間 飯富 雅介 福井 啓次郎 藤田 陽彦

後見 戸田 和 地謡 高田 真六 衣斐 正宜

後見 倉本 雅 井上 松次郎 坂本 三郎 正宜

狂言 薬 煉 大野 弘之 佐藤 友彦

能 巻

鬼頭 嘉男 玉井 博祐 飯富 雅介 吉田 定男 鬼助川 三男夫

後見 倉本 雅 地謡 久野 幸三 吉田 俊彦

後見 竹内 澄子 寺野 邦男 辰巳 孝

西村 祐三 佐藤 富四夫

井上 礼之助

附祝言

主催 名古屋宝生会

会費券 (年四回) 一万二千元 名古屋市中区山里町一三五

当日券 三千元 内藤 泰二 電話 八三三三三四四九

名古屋観世会定式能 (初回)

二月十四日(日)午前十一時始

熱田 神宮能楽殿

翁

觀世 清和 面箱 茂山千三郎

武田 邦弘 千歳 觀世 清和

觀世 元昭 三番三 茂山千五郎

高

飯富 雅介 吉田 定男 觀世 元信

西村 欽也 古賀 裕巳 藤田 大五郎

杉江 元 大倉 孝規 藤田 大五郎

間 茂山 真吾 田中 武 久田 徹三

後見 梅田 邦久 加藤 契彦 久田 徹三

片山 博太郎 後藤 契彦 久田 徹三

仕舞 籠 関根 祥六 高橋 謙一

採 女キリ 上田 照也 坂井 隆二

弱法師 片山 博太郎 坂井 隆二

梅田 邦久 觀世 元正 河村 總一郎 鬼頭 嘉男

江崎 金治郎 後藤 孝一郎 藤田 陽彦

三木 末信 松本 薫 藤田 陽彦

後見 觀世 清和 地謡 祖江 江修一 小島 一英

坂井 音重 地謡 河村 總一郎 藤田 陽彦

附祝言 主催 名古屋観世会

〔有料〕

要員券 五円 三回 終了予定三時半頃



中部金春会

名古屋市中区新栄二丁目10-9 電話(二四一)三二四一

前田 茂穂

米本 平一

喜多実

東京都練馬区中村南一ノ二九ノ二

大阪喜多会

和島富太郎

〒665 宝塚市宝梅一丁目12-1 電話(〇七九七)八六三〇

二井 栄逸

松阪市内五曲町八八 電話(〇五九八)二二〇二六

長田 曉後援会

〒514-22 津市高野尾町三三五一四六 電話(〇五五)〇六九七番

喜多山 本才

名古屋市中区園山町二二三 電話(七〇二)二一九三番

宝生 生弥

東京都練馬区小竹町一の五〇 電話(〇三)九五五七九七五番

麦の会 長田 曉 梅田 邦久 久田 徹二

豊嶋 十郎

〒二七一 松戸市下矢切五五 電話(〇四七三)〇一九八二

高安会

西村 欽也

〒467 名古屋市中区新栄二丁目二四四五 電話(八三三)五九一九番

高安勝 久

久保田 千三郎

〒715 芦屋市興川町五ノ一五 電話(〇七九七)二二三二八四

福王 輝幸

〒662 西宮市名次町六一十二 電話(〇七九八)九六五一

高安流 岡同門会

岡次郎 右衛門

清水 利宣

高坂 康弘

森野 晴蔵

北川 湖舟

中野 三郎

伊藤 久蔵

塩田 耕三

村山 利弘

清水 昭

高安流 岡同門会

岡次郎 右衛門

清水 利宣

高坂 康弘

森野 晴蔵

谷田 宗二朗

〒603 京都市北区衣笠街道町31-7 電話(〇三)八七五(三三)八六三

森茂 好好

〒151 東京都渋谷区代々木四一三八-12 電話(〇三)370-4609

江崎 金治郎

電話(〇七九二)〇七二五番

江崎 康雄

電話(〇七九二)〇九七一番

九州高安流同人会

飯富 良徹

飯富 良徹

大山 要二郎

山崎 俊輔

横田 富生

森田 光春

京都市東山区八坂上町三七六

寺井 政数

〒154 東京都世田谷区世田谷四一三二五 電話(四二〇)六六七六番

藤田 昭彦

名古屋市中区下二丁目一〇番九号 電話(〇五二)五七一五七六三

鬼頭 季信

長生会

長生会

長生会

長生会

長生会

長生会

長生会

名古屋観世九阜会定期能(初回)

二月二十日(土)午後一時始

熱田神宮能楽殿

巴 吉田 妙 西村 欽也 寛 敏一 寛 三男

宝の槌 佐藤 友彦 井上礼之助 井上松次郎

花 井 月切 有賀 滋子 小島 芳雄 高木美智子 五木田武計 高橋 敏一

雲林院 西村 欽也 河村総一郎 福井啓次郎 鬼頭喜太郎 藤田 陽彦

附祝言 大野 弘之

主催事務所 名古屋観世九阜会 千171 名古屋市中区元町町一丁目七(加藤保彦方) TEL052(六六一)三六五九 会員券(年四回)自由席 一万円 当日券 三千元

〔有料〕 春夏秋冬 一五六六年の回顧 野村広二

名古屋は五六十年の美しさと 狂言の笑いを満喫させた。しかし 単純にその言い切れない「もの」を内蔵外現する能界であったことが 明暗の影を添える。多様な一年にメモ風の小さな展望を。

第一。今年の観世二流は、観世流の新風と宝生流の墨守が目立った。来名する観世東西のシテのなかに野村四郎(葛城・大和舞)武田邦弘(車仙)武田志房(仕舞)・宗和(仕舞・地頭)に因縁六(観世清和・舟弁慶の地頭と仕舞)ほかの諸氏の舞台が大観世の新世代を紹介して楽しかった。

片や宝生流は辰巳孝・内藤泰三

子、清和(観世)能舟井度(佳)安明(金春・仕舞)永隆(金剛)金尊(金尊)の仕舞と弱法師八義(金尊集能)の後見、これは同曲の舞台を大層引き締めてよかった。三君の登場は心広がる好話題であった。なお本年二月の観世会初会「翁」は清和・千歳清頭両君が勤めて行われ、英照君(宝生)の熊野が秋に約束されている。新しい花に期待したい。

第三。演能。新・鎮之丞氏(実盛・熊野・清経恋之音取八佳)の三番、石橋(小書付、観二・宝一)の三回(このうち新喜之の同曲は格別目ざまし)は大きな話題と言えよう。新・喜之披露曲は草子洗小町で、美しさが派手よりも、地味な味わいを示したことがすなおに心へ溶けこんだ。岡氏の持味にしたい。それと、阿漕(前述の英雄氏と金春兜実入るちかV氏)に善知鳥(外之浜風、橋岡久馬氏)の三好演も挙げたい。

第四は狂言のこと。今年はやるまい会・朝日狂言会・名古屋和泉会に八野村狂言の会が年末に催された。狂言の世界は、能同様広く、それぞれの特色を持つ。木六(野村又三郎)法師が母(井上松次郎)が大きく印象に残る。無布施(大蔵弥太郎)も佳い。

名古屋勢(狂言共同社)・やるまい会)では少年達の舞台がこの世界の将来を明るくした。重喜(井上清浩・松次郎、孫と祖父)齊葉(松次郎、孫と祖父)附子(信行・八野村又三郎)息・佐藤融八友(彦思)ほか。都雄君はもう大人の肩衣を着けてもらえる程の上背がある。少年の成長は早い。伝承の古風さにも新鮮さが加味されていくか。大きな課題である。

また大野弘之氏の間語り(実盛・葛城)は佳い。 第五。市民会館の道成寺(梅田邦久)は注目を浴び、それに十分応じた。また、劇場能としては戦後二回目(一回目は三十年前半の朝日五流能・本田秀男八故人・金春流)を、能を吊る竹が長くみえたが、能楽堂と同じ長さ(高さ)であった。劇場(舞台)の広さ

狂言 齋 煉 大野 弘之 佐藤 友彦 平子 福美 小沢 喜一

〔有料〕 主催 名古屋観世会

宝生 東京 都 練 馬 区 小 竹 町 一 の 五 〇 電 話 〇 三 三 九 五 五 四 七 九 五 番

清水 山 利 昭 弘

鬼 頭 金 季 信

具竹会 森 本 重 一 男

幸 圓 次 郎 千164 東京都中野区中央四一四七一 電話(三三八一)九四一三番

幸 義 太 郎 東京都中野区丸山二二二四 都立丸山アパート一号三二〇号 電話(三三七七)五六七二番

大倉 源 二 郎 千561 吹田市江坂町五丁目17-2 電話(三三六八)五六五六番

住 駒 陽 介 千920 金沢市片町一丁目二二一五 電話(〇七六二)〇五二四〇

幸 友 会 幸 弘 千177 東京都練馬区東大泉町六三三三 電話(〇三三九)二五五二

福 井 啓 次 郎 福 井 良 久 福 井 良 治 柳 原 富 司 忠

桂 後 藤 孝 一 郎 山 口 亮

角 井 俊 忠 保 忠 保 忠 雄 雄

安 福 春 雄 東京都杉並区天沼一丁目7-10 電話(〇三三)三九八八五六八五

飯 島 佐 之 六 千920 金沢市香林坊2-8-8

谷 口 正 喜 京都市上京区中立売通室町西入 室町スカイハイツ610号

寛 鉦 一 吉 田 定 男

前 川 光 隆 前 川 光 長 京都府京都市右京区御室芝橋町一の六 名古屋種古場 名古屋市中区東区栄町 ニッポンコープ 六階二八〇二号室

助 川 竜 夫 山 口 義 郎

長 生 会 鬼 頭 喜 太 郎 好 喜 太 郎 信

大 蔵 鬼 頭 英 二 愛知県中島郡平和町城西 電話(〇五五)〇一九六〇番

和 泉 元 秀

大 蔵 狂 言 会 大 蔵 彌 太 郎 義 嗣 郎 千215 川崎市多摩区岡上四三八一 電話(〇四四)九八七七一八七番

名 古 屋 和 泉 会 狂 言 共 同 社

茂 山 千 作 茂 山 千 五 郎 京都市上京区中筋通り石薬師上ル

狂 言 や る ま い 会 野 村 又 三 郎 千460 名古屋市中区正木二丁目16-25 電話(三三二)七五五三番

1月16日「神戸五流能」

2部制で能3番ずつ上演

「神戸五流能」(神戸市主催)は今回で第八回を数え、新春一月十六日(土)昼・夜の二部制で開催される。

◎第一部(午前十時始)
喜多流能「竹生鳥」(喜多長世)
「金剛流」(雪)金剛流 観世流能
「葵上」(観世元正)狂言「鼻取」(各一部料金)

耳目抄

数々の本

本年もよろしくお願ひいたします。大穴・小穴、目こぼしの程は幾重にもご容赦下さい。

初めに、年賀状を皆様からいただくのときどきに、〇〇〇〇〇〇(各組)の年賀はがきは、どの地方の誰が求めて、誰の手に「御慶」と届くのか、ふと想像するが、これは使わず大切に仕舞っておくのであろうか。123456の番号などはがきも。

さて、昨年末川瀬一馬博士にテレビ(NHK)でお目にかかる。「人間の知恵・日本最古の印刷」(十二・六)。去年宝生会の阿漕のとき、舞われる宝生英雄氏と川瀬先生は近頃頃でもよく水道橋へ参られますか」とときどき来て下さいませよ」と会話をかわした。毎年いただく年賀状の几重面(きちようめん)で連筆をお字通りに、そのときも温厚なお姿に接してうれしかった。川瀬さんは大の英雄さんびいきである。英雄氏の松風のこと載っている「花伝書七通」(松書店、昭二八)は懐かしい。花伝書七通の表紙がぼろぼろになつてきたが大事にしてあります。

なお安藤常次郎氏(元早大教授)は近年春の年賀をおやめになつて、暑中見舞をいただくことになった。かつて京都・高山寺へご調査のため上洛のとき寺でお目にかかった秋の思い出は今日昨日のようになり新しい。「能」の初期の執筆者である。どうぞお元気で。

相撲「善竹忠一郎」ほか仕舞。
◎第二部(午後三時始)
宝生流能「花月」(辰巳孝)金春流能「羽衣」(金春信高) 観世流能「船弁慶」(観世鎮之丞) 狂言「居杭」(茂山千作)ほか仕舞。入場料一階四千元、二階三千元(各一部料金)

放送。「芸能の成立と伝承」(大講堂) 三陽治雄・東京国立文化財研究所芸能部長。五六・十一・五七・三月。金。NHK教育テレビ。能・狂言と大いに関連)

本。昨年末実に多くの本が出る(既刊・未刊、未見の本あり)。
1. 万歳芸話(野村万蔵)故人書店
2. 能謡謡想(香西精著・表章編)《能謡謡想》ほか。故人の本五冊目。松書店
3. 能松鑑(百五十番)宇和島伊達家伝来。武田恒夫・中村保雄監修・執筆。淡交社。一万五千元。右二冊松書店(京都)より資料をいただく。

4. 二人静(武田太加志)全都婆(辰拾)関寺ほか。三月書房
5. 華の能・梅若五百年(増田正造編)能楽・能装束/歴史研究/年譜/座談会。序文・喜多史。講談社。七千八百円

6. 能楽の起源(正・統。後藤淑)《正》平安・鎌倉・室町各時代の猿楽。《室町》に狂言の特色。世阿弥の能一幽玄の花の項あり。《統》古代の繼承一神楽ほか。民俗と芸術の間一翁ほか。芸能史研究ノート拾遺一能の五番立ほか。木耳社。各七千五百円。大著)

7. なお五六・八月に「このて柏」(坂本欣司)故人。金春・金剛能を好む。同年一月の遺稿集。能古里留へのこりこめ、私家版)関連。後者に載る《我が友、太郎冠者達一吉田清三伝一能楽タイムズ四九・九月と十月》は名文。これも含まる。能楽書林)なお同書林には(本田安次・能及狂言考)丸岡大二・能を見る日々)の良書あり。殊に前者が新修版はなつかし。

新年の賀

三宅藤九郎 東京都豊島区北大家1-24-16	善竹忠一郎 神戸市東灘区御影町那家大蔵二	茂山忠三郎 京都市左京区北白川大雲町47-1 電話075(700)2011番	朝日文化センター 小鼓後藤孝一郎 丸米スカイル10階	熱田神宮能楽殿 仙田美千子 電話(六七)三九二番	栄能楽舞台 名古屋市中区栄五-四-二二 電話(二六二)一一八三番
---------------------------	-------------------------	--	----------------------------------	--------------------------------	--

楽風庵舞台 加納保一 名古屋市中区流川町四七-八三 電話(八三三)七〇〇番	葵心庵舞台 尾張旭市東大道町原田二四九三ノ二 若杉ビル(旭市役所南) 電話0561-50234番 能舞台 電話0561-50698番	演能写真 ウシマド写真工房 〒602 京都市上京区北野上七軒 電話052(522)一三四番	ビデオ撮影 西川企画 〒500 岐阜市北野町20-2 電話0582(9)九八六九番
--	--	--	--

昭和57年1月・2月 放送予定

●NHKラジオ第一放送(毎週日曜午前9時20分)

【57年1月】
10日(日)喜多流「草子洗小町」喜多長世ほか
17日(日)観世流「野郎」武田太加志ほか
24日(日)流流「法」片山博太郎ほか
31日(日)流流「山」三川泉ほか

【2月】
7日(日)宝生流「鉢」野村蘭作ほか
14日(日)生世流「行」橋岡久馬ほか
21日(日)金剛流「王」桜間金太郎ほか

●NHK-FM放送(毎週日曜午前7時10分)

【57年1月】
10日(日)観世流「老松」観世鎮之丞ほか
17日(日)世生流「巴人」近藤礼ほか
24日(日)流流「二福」山本真賀ほか
31日(日)流流「神」善竹十郎ほか

【2月】
7日(日)観世流「胡蝶」梅若六之丞ほか
14日(日)世生流「莫上」佐野萌ほか
21日(日)宝生流「昭君」喜多節世ほか

●NHKテレビ(教育テレビ)1月15日(祝)午前9時~10時
観世流能「小治」観世清和、森茂ほか
(放送予定につき変更のときはご了解下さい)

新年 魚伊

鮮魚 魚節 魚鯉

豊橋市魚町18 電話(52)5256
豊橋也留舞会連絡所 (山本浅太郎方)

櫓書店

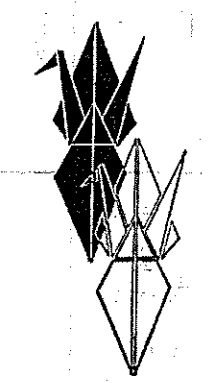
流元 剛行 金本 流本 世宗 観家

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入

電話(291)2488-9
振替東京3-3552
電話(231)1990
振替京都113

あなたに心をこめておくりする……


富士道の婚礼道具



家具の富士道

本社 名古屋市中区栄3丁目35番18号
ショールーム TEL代表(262)5547
工場 愛知県西加茂郡三好町 TEL(05613)2-1178

新しい視力の見直し—オプトメトリー—



明けまして おめでとう ございます

新しい視力の世界を拓く、玉水屋のサービスをご利用下さい。

定休火曜日 営業10時~7時

メガネの 玉水屋
なごや・栄交差点北西角 ☎961-1826代

日発行) 社 名古屋 観世九臈会定期能 能班女 観世喜之 能で、芸術の殿堂にふさわしい記念能であった。名古屋から小鼓方、能班客次郎、大鼓方、可憐な一節 神宮能楽殿で第十二回狂言会を開催する。



名古屋・本山駅 電 762-2434 代表

能楽の友

題字は熱田神宮 藤田宮司等

発行 能楽の友社

名古屋市千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
探検口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
一 部 70円

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

[2月]

14日(日) 名古屋観世会定式能 (有料) (番組①面)
20日(土) 名古屋観世九阜会定期能 (有料) (番組①面)
21日(日) 春鼓会大会 (来場歓迎) (番組①面)

[3月]

6日(土) 日本能楽会名古屋公演・能楽特別鑑賞会 (有料) (番組②面)
7日(日) 大蔵狂言会なごや会 (来場歓迎)
14日(日) 梅嶺会能 (有料) (番組②面)
21日(祭) 豊泉会大会 (来場歓迎) (番組②面)
22日(休) 名古屋泉楽会大会 (来場歓迎)

[4月]

4日(日) 豊星会大 (来場歓迎)
11日(日) 観世会定式能 (有料)
18日(日) 邦謡会大 (来場歓迎)
24日(土) 梅嶺会能 (来場歓迎)
25日(日) 久田観正 (来場歓迎)
29日(祭) 幸友会春の (来場歓迎)

[5月]

2日(日) 雄風会大 (来場歓迎)
3日(祭) 豊水会大 (来場歓迎)
5日(祭) 豊興会大 (来場歓迎)
8日(日) 明陽会定期能 (有料)
9日(日) 狂言やまの会公演 (有料)
15日(土) 一躍会叶石会大会 (来場歓迎)
22日(土) 一躍会叶石会大会 (来場歓迎)
23日(日) 観世会大 (来場歓迎)
30日(日) 鳳鳴会大 (来場歓迎)

(演能変更の節はご了承下さい)

大阪文化賞決る

本賞 観世流山本勝一師 奨励賞 ワキ方福王輝幸師

大阪府、大阪市、府教育委員会、市教育委員会共催による大阪文化賞は、昨年十一月に催された百四十四件の公演から本賞、奨励賞の受賞者を決定した。

能「景清」船弁慶

3月14日 梅嶺会能

名古屋梅嶺会では、三月十四日(日)五十七年度梅嶺会能楽会を熱田神宮能楽殿で開催、能「景清」(梅若盛義)「船弁慶」(熊沢忠美子)の能二番を上演する。会員券は自由席三千円、午前十一時始(番組②面掲載)

能舞台披露記念能

世界救世教熱海美術館がこのたび完成、同美術館に能楽堂が建設され、一月十五日舞台披露が催され、能「翁」(宝生英雄)「羽衣」(観世元正)「乱」(辰巳孝)「舞高砂」(喜多実)「八島」(金春信高)「園囃」(金剛殿)など五流宗家による上演

サンケイ観世能

2月28日 大阪サンケイホール 第29回サンケイ観世能は二月二十八日(日)大阪サンケイホールで開催される。

【第一部】能「巴」(梅若六之丞)「熊野」(大柳秀夫)「隅田川」(観世鏡之丞)「善界」(観世元昭)
【第二部】「清経」(観世喜之)「杜若」(観世元正)「恋重荷」(大西信久)「石橋」(上田照也)
世界救世教熱海美術館

名古屋観世九阜会定期能

57年度年4回公演

名古屋観世九阜会(会主観世喜之師)の昭和五十七年度定期能会は、きたる二月二十日(土)初会に始まり、年四回演能が行なわれる。各回とも午後一時始。

◎初会三月二十日(土)
(番組①面掲載)
◎第二回五月十五日(土)
◎第三回七月十七日(土)
◎納金九月二十五日(土)

素謡 頼政 シテ五木田武計、ワキ 小林喜久、ワキ五木田三郎、ワキ 素謡 葵上シテ佐々木勝輝、ツレ 高木美智子
能 善知鳥 観世喜之
能 杜若 有賀澄子
子方 高橋孝
ツレ 高木美智子
◎納金九月二十五日(土)
素謡 三輪シテ青木武弘、ワキ高橋孝一
ツレ 加藤保彦
能 清経 高木美智子
ツレ 駒瀬直也
能 山姥 観世喜之
毎回狂言、仕舞を予定。
会費全自由席一万円(四分一名)

名古屋観世会定式能(初回)

二月十四日(日)午前十一時始
熱田神宮能楽殿

演能案内

「えびす大黒」「飛越え」(神山住子、樽本道子)「太刀奪」(牛田敏明、田中幸子)「右近左近」(丹羽節、松川佳澄)「六地蔵」(榎しほり)「うつけ猿」そのほか東京、伊勢、関西地区会員による狂言も上演。午前十一時始、入場無料。

名古屋観世九阜会定期能(初回)

二月二十日(土)午後一時始
熱田神宮能楽殿

吉田 妙
西村 欽也 寛敏一
後藤孝一郎 寛三男
井上松次郎

高砂

飯富 雅介 吉田 定男
西村 欽也 古賀 裕巳
杉江 元 大倉長十郎
大倉 孝規 藤田 大五郎
観世 元昭 観世 元信

雲林院

観世 喜之
西村 欽也 河村総一郎
大野 弘之 福井啓次郎
藤田 昭彦

雲林院

西村 欽也 河村総一郎
大野 弘之 福井啓次郎
藤田 昭彦

雲林院

西村 欽也 河村総一郎
大野 弘之 福井啓次郎
藤田 昭彦

素袍落

茂山 千作 茂山 真吾
茂山 千五郎 茂山 千三郎
後見 茂山千三郎

素袍落

茂山 千作 茂山 真吾
茂山 千五郎 茂山 千三郎
後見 茂山千三郎

素袍落

茂山 千作 茂山 真吾
茂山 千五郎 茂山 千三郎
後見 茂山千三郎

素袍落

茂山 千作 茂山 真吾
茂山 千五郎 茂山 千三郎
後見 茂山千三郎

葵

梅田 邦久 観世 元正
江崎金治郎 河村総一郎
三木 末信 後藤孝一郎
松本 薫 鬼頭喜太郎
後見 坂井 音重 地謡 祖父江修一
河村 純二 武田 邦三
河村 純二 武田 邦三

葵

梅田 邦久 観世 元正
江崎金治郎 河村総一郎
三木 末信 後藤孝一郎
松本 薫 鬼頭喜太郎
後見 坂井 音重 地謡 祖父江修一
河村 純二 武田 邦三
河村 純二 武田 邦三

葵

梅田 邦久 観世 元正
江崎金治郎 河村総一郎
三木 末信 後藤孝一郎
松本 薫 鬼頭喜太郎
後見 坂井 音重 地謡 祖父江修一
河村 純二 武田 邦三
河村 純二 武田 邦三

葵

梅田 邦久 観世 元正
江崎金治郎 河村総一郎
三木 末信 後藤孝一郎
松本 薫 鬼頭喜太郎
後見 坂井 音重 地謡 祖父江修一
河村 純二 武田 邦三
河村 純二 武田 邦三

主催名古屋観世会
名古屋市中区和区山町一三五 内藤泰二方
電話 八三二一三四九番

正月雅日記

初春の海

二井栄逸

櫻島の噴煙は、時折もくもくとその量を増しては、峯にたゆたうようにしながら初春の空にうすれてゆく。

今年も元旦早々よいお天気で、爽やかな初日の光を、宮崎の大淀川河畔から眺めることが出来た。浅葱に澄んだ空は、一かげらの雲も無く日本晴。年を越してしまつた仕事もあつたけれど、おうよその仕事は暮れの日三十一日一ぱいにかたづけ、五十枚程書き残した年賀状は、旅先で書くことにして、三十一日の朝、此の南九州に旅立つてきた。

元朝より、平和台、都井御、日南海岸等を見て廻り鹿児島に着く。宿は、桜島を背に、前に錦江湾を見下ろした旅館で、私の好みの宿であつた。この宿は、林美英子が生れた家で、松林の中に、「花のいのちはみじかくて、苦しきことのみ多かりき」と、自筆の文句を刻んだ文学碑がひっそりと立っていた。

朝の海は静かであつた。正月のせい、一艘の船も無く、海面に散る陽の輝きだけが、無声映画を見るようにきらめいていた。昨夜、宿の窓からあかす眺めていた夜の海は、火の島を浮めた内海のせい、千古のロマンを秘めた山の湖のように静まりかえり、ひどく私の心をそそつた。

九州にも能のふるさとが多い。夫婦の別居生活から生じた股配による妻の内面性の嫉妬をえがいた名曲、船も其の内の一つ。はるばると玄界灘からの白波が打ちよせる遠賀川(おんががわ)の河口近くに能のふるさと、芦屋の里がある。

福岡県の朝倉郡の朝倉山西南の麓には、応神、斉明、天智の三帝をまつる皇蘇八幡宮があり、そのあたりが木の丸殿の跡だといふ。木の丸殿(きのまろどの)といふのは、丸木のまゝで削らずに造つた粗末な御殿のことをいい、とくに、筑前の朝倉山麓にある齊明天皇の行宮(あんぐう)をいう。その黒木の扉に仕えた庭掃の老人が、高貴の女性に恋慕することをつくつた能、鼓のふるさと、その朝倉山麓である。

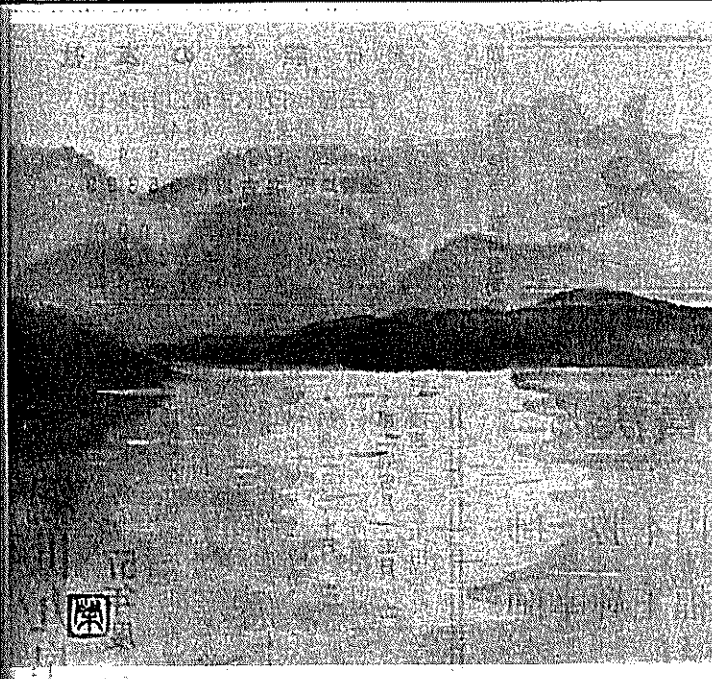
私共の喜多では、宝生流の鼓に独自の改修を加えて一曲が制定され、昭和二十七年十二月に現宗家が初演公表されている。昨日、過ぎてきた宮崎には、景清流があり、景清の能のふるさと、劇の境内には景清流や、人丸姫の流が静かな行まいを見せていた。

溶岩道路のところでどこに菜の花が咲きこぼれ、吹く風が春のようには暖かい。この大隅半島で唯一の手造り手描のさつま焼の窯元があるというので寄つて見る。

さつま焼は、白磁、黒磁に分類され、維新までは、白磁は歴代の殿様の愛玩用として造られ、黒磁は一般庶民の実用雑器として造られていたといふ。

噴煙と溶岩の中に、かたくなに伝統をまもりながら、ろくろを過しつづける無名の陶芸作家に、私は何となく心引かれる思いで色々を話した。茶碗、花入等、良いのがあつたので買求めて辞去した。外は、相変らず四月頃のような暖かき。えんどう豆の花や、ハイスカスの花さかり。

(五七、一、二、夜 島尾にて)



古典再現の難しさ

一美学的 研究的態度の所演や鑑賞、批判は是非とも必要だし、

これはまさに現代人の眼だ。狂言にもよりけりだが、時にはひどくじ

耳目抄

正月の放送と「狂言」

旧正月は一月二十五日、家の中に置いた鉢植えの梅は咲き切つたが、まだ余香がたつたよう。梅園のものはまだ蕾が固い。

さて、正月の邦楽放送では、三日の長老たちのテレビ放送に田中幾之助氏(宝生流)の仕舞・三山で「犬桜」のことは耳にする。今年の入えとVである。田中氏の健在を喜ぶ(NHK・教育、再)。

十五日は敬盛・二段之舞(鶴世清利)。新鮮な印象が目まぶしく佳演(同・教育)。

正月の一般の放送で目を引いた二・三のことは、まず例年は三か日過ぎて出るとおこなさまのCMが今年も昨年末から放送されていた。第二は三日間続いた争曲特集(三日、NHK・R)に名古屋が難波獅子(国風音楽講習会・生田流)を演奏。胡弓の音をきいた。久方振りでなつかしかった。第三にはやはり下旬のNHKテレビで「夢千代日記(純篇、吉永小百合、日曜日)」がはじまる。夢千代の家はあやさんに今度も夏川静江さんの姿をみたときだった。風格あり、芸の年輪に「老木の花」と言つた夏川さんの出演がうれしかった。中学生以来の夏川さん、「ひとり静」の物語(NHK・R、年月未詳)はいまだに忘れられない。

業のち同十四年独立、昭和六年東京音楽学校(現東京芸術大学)に邦楽科設立にともない嘱託として同二十二年退官まで音楽学校の中堅として生徒を育成。又、流儀の編本、大成版の編集にも助手として参加、同十四年左近師の急逝後は一層その完成に尽力された。

昭和三十三年重要無形文化財(能楽)の保持者として認定され、四十二年政府派遣文化使節能楽団として渡米、ニューヨークでは名誉市民章を受章、同年十一月勲四等瑞宝章に叙せられた。

昭和五十五年賞与と永年の功績を

藤波紫雪氏逝去

鶴世流シテ方・藤波紫雪氏(本名重男)は一月二十六日午前十一時五十分脳コウクのため東京都文京区・日本医科大学で逝去された。享年八十四歳。

告別式は二十九日午後一時から東京都港区六本木七―一七―一九の自宅で執り行なわれた。喪主は長男重和(しげかず)氏。

故藤波紫雪氏は、明治三十年生れ、埼玉県出身。大正四年先代宗家鶴世左近師に入門。十年間の修

放送

昨年未完結の「おんな太閤記」の終りは大原御幸をしのばせた。その前年の「草燃ゆる」の結びは伊東祐行(滝田栄)が平曲「菟園精舎の鐘の音云々」を語り、これを北条義時と別間で回想の政子が聴く場景であつた。冒頭は後者が東大寺南大門の仁王、前者は八雲の小面V(金剛家蔵)であつた(五五・十二月号関連)。

芸と人・佐藤友彦(邦楽小品集五六・十二月、狂言への情熱を、小謡福ノ神を謡う。FM愛知)。

同・三品正保(検校八けんぎよ)の、国風音楽講習会・生田流・名古屋所演、師の佐藤正和検校・平曲のことも。一月、同本。

狂言芸話(野村万蔵)。私の履歴書Vなど五章。写真四葉△晩年の万蔵・三番現はかV。あとがき古川久氏。わんや書店)。佳書。

「能や狂言では精神面を最も大事にします。技巧なり、小手先の芸は第二・第三に考えられるべきでしょう」(八狂言七十年V・狂言の芸の叢しき・昔と今の芸)。

各章の冒頭に俳句(自作)五句づつ載る。二二三。

花吹雪能楽まつりみて静か狂言に興がる人やかたつむり並べ千す能の面や秋の風

東海制菓業・数句(春日井建・朝日朝刊第一面。同氏は五十六年度名古屋市芸術奨励賞を受賞)

僧はたたく春哉(こう)門や日の始め(井原西鶴、一月四日)

本の一。

昨年末から一月にかけて新聞面で私の最大の関心事が三つ。まず「最後の晩餐」の修復・新事実発見Vの記事。私の初見は朝日(十二・八)。もちろんレオナルド・ダ・ヴィンチの画です。朝日で四回みる(一・十八)の文化欄まで。カラー写真三枚。くわし)ほかは芸術新潮(三月号、巻頭)それにテレビニュースでも見聞する(CBC、後六・三〇、十二・二九)胸細り、胸ふくらむ話題である。次は八生きていた化石・シラカス(魚)Vの記事です(東京文化欄ほか、三回掲載)。最近は一南極観測二五年の成果・地質構造一かつてゴンドワナ大陸の中心ほか(朝日、一・二八)が目玉を引いた。その頃日本内地では、(十二・二一)芸術祭大賞・奨励賞決まり(同・十七)明香村水落遺跡で「水時計」とみられる遺構発見(東京、五六年のおもなニュース(文化)より)。

観世流謡曲本

ちくさ正文館

ちくさ駅前

電話(四)1137

名古屋梅猶会能楽会番組

田中 米子
大坪由紀子
大橋 欣子
溝口万美恵

日本能楽会名古屋公演

能楽特別鑑賞会

三月六日(土)午後一時始

熱田 神宮 能楽殿

ソレ 武田 邦弘
天女久田 秀雄
片山博太郎

飯富 雅介
河村総一郎
福井啓次郎
助川 龍夫
三男

老 西村 欽也
水波之伝 杉江 元

飯富 雅介
河村総一郎
福井啓次郎
助川 龍夫
三男

福宜山伏 井上松次郎
野村又三郎
野村 信行

梅田 邦久
鶴世 元正

西村 欽也
福井啓次郎
藤田 昭彦

竹生 島 馬輝四夫
善知 鳥 大坪十喜雄
屋 島 野村 四郎
松 風 藤波 重和
天 鼓 上田 照也

後見 久田 秀雄
片山博太郎
地謡 本田 一敷
清沢 一政
後藤 未吉
野村 重和
武田 邦弘

内藤 泰二
宝生 英雄

阿次郎右衛門
後藤 孝一郎
寛 三男

吉田 定男
鬼頭喜太郎

佐藤 耕司
小沢 嘉一
鈴木 義久
馬輝四夫
大坪十喜雄
辰巳 孝
吉田 俊彦

佐藤 耕司
小沢 嘉一
鈴木 義久
馬輝四夫
大坪十喜雄
辰巳 孝
吉田 俊彦

佐藤 耕司
小沢 嘉一
鈴木 義久
馬輝四夫
大坪十喜雄
辰巳 孝
吉田 俊彦

佐藤 耕司
小沢 嘉一
鈴木 義久
馬輝四夫
大坪十喜雄
辰巳 孝
吉田 俊彦

佐藤 耕司
小沢 嘉一
鈴木 義久
馬輝四夫
大坪十喜雄
辰巳 孝
吉田 俊彦

古典再現の難しさ

一年末の舞台所感

前田 満穂

「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」

「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」

「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」

「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」

「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」
「おめでとう。」

能友随想

古川久・万蔵伝と
藤田六郎兵衛のこと

古川久氏が、昨年、一月から「野村万蔵伝の試み」を「能楽タイムズ」に書き始められ、十一月の六回を以て筆を一応止められた。狂言野の広さ、万蔵理解の深さに感服する。これが大著になる日を待望します。

古川さんは名古屋で出身の能楽研究の大先輩である。先年名古屋の国文学のそのまた大先輩石田元季氏の顕彰の記念講演会でお目にかかって以来久しく声援に接しな(その後しばらくして石田先生の「劇・近世文学論考」が世に出

「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を

「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を

「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を

「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を

「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を

「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を
「能はど一ジャンル」の教養人を

能友随想

古川久・万蔵伝と
藤田六郎兵衛のこと

古川久氏が、昨年、一月から「野村万蔵伝の試み」を「能楽タイムズ」に書き始められ、十一月の六回を以て筆を一応止められた。狂言野の広さ、万蔵理解の深さに感服する。これが大著になる日を待望します。

古川さんは名古屋で出身の能楽研究の大先輩である。先年名古屋の国文学のそのまた大先輩石田元季氏の顕彰の記念講演会でお目にかかって以来久しく声援に接しな(その後しばらくして石田先生の「劇・近世文学論考」が世に出

名古屋梅猶会能楽会番組

三月十四日(日)十一時始
熱田 神宮 能楽殿

山 姥 菊池 重郷
吉田 定男 鬼頭喜太郎
御原富司 寛三男
船沢恵美子 前川 芳周
梅若 和男

景 清 西村 欽也
河村総一郎 藤田 昭彦
福井啓次郎 前川 芳周
仲村 清男 梅若 和男
小沢 清男 梅若 和男
熊沢恵美子 梅若 和男
善高 善高

桶の酒 井上松次郎
井上礼之助 佐藤 友彦

巻 絹 梅若 修一
吉田 定男 鬼頭喜太郎
藤田 昭彦 前川 芳周
梅若 和男 梅若 和男
池内光之助 池内光之助

祝言

主催 名古屋梅猶会
後援 中日新聞

故伊藤正敏氏追善
壺泉大会
三月二十一日(日)午前九時始
熱田 神宮 能楽殿

番 三島 靈子 山本 正人
南方 幹子 泉 雅一郎
梅 克彦

連吟百(朝日文化センター)
大田中 由紀子
大橋 萬美恵
山野 明子
山野 明子
山野 明子
山野 明子
山野 明子
山野 明子
山野 明子
山野 明子
山野 明子

草子洗小町 子方 加藤 春枝
ツレ 鈴木 辰夫
大山 康 大城 彦男

盛山 姥 大堀 力男 石附 一二
小森 辰雄 八神 孝充

鉢 木 柴田うた子 宮部 悟
志村 尚

独調 弱法師 小山富美代 後藤孝一郎
市川 君夫 橋本 泰子

素恋 重荷 石川 晴子 寄田 嘉子
倉地 幸子 後藤孝一郎 藤田 昭彦

能野宮

野村又三郎

唐 船 石川 晴子 寛三男
藤 戸 鳥居千枝子 寛三男
熊 坂 中村 友紀 後藤孝一郎 鬼頭喜太郎
雲 院 富田 順子 寛三男 助川 龍夫
那 郎 泉 真澄 寛三男 助川 龍夫
賀 茂 加藤 春枝 寛三男 助川 龍夫
追加任舞 江 口 泉 泰孝
追加任舞 当 泉 成佳

追加任舞 融 泉 嘉夫 寛三男 助川 龍夫
追加任舞 当 泉 成佳 寛三男 助川 龍夫

師走の舞台から

野村狂言の会・義捐能・名古屋市青少年のための芸術劇場

竹尾邦太郎

「萩大名」。緑地に白抜竹文様...

無理強いされて洪々出掛けねば...

「吉野天人・天人揃」。後シテ...

「黒塚」。紫の引廻しが取られ...

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ!

舞姿の勉強と記念に是非どうぞ!

当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた...

お問い合わせは ビデオプロダクション 西川企画 TEL <0582> 63-9869 岐阜市北野町20-2



稀曲「庵の梅」と「木六駄」の上演

「千鳥」。付けが滑っているにも拘らず...

「附子」。太郎冠者(信行)...

後シテは小書に無かった替装束...

に福妻三巴文様唐織を着流し、右肩脱いだ姿は冷たい鱗光を放ち...

うに溜った女の業が然るのです。地謡・政允、榮逸他、囃子方...

Table with broadcast schedule for NHK Radio and FM, listing dates and programs like '遊玉花', '定家', '忠臣蔵'.

和泉元秀舞台四十年 三宅藤九郎奉祝賀祝賀 記念狂言会盛會...

Advertisement for 東山整形外科 (Higashi-yama Plastic Surgery) with contact info and address.

Advertisement for 面打教室 (Face Striking Classroom) and 面巧社 (Face Skill Society).

Advertisement for 城 (Castle) restaurant, featuring a map and menu items like '割烹・小料理'.

Advertisement for 蔵元直営 酒藏白龍 (Sake Brewery White Dragon) with address and phone number.

社 18 4 33 四月四日 57年度 青陽会定期能 切可(1)月9日、E1可(1)日

文部大臣賞 森茂好氏

豊星会大会

三月雅日記

雪間ぐさ 二井栄逸

冬の木立をかきたくなくなったので、お積古をすませると、すぐ車を山の辺に走らせた。来週は課題を冬木立にしたのでその教材の爲でもあった。門生達にもそれぞれスケッチをしてもらうように伝えておいた。スケッチは、同じものをやればやる程、内面的なものが分ってくるので、絵の勉強にはかかせないものの一つである。

裸形の美を見せる冬木立は、木の種類によって、もろもろの情趣をもっている。水墨画の教材にはもってこいの題材になる。

落葉樹の中には、クヌギやナナの木のように、枯れたまま冬を越し、春になつてから落葉するものもある。この種類の落葉はイナブナやサクラ、カエデのように、ササアサと散ってゆく思いきりの良い落葉ではないけれど、これはこれであつて、冬の風景になつてはならないものになる。

茶色の外登（がいろ）をからみつかせたようなカシワの木は、木枯らしが吹くたびにカサカサとなり、夜通し夢路をさましたげることがある。

青い衣をつけた常盤木は、冬木立に交つて、自分の豊かさをほこるかのよう、風にゆらゆらしている。この常盤木は、青い葉を落とさないで、春といわず、夏といわず、四季をわけて目だたないよう、新旧交代をしている。

写生を終えて、ふと、地面を見ると、赤松や、サクラの落葉にまじつて、シイの落葉が散つていた。そして、落葉の間に草の芽がそこはかとなく萌えているのを見て、私は、はつきりと春をたしかめたのであつた。

俳人は、この草の芽を雪間草（ゆきまぐさ）と、しめたことばが好まれるのでよく使う。

雪間草というのは、残雪が解け始める頃、ところどころに土の表面が現れるのを、雪間とか、雪のひまとか、又、雪の絶え間等と呼び、その地面に浅緑の絵具をぬつたように萌え出する草のことを



能面作家北沢如意 追憶展
能画家仙田雪山子

能面作家・北沢如意氏（昭和四十六年没・五十九才）能画家・仙田雪山子氏（昭和四十九年没・七十才）の追憶展が三月二十四日から二十七日まで四日間、京都市北区千本今出川の京都府ギャラリーで開催される。

出展は北沢氏作の能面約十五点（所蔵能楽師の方々の協力出展）仙田氏の絵画約十五点（東京観世会はじめ所蔵者の協力出展）。

発起人に金剛殿、片山博太郎、茂山千作、林屋三郎の諸氏、実行委員は中村保雄、渡会忠介、前西芳雄の諸氏、連絡所は京都市中京

春 夏 秋 冬

庵の梅と 眼福の二月

野村広二

一月三十一日、狂言・庵の梅をみて、この（八老女）は東洋（日本）が人生（人間）の理想像とする（老）のこの姿（カタチ）だと思つた。能にもこれはあるが、和泉元秀・庵の梅は父上・三宅藤九郎奉祝賀・和泉元秀舞台四十年記念の催しに舞われた。

昭和四十四年元秀改名・元弥初舞台・翌五五年和泉流歴代家元追善会・五六年元秀独演会に続く五七年当初の秘曲上演である。金剛に木六駄・秋大名・綱絢（あとの二曲は東京で受賞）をみせて、この（八老女）に挑む。昨秋東京で拙作（受賞）、そして名古屋で庵の梅といわゆる三老曲の二つをすませた。

藤九郎氏は当日木六駄を。

（八老女）はテレビで二回放送されている。五五年藤九郎氏、五六年茂山千作氏（NHK）。お二人ともそれぞれ放送前に舞台で動められている。これら近年五回みられた方もあろう。

格調高い藤九郎・庵の梅と残んの色香をただよわせる千作・同曲（八老女）の二題、小林實、能楽タイムズ、五五・五月開演、同感）に比べて、格調もあり、残んの色香もある元秀・同曲とみた。これは一方に徹するのを嫌ってその両方のよさを表現したか、そのどちらにも徹し切れなかったか、弁別を逃かすに過ぎないか、あるいは、あつた立派な去り行き、独り作り物のなかになつた姿、このあたりから、今度は自分がとどまるところまで行く。物腰の厚味を感じた。はじめは居並ぶ立派の紅（い）

（入り）の扮装が少し気にかつたが、それも次第に八老女のようなまの白梅のような（老）の気持に溶けこんでいった。「楽壇」の小舞もよい。アシライも。

藤九郎・木六駄。文字通り佳演で、「うすら舞は至善中の至善。」「木六駄へさろくだ」と改名したと答える間（ま）のよさも申分ない。他の出演者三人とのそれぞれの場面は見事に展開。（無心の芸）に出合った。

この二曲に対し、朝比奈（鬼・右近、朝比奈・万之丞）は狂言の一つの特色、眉のこらぬ楽しさを味わせる。万之丞・右近の「いさ」があい、基礎のしっかりした狂言芸から立ちのぼるうま味をほめた。

元弥少年は末広かりのシテ。進境目さまじ。

なお、五番のうち三番にアシライが入る。三曲とも同じ嚙り方でもれも各曲の曲趣を深め、多彩ならしめていた。

名古屋勢は庵の梅に、立衆へ井上祐一・佐藤友彦、後見に井上松次郎・礼之助（作り物）、野村又三郎（梅の木、根もとを白布でおおう）の各氏が出動。記録に残しておきたい。

名古屋の同曲は昭和十年すぎにまた大正をさかのぼって、ずっと明治の三十一年の二回、どちらも先代野村又三郎（信美）氏で演ぜられた記録があるが、くわしくはわからぬ。ちょっと参考までに申し添えたい。

二月は眼福の喜びつきぬ月であつた。能・狂言をみているときの社合（あそび）（楽しき）、二つに一番大切なもの（幽玄と笑ひ、それをみせる心にふれることの充実を痛切に感じた。呀えた芸が心を浮えかえらせ、ゆたかにする。

まず「翁」（十四日）。観世清和の翁は「天下泰平・国土安ん」と平和の祈りを立派に唱える。「鳴るは滝の水」と千歳・観世清和もすがすがし。翁・千歳の品のよさは無類。翁唄のあと、茂山千作の能（鉢木・梅田邦久、羽衣・長田鶴、舟弁慶・久田徹二）が力強く演じた。（五七・二七）

今回の演能は、第一日（四月二十六日）が能「熊野」村雨留（シテ観世鏡之丞、ツレ観世鏡夫、ツ

乗かつ剛の芸に千五郎のよさをみつけた。

今回は翁付高砂。西村敏也のワキ、（礼ワキ）の所作作法通り。神妙。シテ・観世元昭は性格活（い）き活きと格調あり、堂々たる住吉明神であつた。オモチ（後）は「タカ八廣」の由。眼がうつろにあき、異様で神秘的な面。前シテ（前半）には簡潔・素材なよさがあつた。

観世会（初会）の能はこれに葵上・観世元正。典雅と八心の鬼の深い交差がみる人の心をえぐって放さず、しかもわかりやすい演出であつたのもおもしろし。大小前に立つた姿は美し。

同会狂言は素袍落。太郎冠者・茂山千作がおぢ・千五郎の酌で次第に酷妙さ（めい）していきあたりの軽妙さは傑出。

先述の藤九郎のやわらかさと一味ちがう千作のやさしさ。佳看である。するどさもまた異なる。

前後したが、上旬遊行師・大坪十喜雄をみる。同氏近年にない傑作。前シテよし。後半に至つて、みどころ「しゅうきく」「引綱」のあたりはもちろん、後シテいや前後全体が八老女のように示して感服した。ワキととも合掌するところも思い深く、「一念十念」「念仏」などのことばに心を深く刻ませる。円熟円満。まさに「御さび」そのままであつた。

そして二十四日は雲林院「観世喜之、九早会初会」。これも佳演であつた。佳品が続く。前シテの緩急、後シテの優雅な業平の心とカタチを巧みに表現していた。後半シテ常座近く「しおる」袖から目付紐を「降るは春雨」のあたり（八老女）のところが優美にみせられた。舞もよい。業平の美を愛する心と自己告白が地味のなかに優雅を以て描かれ、それが業平の美の裏面を見事にみせ出した。たの味は新舞の真面目と言えよう。地味のよさが何とも言えぬ。地盤も揃い、囃子・圓狂言も佳。

なお、十一日は八老女の会。三つの能（鉢木・梅田邦久、羽衣・長田鶴、舟弁慶・久田徹二）が力強く演じた。（五七・二七）

名古屋邦謡会創立二十周年記念大会
四月十八日（日）午前九時始
熱田神宮能楽殿

神歌	弱法師	大原御幸	独吟
右 磯谷行雄 千原正義 左 伊藤健一	右 須谷 君子 左 須谷 君子 中村百合子	右 日比野喜子 左 日比野喜子	右 駒之段 佐藤 英生 左 鐘之段 都築正三郎 横山 貞史

小袖曾我
問 後藤 敏一 寛 三男
佐藤 友彦

木賊	恋重荷	獨吟	羽衣
右 増田 仁美 左 水野 光子	右 岡田 春江 左 兼田 元次 杉藤 芳男	右 今沢 美和 左 久田 秀雄 地謡 安藤 勝朗 加藤 保彦	右 西川喜代子 左 後藤 孝二 寛 三男 後藤 孝二

道成寺
塚 坂野 喜子 小田 澄子
西矢 義雄 梅田 邦久
善財 和男

船弁慶	玄	仕舞
右 徳田 文代 左 河村総一郎 福井啓次郎 藤田 昭彦	右 象 菅瀬 由子 左 福井啓次郎 藤田 昭彦	右 白楽天 左 加藤 井知子 河村総一郎 鬼頭喜太郎

高砂 羽田 雅子
高砂 羽田 雅子

至芸の演能を鑑賞

（綾波）（シテ宝生英雄）観世流
獨特の謡曲之舞の小書つき「千手」（シテ観世元正、ツレ梅田邦

（頭金剛殿）
能「小鍛冶」（シテ広田泰能、ワキ谷田宗二朗、笛杉市和、小鼓

今回の演能は、第一日（四月二十六日）が能「熊野」村雨留（シテ観世鏡之丞、ツレ観世鏡夫、ツ

（面邦謡会記念大会つき）
増田 仁美

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中区千種区千種2丁目18-18 (郵便番号 464) 電話 (731) 7984 振替口座 名古屋0-36393 購読料 1年 700円 郵送の場合 1年 1200円 一部 70円

題字は熱田神宮 篠田宮司筆

能 楽 の 友

若い御二人の門出に ふさわしい結婚式場 名古屋 若宮八幡社 各種会合や宴会にも御利用下さい (駐車場完備) 名古屋市中区栄3丁目35-30 電話 (241) 0810

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

Calendar of performances from April to July, listing dates, event names, and ticket information.

(演能変更の際はご了承下さい)

人間国宝に 鶴沢寿氏

大倉流小鼓方の名手

文化財保護委員会は、四月二日 人間国宝(重要無形文化財保持者)として、能楽子方・小鼓の鶴沢寿氏(七三)など七人を認定する...

定期能・記念大会など 各会多彩な演能 4・5月の熱田能楽殿

熱田神宮能楽殿での四月、五月の演能は、青陽会、九早会の各定期能、および狂言やるまい会公演...

五月は第一日曜の二日に、観世流下田雄三師が五十五周年を記念して、名古屋、一宮、岐阜、高山、萩原、下呂などの会員による...

はじめ各社中の春季大会、進善大会など多彩に催される。四月は、十八日が名古屋邦謡会創立二十周年記念大会で能「小袖曾我」と「百萬」...

名古屋 猫頭会春の大会

四月二十四日(土)午前九時始 熱田 神宮 能楽殿

Cast list for the Spring Meeting of the Nagono Nekozumi, listing names and roles.

故上田隆一師三十三回忌追善 久田観正会大会

四月二十五日(日)午前九時始 熱田 神宮 能楽殿

Cast list for the Memorial Service for Master Ueda Takao and the Kida Kansei Meeting, listing names and roles.

各地だより

大阪

能楽堂再建に向けて関係者の努力が続けられて...

東京

故郷者春雄十七回忌追善能は、五月十五日...

京都

京都新聞社主催「謡曲仕舞教室」は創設以来...

三階、地下一階、鉄筋コンクリート造り...

梅若春雄会(豊中市新千里南町三丁目一八一〜二)

金剛流謡曲・仕舞教室開講

京都新聞社主催「謡曲仕舞教室」は創設以来...

演能案内

第二十六期第一回 青陽会定期能

五月九日(日)午前十時半始

Table listing performers and roles for the 26th period of the Shōyōkai regular performance.

名古屋観世九臈会定期能(第二回)

五月十五日(土)午後一時始

Table listing performers and roles for the 2nd regular performance of the Nagoya Kansei Kyūryūgwa.

第25回記念公演

野村又三郎の三番叟上演

Table listing performers and roles for the 25th anniversary performance.

鳳鳴会大会

五月三十日(日)午前九時三十分始

Large table listing performers and roles for the Hōmeigwa Grand Meeting.

熱田祭奉納能

梅若春雄、梅若修一、井戸和男、森茂好はじめ狂言方野村万作、中...

一謡会・叶石会大会

五月二十二日(土)午前九時始

名古屋観衛会春の大会

五月二十三日(日)午前十時始

多岐伝書の中でも最初に書かれた伝書で、能の修業、演出等に関する...

観能独語

微妙な舞台と見所の関係

観世会を見て感あり

四月の観世会を見ました。片山博太郎の「田村」と、橋岡久共の「小垣」。まずは観世会...

後方の席でも見えます。前通ると足元のハコビがよく見えない。後通ると目の表情がわからない...

卒都婆小町上演

大観清韻会は、六月六日(日)午前九時から熱田神社能楽殿で...

この二日間の自演会を、六月六日午後二時から鑑賞能が開催される...

東京 散る花の会

師主宰の第八回公演が六月十九日、東京渋谷区松涛の観世能楽堂で...

能「狂言」を新設 野村又三郎氏が指導 中日文化センター...

鑑賞能「殺生石」

6月26日 熱田能楽殿で 全国宝生流学生連盟主催...

鑑賞能は一般千五百円、学生八百円。後援名古屋宝生会。

散る花の会公演 6月19日「芭蕉」「班女」自由席五千円、学生席二千五百円

能「殺生石」(シテ宝生英照、ワキ西村欽也、笛三男、小鼓福井啓次郎、大鼓算盤一、太鼓助川龍夫、地謡辰巳孝ほか)

清韻会能追善別会

六月六日(日)午前十時半始 熱田神社能楽殿

能清 松 虫 今村嘉勇 三島憲 近藤上田 拓幸 赤松田 禎友

能卒都婆小町 大観 秀夫 岡次郎若筒 福井啓次郎 算三男

能船弁慶 松山 忠司 近藤 幸江 西村 欽也 鬼頭 英二 飯富 雅介 山口 亮

観世会定式能(第三回)

六月十三日(日)午後一時始 熱田神社能楽殿

杜 若 梅若 紀彰 西村 欽也 河村 総一郎 福井啓次郎

藤 戸 大観 秀夫 谷田宗二朗 飯富 雅介 後藤 孝一郎

附祝言 主催名古屋観世会 (終了予定五時半頃)

Table with NHKラジオ第2放送 and NHK-FM放送 schedules for May and June 1977.

番外一訓「土車」(山本勝一、大倉長十郎)「放下僧」(山本順之、久田舜一郎)が演じられた。

「御来場歓迎」 主催 鳳 後援 中日 鳴新 関会

百名の方に当社で優待印を押して返信ハガキをお送りしますの...

吉田雅日記

無駄でない無駄

二井栄逸

紫陽花いろの長袖。時には透けて見え、時には金色に輝き、六条御息所はあやしいまでに美しく浮え返る。虚飾の無い世界なるが故にシテの姿がこんなにも美しく華麗に見えるのだろうか。能は枯淡と華麗が同居する不思議な世界である。

ものゝ音とも絶え絶えに聞えたる、
いと艶なり。
(源氏物語賢木巻の巻)
昔、四谷の舞台に居た頃、作家

の吉田絃二郎さんが能を見に来られたことを覚えていた。吉田さんは、本三番、特に野宮がお好きで、著書の「島の秋」は、能からにじみ出る幽玄のたゞよいが感じられて好きである。

私は師(喜多真師)から、芸は遠廻りをしなければいけないよ、と教えられたことがあった。その頃は若かったので、遠廻りということがいかに大事なことであるかを、今のうちに心に徹してはいなかった。遠廻りをする無駄は、ほんとうは必要な無駄であることを今もって痛感している。無駄でない無駄。わけても能の世界

や、絵の世界ではこの無駄を一番大切にしている。無駄は大切にしているが、余計な要素、無駄なものはいりすぎると閉め出してしまうものもある。遠廻りする心の作用と、余計なものさびしい工程なのである。

日本美術をよく理解したアメリカの哲学者、フェノロサは、岡倉天心とともに美術学校を創設した人であったが、そのフェノロサは能について次のようなことを言っていた。

能の美しさと力とは集中に存する。あらゆる要因——装束、動作、詩文、音楽——は、あの単一明瞭な印象を生み出すように結合する。おのおのの戯曲は、何かしら根源的な人間関係や情緒を表現し、これらもつ時的な甘さや辛さは、横断的写真主義や卑俗な煽情主義が要求するような、あらゆる余計な要素の、注意深い閉め出しによって、その最高次元に到達させられる。

一線もゆるがせに出来ないきびしさ。華麗な六条御息所の装束の下には、汗にまみれた筋肉が隆起と盛り上がり、渾身の力をふりよほして、今、野宮を舞い納めようとする能楽師の情熱が溢れまくる。人には見えない力の集結があのような枯淡と華麗の光を放つのである。



能「揚貴妃」など
7月4日 山本定期能
山本定期能楽会は七月四日、大阪・山本能楽堂で開演。

能「揚貴妃」干之掛り(シテ山本勝一)「融」クツロギ(シテ松浦信一郎)「素謡」小督(シテ安田友三郎)「狂言」伯義(善竹忠重ほか)上演。十二時半始。

能「揚貴妃」干之掛り(シテ山本勝一)「融」クツロギ(シテ松浦信一郎)「素謡」小督(シテ安田友三郎)「狂言」伯義(善竹忠重ほか)上演。十二時半始。

能「揚貴妃」干之掛り(シテ山本勝一)「融」クツロギ(シテ松浦信一郎)「素謡」小督(シテ安田友三郎)「狂言」伯義(善竹忠重ほか)上演。十二時半始。

能「揚貴妃」干之掛り(シテ山本勝一)「融」クツロギ(シテ松浦信一郎)「素謡」小督(シテ安田友三郎)「狂言」伯義(善竹忠重ほか)上演。十二時半始。

狂言の装束(肩衣)展

名古屋狂言 共同社所蔵 昭和美術館で開催

名古屋狂言共同社所蔵の狂言の装束展が五月二十五日から七月二十五日まで名古屋市の昭和区昭和美術館で開催されている。展示は狂言装束のうち肩衣を主として約六十点。そのほか面、狂言の台本も出展。入場料一般三百円、学生二百円、六月二十二日より展示の入れかえが行われる。主催は昭和美術館、名古屋狂言共同社、雑誌維新会中部支部で愛知県名古屋各教育委員会が後援。なお、この催しを記念して、六月二十七日(日)午後一時から昭和美術館で、「名古屋の和泉流狂言について」狂言師佐藤友彦氏、「肩衣の染色技法について」名古屋工業大学講師堀江勤之助氏により講演会が行われる。聴講料千円(電話予約制)。昭和美術館は昭和区沙見町四番地ノ一、電話(〇五二)八三二一五八五二番、月曜及び祝日の翌日は休館。

能「揚貴妃」干之掛り(シテ山本勝一)「融」クツロギ(シテ松浦信一郎)「素謡」小督(シテ安田友三郎)「狂言」伯義(善竹忠重ほか)上演。十二時半始。

能「揚貴妃」干之掛り(シテ山本勝一)「融」クツロギ(シテ松浦信一郎)「素謡」小督(シテ安田友三郎)「狂言」伯義(善竹忠重ほか)上演。十二時半始。

能「揚貴妃」干之掛り(シテ山本勝一)「融」クツロギ(シテ松浦信一郎)「素謡」小督(シテ安田友三郎)「狂言」伯義(善竹忠重ほか)上演。十二時半始。

能「揚貴妃」干之掛り(シテ山本勝一)「融」クツロギ(シテ松浦信一郎)「素謡」小督(シテ安田友三郎)「狂言」伯義(善竹忠重ほか)上演。十二時半始。

能「揚貴妃」干之掛り(シテ山本勝一)「融」クツロギ(シテ松浦信一郎)「素謡」小督(シテ安田友三郎)「狂言」伯義(善竹忠重ほか)上演。十二時半始。

能「揚貴妃」干之掛り(シテ山本勝一)「融」クツロギ(シテ松浦信一郎)「素謡」小督(シテ安田友三郎)「狂言」伯義(善竹忠重ほか)上演。十二時半始。

熟年・又三郎が好演

だし、演目の順序、配列、演者の配役には一層の気配りが大切だが

毒な気がしないでもない。——「二人袴」の舞に信行は子供

邦謡会能

第十七回名古屋新能

第二十四回 朝日狂言会
七月十一日(日)午後二時始
熱田神宮能楽殿

三本柱 井上松次郎
佐渡狐 茂山千之丞
千鳥 和泉元秀
鈍太郎 茂山千五郎
首引 井上祐一

能班 西村敏也
狂言鬼 飯富雅介
瓦 井上松次郎
高橋 野村又三郎
瀧 西村敏也

能阿 西村敏也
能班 飯富雅介
狂言鬼 井上松次郎
瓦 野村又三郎
高橋 西村敏也

能阿 西村敏也
能班 飯富雅介
狂言鬼 井上松次郎
瓦 野村又三郎
高橋 西村敏也

能阿 西村敏也
能班 飯富雅介
狂言鬼 井上松次郎
瓦 野村又三郎
高橋 西村敏也

能阿 西村敏也
能班 飯富雅介
狂言鬼 井上松次郎
瓦 野村又三郎
高橋 西村敏也

能阿 西村敏也
能班 飯富雅介
狂言鬼 井上松次郎
瓦 野村又三郎
高橋 西村敏也

能阿 西村敏也
能班 飯富雅介
狂言鬼 井上松次郎
瓦 野村又三郎
高橋 西村敏也

能阿 西村敏也
能班 飯富雅介
狂言鬼 井上松次郎
瓦 野村又三郎
高橋 西村敏也

其肩社、秘傳守会中部支部で愛知県名古屋市中教育委員会が後援。五八二番、月曜及び祝日の翌日は休館。この催しを記念して、六

熟年・又三郎が好演

25回やるまい会記念公演

前田 満穂

「第二十五回記念公演とうたっただけに、見たえのある会だ。特にうれしかったのはね。内容の幅の広さ、神事かりの「三番度」にはまって、すっぱ物の「茶室」能もどきの「祐善」独り狂言の「見物左門」語の「文蔵」舞入りの「二人袴」と、狂言のいろんなジャンルの代表作を揃えたことだ。

「同感。実にバラニテイに富んだ番組。これだけ狂言が普及して来ると、月並みな当り狂言をならべただけでは「またか」という見所が増える。そこが能と違う狂言の弱みと強み、わかり易く、とつき易いだけに、また飽きが来るとも早い。古典の強味に安住している、マンネリの反動が必ず来る。

「見所の目が肥えているのだから、思い切った稀曲の上演、座曲の復活など大いにやるべしだ。た

耳目抄

肩衣展と能面の本(金剛流)のこと

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「この欄担当大岡信氏。これは和漢朗詠集・巻下・八晴Vよりとられる。清漪とはささなみ、梅雨の晴れ間を都良香が詠んだとのこと。良香は平安前期の漢詩人・漢学者。担当著述。八都良香Vのことは香西精(故人)氏に八とうきよう考V(都良香の立念)の卓見の文章がある。声をあげて右の詩をよみながら、色々の思い出をたぐって懐かしかった。

「この欄担当大岡信氏。これは和漢朗詠集・巻下・八晴Vよりとられる。清漪とはささなみ、梅雨の晴れ間を都良香が詠んだとのこと。良香は平安前期の漢詩人・漢学者。担当著述。八都良香Vのことは香西精(故人)氏に八とうきよう考V(都良香の立念)の卓見の文章がある。声をあげて右の詩をよみながら、色々の思い出をたぐって懐かしかった。

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「折々のうた」(朝日五・二十朝刊。第一面)に都良香(みやこのよし)の漢詩(対句)が載る。雲霧落し消えて天の膚へはたえVを解く/風清漪(せいせい)を動かして水の面敷めり

「御来場歓迎」主催 名古屋桐葉会 前川光 長隆

邦謡会能

七月十八日(日)午前十時半始
熱田神宮能楽殿

小 素 能
トモ宮川 千寿
ツレ 鈴木志子
加賀 吉成
池田 米寿
地謡 清沢 一勝
須賀 敏政

寢 能
前ツレ 本田 繁
天人 小田 美子
神 須賀 敏政
神 須賀 敏政
神 須賀 敏政
梅田 邦久

伯 能
清沢 一政
飯富 雅介
福井啓次郎
寛 敏一
鬼頭喜太郎
三男

杜 能
後見 半田 智子
梅田 邦久
地謡 池田 米寿
加賀 敏政
須賀 敏政
久田 敏政

琴 能
後見 飯富 雅介
梅田 邦久
地謡 池田 米寿
加賀 敏政
須賀 敏政
久田 敏政

井 能
後見 飯富 雅介
梅田 邦久
地謡 池田 米寿
加賀 敏政
須賀 敏政
久田 敏政

山 能
後見 飯富 雅介
梅田 邦久
地謡 池田 米寿
加賀 敏政
須賀 敏政
久田 敏政

鉄 能
後見 飯富 雅介
梅田 邦久
地謡 池田 米寿
加賀 敏政
須賀 敏政
久田 敏政

附祝言 主催 邦謡会

要招待券 名古屋市中区和区台町2-16-5
電話(841)4632番

第十七回名古屋新能

八月七日(土)午後五時半始(雨天)
熱田神宮神楽殿前(仮設舞台)

能 組
船 竹市 幸司 鬼頭 英二
山口 亮
地謡 東田 康文
日比野 圭昭
菊川 三春
百々 康治
鹿取 希世
助川 竜夫

卷 能
絹 吉田 妙
地謡 高木 美智子
近藤 幸江
高木 美智子
高木 美智子
高木 美智子

野 能
守 梅田 邦久
地謡 須賀 敏政
加賀 敏政
須賀 敏政
久田 敏政

御入式 熱田神宮神楽司 長谷 晴男
御挨拶 名古屋市長 本山 政雄

橋弁慶 後見 飯富 雅介
梅田 邦久
地謡 池田 米寿
加賀 敏政
須賀 敏政
久田 敏政

半部 後見 飯富 雅介
梅田 邦久
地謡 池田 米寿
加賀 敏政
須賀 敏政
久田 敏政

茶 能
赤清沢 一政
赤祖父江 修一
赤中川 雅章
白小島 一英
大獅子 飯富 雅介
河村 敏二
安藤 敏政
高橋 敏政
中村 和男
犬飼 末吉

石 能
後見 飯富 雅介
梅田 邦久
地謡 池田 米寿
加賀 敏政
須賀 敏政
久田 敏政

前売 千五百円
当日 二千円

主催 能楽協会名古屋支部
熱田神宮

名古屋市中区和区台町2-16-5
電話(841)4632番

要招待券

名古屋市中区和区台町2-16-5
電話(841)4632番

五月の舞台から

「やるまい会」公演

竹尾 邦 太郎

第25回公演を自祝して催主又三郎が「三番更」を勤めます。切戸から唯子方(幸政・啓次郎・良久・富司忠・総一郎)が座付くと本幕で千歳(耕介)が、続いて三番更が出て一ノ松に下居すると小鼓が響き出します。黒に粉うかチンの直垂上下は、曲亀に短小松とを散らし祝典の気分が溢れます。

去る四月廿九日、豊橋狂言特別鑑賞会の十周年を記念して、又三郎は紋服・袴で三番更を勤めましたが、慎重が深長にも通ずる敬度な舞台は今日も同じです。採ノ段での鳥跳びのしなやかな踊り。鈴ノ段は単調なリズムに憑かれたように舞台を廻る四肢に、タメにタメた強靱な力がさらりと出て心惜いばかりです。当地には珍らしい一噌幸政の力強い笛も印象に残ります。(38分)

「茶室」・利智格みで一方が他方に追いつくとき、その真似事のラな店で、近寄ることもなかった。それが、二年間の病氣養生後大(学)科(昭八、立教)に入る。一時間目の授業が始まる鐘の音をきいてから教室へ駆けつける程近い親代りのS家に居て、米田から留学のT司教に私が日本語を、神父さんから英語を暇なとき読んでもらうことになった。東京丸善で、シンクレア・ルイスの「パピット」を買ってもらった。私には難しかった。予科三年のときである。はじめて丸善へ足を運んだときであらう。それと前後して、名古屋の店でも、紙(ペーパー)・ナイフを求めた。英文科に進むことになって、假名(と)じの(英語青年)「研究社」を購読するためである。セルロイドの約三十個位の諸列式のもの。微妙な反(そ)りがついていて、その反り工合が今以て愛され、重宝している。たしか一円したとおぼえていた。

「見物左衛門」・稀出曲。かつて藤九郎が当地和泉会(40年11月20日)で演じた。シテ・万之丞。一人狂言ですが歴史とした本狂言。しかし後見はありません。白浅黄段裂斗目、茶長袴、前黄茶白段のしじら織風の袖を腰にたくし上げて並折に掛け、右腰に飄箆を下げます。遊治郎然としていますが、風流を愛する人品早しからぬ風格は万之丞のもので、春の一日、誘った友誼園呂左衛門不在のまま桜狩りに出掛ける見物左衛門の飄々として花を楽しむ様を万之丞は酔余の小説や小舞に託してしつとりと囁く舞います。「海道下り」で酒席を小さく廻ると、長袴の裾が飄箆に触って倒れるのも酔の亢進とも見え、

流れ際に打たれた「アイトノ」も東の間の覚醒で、意識は魚釣、殿上人の舟遊びへと浮遊してホウヒドロンと楽の真似を頂点に御室・北野・平野の花を勧められるのを断って、へ名残の袖を振りきりて、と權戀へ向います。咲きも残らず散りも始めず、の満架の桜に惜春の情を見せる万之丞の好舞台です。(31分)

「文蔵」語り。万作、水色長上下で床凡にかかり、めりはりの利いたリズム・カルな合戦譚は爽快ですが、「見物左衛門」の後では印象薄く損です。本狂言で意味な太郎冠者との取り取りの中に生彩もあろうかと思われず。(15分)

「二人袴」・又三郎・信行が役の上でも父子。身長差をあまり感じさせないのはよいのですが、又三郎が気を遣い過ぎ、袴を穿くのに焦りがあり、つい右足が袴を踏み外しがちでそれが愛敬でもありす。別(万之丞)の「一擧一動は気さくな人ぢやなあ」、は精一杯の信行への戯とも聞かれます。キリは小舞「セツ子」。高音が声調期の信行の課題となるでしょう。(37分)

クも丸善のを用いさせてもらった。長い間、これには運命的な思ひ出があるが、終戦当時の丸善の様子とともに書く。さて眼目の本のことである。能の本を京都から取り寄せていた。いたときは大層お世話になった。世阿弥の「花伝書」の英訳本である。昭和四十三年。里井陸郎氏(金剛殿・息永藤二代に國文学を教えられた)ほか(五名)の方々による著作。「増」ほか金剛殿の能面と演能の写真が文中に入り(一頁大)巻末に註も付く(良書)。このときK氏に面をおかかけた。行きつけの書店ではこうい、いわゆる、個人出版は取り次ぎがでなかつた。クセノフオンのヘアナシス、ペイターのヘルネッサンズ、ヘジョンソン伝・オックスフォード版)のときも随分ご厄介をかける。

「お知らせ」前号①面「演能カレンダール」のうち、8月1日・名古屋官庁実業園生流素謡会は延期となりました。

謡会、御声会、岐阜淡交会、岐阜会、岐阜英会、花謡会、玉昭会、朗声会、岐阜謡英会など(順不同)の各社中があり、その交流と親睦に大きな役割をもつものと期待される。創刊号では、藤田岐阜市長の祝辞、岐阜謡英会白木豊会長のあいさつ、片山博太郎、中村利男、後藤孝一郎諸師の祝辞、各社中の行事一覽、社中の横顔、会則を掲載。さらに「岐阜謡英会の歩み」が記録されている。同会の事務所は岐阜市神田町八一九、白木ビル二階、電話(〇五八二)六五三三八七

能友随想

丸善の小さな思

い出・能の本

右の副題どおり、丸善愛顧の方々には比べたら、私など物の数にも入りませぬ。さりながら私にとつて丸善とは、書籍文化の受容上大きな存在と蓄えましょう。名古屋支店は本年が開設六十周年に当る。創立は明治七年。実はそれより先明治二年に横浜創業、翌三年東京に本店が置かれる。へマルゼン・ガイド三月号へ丸善誕生記・福沢諭吉と早矢仕有的の出会い(朝日三・十七、同広告部制作)にくわしい。早矢仕有的(はやし・ゆうてき)氏は岐阜県出身、名古屋とも関係が深い。丸善の初代社長である。中学時代(明倫)には丸善と言えば、縁遠い洋書と舶来のパーバリー・コート(英國製)のハイカー

「岐阜能楽同好会だより」を発売

岐阜市に能舞台をという多にわたる要望と運動が実って二年前の昭和五十五年に能舞台が建設され、その記念誌曲大会が同年四月六日催され(本紙五年三月号)岐阜市の演能の中心になっていくが、建設運動のなかで、愛好者により「岐阜能楽同好会」が結成され、昭和五十六年「岐阜能楽同好会」と改称、有料能、会員の能楽大会など開催して能楽の発展、普及につとめているが、このたび同会により、「岐阜能楽同好会だより」が発刊された。岐阜市には、岐阜謡英会、土筆会、岐阜淡交会、松和会、梅田邦

昭和57年6月・7月放送予定

Table with NHK ラジオ第2放送 (毎週日曜日午前9時30分) and NHK・FM放送 (毎週日曜日午前7時10分) columns. Lists broadcast dates and programs for June and July.

料理 あつた 菜軒 本店 熱田区神戸町三四 電話(07)868618 熱田区新宮坂町一 電話(682)5598(代表)

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ! 舞姿の勉強と記念に是非どうぞ! 当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きつとご満足いただける自信があります。お問合わせは ビデオプロダクション 西川企画 TEL <0582> 63-9869 岐阜市北野町20-2

面打教室 於名古屋・栄 朝日神社 毎週木曜日(月4回)午後5.30~8.00 指導 林龍雲 面巧社 電話問合せ <052> 211-4451 教室の見学・面能お求めになりたい方 お気軽にお越し下さい

目 正しいメガネでしあわせを... 目進堂 名古屋市西区那古野2-20-23(円頓寺本町) 451 TEL (571) 6181-3

社 定員 暑中御伺い申し上げます 山本 初陽 会

五月雅日記

アイウエオ

二井栄逸

梅雨が明けたのではないかと、思う位爽やかな日でした。青葉のそよぎが殊のほか美しい。町も、畑も、遠くに見える山々も生き生きと見えます。ツクパネウツギが咲きかけ、あじさいやリリヤの花も美しいこの頃です。ツクパネウツギは開花期間がながく、今年も又、ひと夏の友となってくれらるゝとでしよう。

そんな或る日。出稽古先の門前までくると、予習をしていたのか、謡の音がきこえてきました。垣根からそっと座敷の方を見ると、キチンと正座をして、庭の青葉のそよぎに見えがくれしながら、門下の面々が二人静を謡っているのです。

私は、その時、オヤッと思いました。どうも、この謡より、生み字がとてきれいにきこえるのでした。その生み字(誼み字とも)のことについては、こないだ門葉の一人から質問がありましたので、いつとき実技を加えての指導を行ったのでした。どうも、門下達はその実技指導のゼミナールをやっているようなのです。

生み字というのは母音(はいん)のこと、謡ではこの母音を生

す。これは謡曲だけにとどまらず、すべての歌にも通することではないでしょうか。

私は、よく門下のみなさんに、発音、発声、構えの三つを忘れないように注意します。

美しい言葉を発するのは子音の役目。その美しい発音に緩急、濃淡、深さ、はり等を扮飾するのは母音の役目。そして、この二つの調子を往々せず、内にひかかって力をこめる(実は外に向って飛翔する)のが構えの役目だということです。構えは背筋をのびし、肩を構えた姿のことを言います。

のどを開き、あごにも舌にも、歯にもあてないで腹から声を出せと先哲は教えています。



喉頭の声帯、気管、口腔、舌、鼻腔を発音器といいますが、これが正しくはたらけば美しい言葉が発音されます。母音、すなわち生み字はどの開閉によって波長がかわって参りますが、韻特有の首律はこの母音によってつくられてゆくのですね。子音によって発せられた言葉に母音が伴って歌になる理です。子音は、舌とくちびるの動きで発せられますが母音はそのまま腹の底から真つすぐにおうらかな音波となって外に流れ出ます。しかし、声は美しいからといって、又、節が正しいからといって、その謡が良いというわけではありません。

発音、発声、構えはあくまで基本であって、その基本を土台にして勉強すれば、ほんとうの謡が謡えるようになります。二入静は、皆さん御存知のように相舞をする能です。相舞をする能は、他にもありますが、この曲は、シテとツレが全くそろうの装束で舞います。鳥帽子、長袖、腰巻等すべて同一のもので、ツレの襟だけが赤一重になります。勿論、所作も同じでなければなりません。しかし、このシテとツレは夢幻と現実、影と形の相違があるわけですから、熟達した演者によって始めてなされる能でしょう。

謡も、その曲柄をよく知って心して謡うべきものなのです。さばし(さばしうしゆのこと)が咲き、くちなしも白々と葉がくれに匂います。爽やかなつゆの降間の一コマでした。

第20回記念 北陸中日能

9月19日 金沢で開催

北陸中日新聞社主催の「北陸中日能」は、今回第二十回を迎え九月十九日金沢市の石川厚生年金会館で宝生流能「葛城」「鞍馬天狗」観世流能「清経」が上演される。

予定番組は宝生流仕舞「八島」「綱之段」「藤戸」「枕巻」「船弁慶」「放下僧」「通小町」観世流仕舞「野守」

観世流能「清経」替之型(シテ藤井久雄)宝生流「葛城」神楽(シテ野村剛作)「鞍馬天狗」白頭(シテ宝生英雄)

大坂金春能

大坂流狂言「仙師」(善竹忠一 郎ほか)開演十二時三十分。

7月15日 山本能楽堂で本年第一回の大坂金春能は七月十五日(木)山本能楽堂で開催(開演午後五時三十分)

能・半部(金春信高)留月(金春寛史)狂言・左近三郎(善竹玄三郎)善竹幸四郎)半部は、金春流初演の「立花」の小書つきで

名古屋観照夏の会

8月22日 中津川で開催

名古屋観照会(観世元昭師主宰)は、八月二十二日「夏の会」を中津川市長多高で開催する。

番組は「娘捨」(シテ岩田広枝)「卒都婆小町」(シテ松原澄子)「木賊」(シテ丸山幹子)「安宅」(シテ杉浦茂)独吟「定家」(玉木敏夫)ほか楽謡仕舞など十六番。地謡は観世元昭観世清順、坂井音重、浜野金峰ほか数名。来聴歓迎、午前九時三十分開始。

京都 金剛永護後援会

金剛永護後援会は、創立五周年にちなみ、今秋十月十一日(月・祭)記念別会を金剛能楽堂で開催(前号一部既報)

番組は、仕舞「高砂」(種田道雄)「井筒」(広田隆一)「小鍛冶」(広田泰三)狂言「八幡前」(茂山真吾)茂山千作、茂山千三郎、茂山千五郎)仕舞「笠之段」(金剛巖)

能「道成寺」古式(シテ金剛永護)ワキ(福王理幸)。同後援会会長には山下元利衆議院議員が就任している。会費はA席五千円、B席(二階)三千円、学生席二千円。



邦謡会

梅田 邦久
須部 美一
清沢 政和
今沢 和政
本田 勝朗
安藤 朗

壺泉会

久田 正正 久田 秀雄
大倉 流小波 久田 舜一郎
松月 会 久田 徹二
久田 正正 久田 徹二
都 謡 会 前野 郁子
松 謡 会 山 幸親

泉嘉夫

名古屋市昭和区山町一〇三
電話 八三二一三一八五
西宮市甲陽園目山町一の一七八
電話 八〇七九八〇 二四五八

散る花の会

南 条 秀雄
奥村 富久子

毎日文化センター

謡曲教室
風韻会
殿島 修二

笙月会

中 川 清

一謡会 河村 鉦二
叶石会 河村 総一郎
河村 大

松音会
泉 泰孝

名古屋修諷会
梅若 修一

稲生 芳雄
重陽会 菊池 重郷
緑名会 田中 武

宝生 英雄
宝生 英照

佐野 正治
佐野 由於

名古屋異辰巳孝会
内藤 泰二

吉田 俊彦
宝生流 嘉宝会

倉本 雅
神戸市東灘区田中町一〇三
電話 〇七八(四五)二六(四〇)八号

金剛 永護
金剛 巖

廣田 後援会
廣田 陸一

菊扇会
廣田 泰三

後援会
廣田 泰三

演能案内

第26期第二回

町易会定期能

金春信高

町易会定期能

演能案内

観世会素謡会

七月二十五日(日)十二時半始
熱田 神宮能楽殿

連吟 班 女
連吟 通 小町
連吟 度 久田 秀雄 殿島 修二

仕舞 卷 絹キリ 生駒 里翠
仕舞 巴 前野 郁子
仕舞 柏 崎道行 吉田 妙
仕舞 天 鼓 熊沢 惠美子

素謡 野 宮 觀世 鏡之丞 野村 四郎
素謡 砧 觀世 清和 井上 嘉久
素謡 融 井上 嘉久 藤井 徳三

仕舞 嵐 山 中川 雅章
仕舞 敦 盛 久田 徹二
仕舞 網之段 小島 一英
仕舞 鞍馬天狗 武田 武弘

素謡 砧 觀世 清和 井上 嘉久
素謡 融 井上 嘉久 藤井 徳三

仕舞 高 砂 中村 和男
仕舞 經 正キリ 安藤 勝朗
仕舞 蟬 丸 高橋 瞭一
仕舞 小鍛 治キリ 祖父江 修一

素謡 融 井上 嘉久 藤井 徳三

附祝言 主催 名古屋観世会
(終了予定五時頃)

全館自由席、入場券三、〇〇〇円
能楽殿及び出演者宅

青陽会定期能

八月八日(日)午前十時半始
熱田 神宮能楽殿

仕舞 卷 絹キリ 祖父江 修一
仕舞 經 正キリ 木田 勲
仕舞 班 女クセ 今村 嘉勇
仕舞 鞍馬天狗 松山 幸親

素謡 清 鬼頭 英二 鹿取 希世
素謡 經 飯富 雅介 福井 啓次郎
素謡 難 波 前野 郁子
素謡 杜 若キリ 生駒 里翠
素謡 女 花 今沢 美和
素謡 貴妃 西村 欽也 柳原 富司忠
素謡 楊 葛 服部 紗枝 柳原 富司忠

仕舞 賀 茂 武田 邦弘
仕舞 雲 院 殿島 修二
仕舞 天 鼓 梅田 邦久
仕舞 狂言 相撲 井上松次郎 井上礼之助

素謡 山 近藤 幸江 吉井 順一
素謡 姥 西村 欽也 河村 總一郎
素謡 間 白頭 杉江 元 山崎 亮
素謡 祝 附言 大野 弘之

祝附言 主催 青陽会
青陽会事務所 名古屋市熱田区神宮一、一、一
電話(052)671-1192

(予告)第二十六期
第三回 十月十六日(主)
第四回 一月九日(日)

花 竹 生 鳥 高 砂 清沢 一政
鶴 銅 籠 久田 秀雄 舞臺子 遊行 柳 殿島 修二
車 僧 本 田 勲

<p>喜多実 東京都練馬区中村南一ノ二九ノ一</p>	<p>中部金春会 名古屋市中区新栄二丁目10-9 電話(二四一)三三四一</p>	<p>廣瀬瑞弘 名古屋市瑞穂区東栄町三二二四 電話(〇五二)八四一四七四五</p>	<p>春敲会 金春晃実 伊勢市宮町一ノ四一四一七 電話(〇五二)二四五六</p>	<p>八声会 村富次 伊勢市宮町一ノ四一四一七 電話(〇五二)二四五六</p>	<p>林鉄郎 喜多流山本才 山梨県中巨摩郡玉穂村成島三三の二 山梨医科大学成島宿舎 B二〇四 電話(〇五五)七三二一四二六</p>	<p>本田光洋 東京都中野区上高田二ノ二五ノ二 電話(〇三三)八六二六四二番</p>	<p>金春信高 東京都杉並区南荻窪3-17-16 電話(〇三三)二五七二番</p>	<p>二井栄逸 松阪市内五曲町八八 電話(〇五九)三三〇二六</p>	<p>長田曉後援会 津市高野尾町三三五一四六 電話(〇五二)〇六九七番</p>	<p>高安会 西村欽也 名古屋瑞穂区仁所町二一四五 電話(八三二)五九一九番</p>	<p>豊嶋十郎 二七-一 松戸市下矢切五五 電話(〇四七)三〇一九八二</p>	<p>谷田宗朗 京都市北区衣笠街道31-7 電話(〇七五)八八三〇三三</p>	<p>高安勝久 森好会 千151 東京都渋谷区代々木四一三八-二 電話(〇三三)37014609</p>	<p>福王輝幸 千662 西宮市名次町六十二 電話(〇七九)八〇九六五一</p>	<p>高安流岡同門会 岡次郎右衛門 清水利宣 高坂康弘 森晴蔵 北野三郎 中川湖舟 伊藤久蔵 塩田耕三 塩田利弘 清水山昭</p>	<p>江崎金治郎 電話(〇七九)〇七二五番 電話(〇七九)九七一一番 千670 姫路市飯田二五〇ノ二</p>	<p>江崎康雄</p>	<p>森田光春 京都市東山区八坂上町三七六</p>	<p>龍吟会 藤田昭彦 名古屋市中区下二丁目一〇番九号 電話(〇五二)五七一五七六三</p>	<p>寺井政数 千154 東京都世田谷区世田谷四一三二五 電話(四二〇)六六七六番</p>	<p>吳竹会 寛本三重男</p>	<p>森本重一</p>	<p>鬼頭季信</p>
--------------------------------	--	---	--	---	---	--	---	--	---	--	---	---	--	--	---	--	-------------	-------------------------------	--	---	----------------------	-------------	-------------

(シテ野村園作)「鞍馬天狗」白
三郎、善竹幸四郎。半部は、金
春流初演の「立花」の小書つきで
分給。

長濱市地福寺町八ノ二九
電話(〇六三)〇六三〇番

千118 東京都文京区湯島四丁目11-16
秀和レヂダンス七〇三

泰能

楽しいお買い物はマツザカヤ



能 楽 の 友

題字は熱田神宮 篠田宮司筆

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一部 70円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[8月]

22日(日) 也留舞会・信誼会合同会 (来場歓迎) (番組①面)

28日(土) 呉竹会ゆかた会 (来場歓迎) (番組①面)

29日(日) 八声会 (来場歓迎) (番組④面)

[9月]

5日(日) 洗心会華心会大会 (来場歓迎) (番組③面)

11日(土) 第23回大衆能一(会場・愛知文化講堂) (番組③面)

12日(日) 観世会定式能 (有料) (番組④面)

15日(祭) 観世会大会 (来場歓迎)

18日(土) 中日文化センター発表会 (来場歓迎)

19日(日) 宝生会定式能 (有料)

23日(祭) 和泉狂言会 (来場歓迎)

25日(土) 観世九奉会定期能 (有料)

26日(日) 名古屋草草会大会 (来場歓迎)

[10月]

2日(土) 観世会大会 (来場歓迎)

3日(日) 観世会大会 (来場歓迎)

9日(土) 朝日文化センター発表会 (来場歓迎)

10日(日) 本田秀男十七回忌追善能 (有料)

11日(祭) 代々神楽会大会 (来場歓迎)

16日(土) 青陽会定期能 (有料)

17日(日) 邦謡会大会 (来場歓迎)

24日(日) 淡交会大会 (来場歓迎)

30日(土) 修風会大会 (来場歓迎)

31日(日) 宝生会定式能 (有料)

[11月]

3日(日) 幸友会大会 (来場歓迎)

6日(土) 野村狂言の会名古屋公演 (有料)

7日(日) 風韻会大会 (来場歓迎)

13日(土) 一謡会叶石会大会 (来場歓迎)

14日(日) 観世会定式能 (有料)

(演能変更の節はご了承下さい)

第23回 大衆能

9月11日(土)・愛知文化講堂

能「井筒」など4番

能楽協会名古屋支部主催による「大衆能」は、今回第二十三回をひかえ、愛知県、名古屋市の後援により、九月十一日(土)正午から名古屋市東区・愛知文化講堂で開催される。

「大衆能」は、昭和三十五年から能楽の普及啓蒙をめざし、毎年秋の演能のさきがけとして回を重ねてきているが、今回は「忍」「恋」「愛」「怨」を演能のテーマとして、観世流能「巴」「井筒」「葵上」宝生流能「籠太鼓」の四番、金剛流能「玉藻」金春流能「舞」「松風」喜多流能「鉄輪」狂言は「墨塗り」「鏡男」で第23回の大衆能をかざる。

入場料千五百円、入場券は市内各ブレイカイド、能楽殿、出演各楽師宅(番組詳細は④面掲載)

大阪 梅若盛義後援会能

9月4日能「楊貴妃」「石橋」

梅若盛義後援会は、九月四日(土)大阪能楽会館(大阪市北区中崎二丁目一七)で、後援会能を開催する。午後二時開演。

能「楊貴妃」(シテ梅若盛義、ワキ福王輝幸、笛・赤井藤男、小鼓・大倉長十郎、大鼓・大村良二、地謡・梅若善高、梅若修一ほか) 狂言「魚説法」(善竹孝夫、善竹忠重)

半能「石橋」(白獅子・梅若盛)

義、赤獅子・井上生香、梅若善高、梅若修一、ワキ中村信光、野口浩和、小鼓・荒木照雄、大鼓・山本孝、太鼓・上田信、地謡・山中義滋、井戸和男ほか)

入場料指定席五千円、自由席三千円、学生席千五百円、連絡先 大阪市阿倍野区文の里四二四 一七、井戸良造方、梅若会連絡所、電話〇六(六二二)二二二九番。

野村狂言の会名古屋事務所 愛知県愛知郡長久手町長瀬丁宇田六一二三、浜田義孝方、電話〇五六一六〇六四〇三。(番組案内9月号掲載)

野村狂言の会 名古屋公演

11月6日 能楽殿で

野村万之丞、万作、万之介兄弟による野村狂言の会は、今秋十一月六日(土)熱田神宮能楽殿で名古屋公演を行う。

同会の地方公演はこの名古屋公演が唯一のもので、狂言愛好者には毎回大きな関心をもって迎えられる。番組は「蚊相撲」(野村万之丞)、「川上」(野村万作)、「木六駄」(野村万之助)で熱演が期待される。

なお今回より、一階は全部指定席となり、四千円(正面)三千円(脇正面)二千円(中正面)となっている。

野村狂言の会名古屋事務所 愛知県愛知郡長久手町長瀬丁宇田六一二三、浜田義孝方、電話〇五六一六〇六四〇三。(番組案内9月号掲載)

八声会 誕生

観世流シテ方の河村延二、中川雅章、大崎末吉、後藤梨雲、祖父江修一、加藤武、富永永一郎、若杉鈴栄の八名による「八声会」がこのたび発足した。

同会は、名古屋能界に大きな足跡をのこした故林恩蔵師の門下を中心に、武田太加志師取立の師範、準師範、名譽師範で、八月二十九日(日)熱田能楽殿で各師の社中(一謡会、中川社中、和楽会、童謡会、観世会、悠詠会、演能会、舞会)により、奏楽、雅子、連吟、独吟、仕舞など四十数番が催される。(番組④面掲載)

也留舞会・信誼会合同番組

八月二十二日(日)午前十一時始

二人大名 大 名荒木 和幸 大行 名大矢 高義 道行 人野村 信行

竹生島参り 太郎冠者水野 知子 主 福本 金一 主 次郎冠者 井田 充子 主 次郎冠者 井田 充子 主 次郎冠者 井田 充子

棒 縛 太郎冠者上嶋美代子 主 次郎冠者 井田 充子 主 次郎冠者 井田 充子

佐渡 狐 佐渡ノ百姓中村真木子 主 次郎冠者 井田 充子 主 次郎冠者 井田 充子

因幡 堂 男 菊川 恒雄 妻 大矢 高義

重 喜住 持山本浅太郎 重 喜野村 信行

素半 独吟五之段 遠藤 茂

素半 小舞 掛 川 青山かつら

素半 大原 木 三宅 千生

素半 半ケセ 後藤 正二 平山みよ子

柘 語文 蔵 徳田 文三

柘 善 祐善ノ鹽井田 充子 所 旅ノ者野村 信行

柘 絢 太郎冠者福本 金一 何 主 某 井上礼之助

柘 駒 之 段 高麗 敏江

柘 仕舞 舞 九道行 落合 宏美

柘 教 盛クセ 後藤 初子

柘 編 之 段 期 久美子

柘 朝 比 奈 光岡 修

素安 達 原 林本 政夫 遠藤 茂

素安 クセヌキ 後藤 正二

骨 皮 新 苑 意伴野 俊彦 主 住 持 野村 又三郎

骨 住 持 野村 又三郎 主 住 持 野村 又三郎

呉竹会ゆかた会

八月二十八日(土)九時半始

熱田神宮能楽殿

主催 呉竹会

主催 呉竹会

観世流謡曲 名曲特撰

鶴亀/吉野天人/紅葉狩/羽衣/田村
小袖曾我/經正/土蜘蛛/橋辨慶
小鍛冶/竹生島/鞍馬天狗/狸々/菊
慈童/放下僧/花月/清經/船辨慶
高砂/桜川/山姥/雲林院/百萬/砧
井筒/葵上/松風/隅田川以上28番

収録曲目

主な吹込者
●観世元正
●観世元昭
●観世鎮之丞
(雅音)
●片山博太郎
●梅若六郎(故)
●藤波順三郎
(紫雲(故))
●梅若義典(故)
●梅若義典(故)
(敬称略)

観世流謡曲 名曲特撰

お好きな演目がカセットで1巻ずつお求めいただけます。

特選 謡曲百番・観世流名曲撰の中から、特別に選り出した28番(曲)をカセット化。

初級から習物までを広く網羅。

宗家観世元正師はじめ、流儀内の代表的な能楽師による二度と再演不可能な音源です。

臨場感にあふれるステレオ録音です。

観世流謡曲の名演が1巻ずつの単売で好きな演目だけを選んで買えます。

目次表に収録の資料に便利に、五級物を多く納めました。

カセット全20巻シリーズ(単売)
各¥3,000 7月21日発売

特製カセットケース(贈呈)を添えて10巻収録

お求め、お問合せは下記レコード店又は有名デパートまで

(名古屋市) ヤマギワ(名鉄メルサ6F)TEL:052(582)2022
名鉄百貨店(名古屋駅前)TEL:052(571)1111

松坂屋リビンザ(矢場町)TEL:052(251)1111
三越本店(栄文楽店)TEL:052(241)5504
玉音堂上飯田店(ダイエー上飯田店)TEL:052(914)6161

COMPIAL RECORD

(カタログ贈呈)〒107 東京都港区赤坂4-14-14 日本コロムビア

男・啓次郎・然二は百歳の姥をいざなり空門を捨てた作りです。

で合掌し、脇正を見てしみじみとトノボすが、嬢慢一代のイメージ

本紙連載の二井栄逸氏筆による昭和58年能楽のシシシ予約。

▽予約期限 九月二十日まで。ハガキで部数明記の上能楽の友社へ(詳細8月号掲載)

幸 昭 弘 善 竹 忠 一郎

七月号、八月号にわけて掲載させて頂きましたので何卒ご理解賜りますようお願い致します。(編集部)



五月雅日記

オモダカの花

二井栄逸

今、家の近くのたんぼが宅地に造成されつつあります。そのたんぼにはオモダカがよく咲きますので、早速、根ごと採集してきてもらいました。この頃、都会では見られなくなつたオモダカを、花好きの人達がはしがっているのを知っていましたので、こないだ飛脚に名古屋の稽古場まで運ばせ、一株ずつ貰つてもらいました。

もともと、山野草の好きな私は、このオモダカを特に好きな花の一つにしていました。深くきれいな矢尻形の葉。数段に咲く白色三弁花等、風格があつて殊の外美しいのです。ですから私は、水墨画のお手本にもよくつかいます。オモダカを好まれたようでした。

オモダカは、遠い昔から注目されていた植物で、平安時代には、蒔絵の文様に描かれていました。能楽東の文様にもよくつかわれています。そういうことから、武家の家紋としても愛用されたのでしよう。原産地が日本であるせ

いかに知れませんが、向といつてもその風格がかわれたのだらうと思ひます。

昔、それも少年の頃、私は鈴鹿の山に籠つたことがありました。

坂はてるてる鈴鹿はくもるあいのつちやま雨が降る

と、歌にうたわれた、坂の下という山里の山屋でした。私が修業の為、東京に出る前のことですから、まだ耕がすりを着た少年の頃です。

あたりはうつつ蒼として、夏などはいくつもの木下闇(こしたやみ)が出来る程、木深く草深い山奥でした。

庵(いおり)と言つてもよい位粗末な山小屋のすぐ後は松の山で、その山から滴り落ちる水は、清冽な沢をつくつていました。その沢にオモダカが白々と咲いていたのを覚えていました。近くの小川の流れば、岩間をすべり落ちるよりに速く、その岩肌には河鹿が何匹もいました。真夏間、オモダカが咲く木下闇にうずくまつて、金魚をよるようにな

近ごろ面白い三曲

「鈍太郎」「班女」「寝覚」

前田満穂

近ごろ面白いと思つた見もの、さし当り三つをあげる。と、「鈍太郎」(7月11日、朝日狂言会)、「班女」(同17日、銀世九早会)、「寝覚」(同18日、邦謡会)かな。

一にも三つに限らなくてもよきようなものだが。

「だから「さし当り」と断つた。あとから追加はご自由に。」

一では、さし当りの三つについて僕もいわせてもらつたすれば、まず「鈍太郎」。千五郎の鈍太郎が自由自在の芸を見せて、当日の圧巻だったね。

一狂言役者で彼ほど自由自在の芸のやれる人は少ない。自在過ぎて、狂言の格がはずれるの、芝居がかるのとクレームをつける人もいるが、結構楽しく面白く見所を湧かす力は大きなものだ。

一時には相手役がついていけなくて困るだらうな。事実、そうしたアンバランスの露呈した舞台をいくつか見た。気の知れた弟であれ息子であ

河鹿の声にきき入ることもしばしばありました。

米は、山から落ちる清水で炊き、じゃがいもや、やま路を煮ることも覚えました。

私は、いろいろの青春の日を過ごしてきたが、山奥の一人住まいの生活も楽しい思い出の一つになっていきました。オモダカの花を見ると何ゆえか国産の能を連想するのです。

吉野の田舎という事も、この御代よりの事とかや。じゅん菜のあつものを鱈魚なりと、これにはいかでまきるべき、間近く参れお人よー

大友の皇子に襲われた浄見原の天皇が、吉野の奥の岩屋で、国産の翁から、根岸崎、じゅん菜のあつもの等の供物をうける前半のこともあつて、或る夏、吉野の葉桜の写生に出かけた時、吉野川の川ぞいを上って見たくなりましたので、車でゆけるところまで上ったことがありました。

意識する故か南北朝時代の或る種のだよいを感じながら、とある沢辺に降り立った時、根岸にまじり、オモダカが白じつと咲いていたのを見て驚きました。

ですから、私の写生帖には所を変えて咲くオモダカの花々が、静かにねむっている理

欠いたのを不思議に思つたが、とから体調が良くなつたといつた。「鈍太郎」は元気な、淡い、淡い。キザを承知であえて云えば「夢」だ。この「観世」の「班女」。このところ「清経」と並んで上演回数が多い人気曲だが、他の「班女」とちよつと違つた味を賣りたい。

一前半サラサラ、後半こつてりといつたところだね。

一それよりも花子が、いかにも野上の宿という片田舎の遊女になつていたことだ。江戸時代なら宿場女郎というところ、能では、これをひどく美化してしまつて、華麗な唐織をまとつてしつと出て来るものだから、ちよつと見では、宮廷の貴女との区別がつかない。現に上層と女郎の区別は、この謡の文句でもあ

一君の云わんとするところがわかつた。いままでの演出が、班女の象徴扱いしていた花子を、宿場女郎にして見せたこと。

一そうハッキリ云われると頭をかきたくなるが、喜之の意図はともかく、舞台の上では、はからずもそれに似た効果の出ていることを珍しく、面白く感じられた。良し悪しの問題ではないよ。

一そう云えば、面もやや庶民的な表情をしていようだ。愛情表現も深刻でなく、浮草葉の単純、無邪気な恋心。それだけにいっそ哀れが深い。

「観世」に立ちつくして、と、一の松に寄り、左手に笹をもち添えて空を仰ぐところなど、淡い、淡い。キザを承知であえて云えば「夢」だ。この「観世」の「班女」。このところ「清経」と並んで上演回数が多い人気曲だが、他の「班女」とちよつと違つた味を賣りたい。

一そこまではどうだか。深読みもいいたいところ、喜も苦笑するだらう。写実と取られては心外千万に違いない。一さて「寝覚」だ。上演の絶えて久しい稀曲らしいが、どうしてどうして、天女二人、竜神二神が優婉な舞、煙突たる飾を披露したあと、グロテスクな悪魔面の三層の翁が楽を舞うという大スペクタクル。

一こんな面白い能がどうして余り上演されないのか不思議なくらいだが、大がかりなだけに、役者、囃子、地謡、すべてが手揃いでないと難しいのかも知れないね。

一曲の舞台が名古屋に近い寝覚の床というの我々には親しみがある。あえて名古屋上演に踏み切つた邦謡会の勇断に敬意を表したい。

一しかも、整然と一糸乱れぬ舞台成積だからなおさらのこと。稀曲らしく、余り手垢のついていないところも、梅田邦久のシテは、前は手強く、後は堂々として見所を圧して見事であった。

一さし当りの三つだけで時間超過。残念ながら追加はや

八声会大会

仕舞英 上川 雨 月村 幸子 澄川 幸子 矢野 義章

附祝言 名古屋 洗心会

竹腰勝一

伺	御	中	暑
栄能楽舞台 名古屋市中区栄五丁目二二番 電話(二六二)一八三番	楽諷庵舞台 加納保一 名古屋市中区河川町四七七八番 電話(八三三)七〇〇一番	ビデオ撮影 西川企画画 500 岐阜市北野町20番 電話(五五二)九九六九番	

名古屋観世会 山本眞賀 豊中市本町六丁目一〇一六	下田雄三 大坂市東区高橋橋詰五三	観世雅雪 雄謡会中部地区連合会 名古屋和石会	観世鏡之丞 一宮花会 下原雄会 萩原雄会 高文之屋社	観世栄夫 倭山文会	幽謳会 片山博太郎 獨恵会熊沢恵美子 名古屋市中区平和ケ丘3丁目76 日車マンション四〇四	梅若六之丞 東京都中野区東中野2丁目6-14	上田観正会能楽堂 社団法人観正会 上田照也	誠交会奥善助 東京都世田谷区三軒茶屋二丁目一〇三二 電話(〇三)四二二二六三七番	大江将董 京都市東山区本町2丁目428	大垣浦声会 稲古場大垣市竹島町善念寺 住所京都市左京区下鴨芝本町五八	緑宝会 名古屋緑区鳴海町池上16-10 千458 加藤勝利 電話(八九六)三四二八番
--------------------------------	---------------------	------------------------------	--	--------------	---	---------------------------	-----------------------------	--	------------------------	--	---

名古屋観世会定式能(四回)

九月十二日(日)十二時半始

能組 熱田神宮能楽殿

井筒

観世喜之 植田隆之亮 福井啓次郎 藤田 昭彦
後見 武田 邦弘 地謡 須部 南敷 小島 一英
梅若 盛義 加藤 保彦 梅田 邦和 邦和 久

善界

小島 一英 梅若 盛義 西村 欽也 吉田 定男 後藤 孝一郎 寛助川 三男
後見 中川 雅章 地謡 安藤 幸親 山本 武田 邦和 邦和 久
観世 喜之 喜之 清沢 一政 梅田 邦和 邦和 久

〔有料〕 附祝言 主催名古屋観世会 (終了予定五時半頃)

昭和57年8・9月放送予定

〔8月〕 NHKラジオ第2放送 (毎週日曜日午前9時30分)
15日(日) 金春流「融」 桜間金太郎ほか
22日(日) 観世流「教盛」 上田照也ほか
29日(日) 観世流「藤戸」 関根祥六ほか

春夏秋冬

五七年の上半期 野村広二

年が変れば能界の動きも変わる。今年も一月、二月とたつたに、昨年とちがった様相を表現して。新古静助。そして八不変のもの、本年の能の美しさ、狂言の笑い、生み出されるもろろん不変と違って、舞台上の千変万化のなかに、この二つを具体的に感得するのである。八佳い能と狂言をみて。
以下五七年上半期の三、四の事をメモ風にします。多事多彩。
第一は、卒都婆小町が二回演ぜられたこと。長い間舞われなかつた老女物が同じ月に二度もあつた。六月、これも観世流・大槻秀夫・一度之次第と、宝生流・辰巳孝。観世流は田鍋惣太郎氏の晩年以來であるが、それでも相当長い。後者に至つては、明治にさかのぼつて演能の記録(お能の番組・田鍋惣太郎編)が見当らないようである。もう一度念を入れて調べたいが、藤田流(笛方)の留帳へ出演および重要な演能記録にもない。それほど大切にされてい

二井栄逸師画集

83能画カレンダー
既報のように、本紙連載「青雅日記」の二井栄逸師画集による昭和五十八年能画カレンダーが発行されます。
能画は「観世」「藤戸」「草子洗小町」「一井筒」「紅葉狩」のオフセット4色刷。B4(タテ51・ヨコ38・0センチ)表紙本文とも7枚の美麗カレンダーです。曆が過ぎた後も額用としても永くご鑑賞頂けるよう企画されています。表紙は「若女」(特注には社名別込みします)。
昨年と同じく本紙で取り扱いますのでお申込み下さい。
◎予約特価 一部千五百円、郵送の場合送料三百五十円が加わりますので一部千四百五十円。(但し二部以上は部数により郵送料が通減になります)
◎予約特価申込み期限 九月三十日(それ以後は一部千八百円になります)が、部数の都合にお応えできない場合もありますのでご理解下さるようお願いいたします。
申込み方法 ハガキで郵数明記のうえお申込み下さい。代金は振替又は切手、現金書留で結構です。
申込み先 能楽の友社
(〒464) 名古屋市千種区千種2-18-18
電話(〇五二)七三三-一七九八四
電話(〇五二)七三三-一七九八四

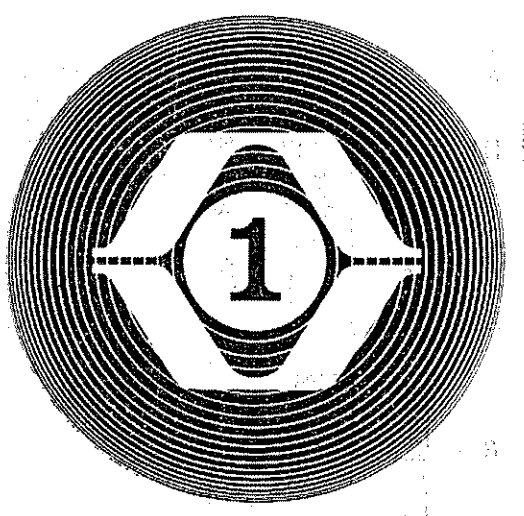
鞍馬・貴船を訪ねる
洛北の謡曲名所めぐり
10月31日(日)に実施
本紙では、毎年謡曲名所めぐりのバス旅行を催してありますが、本年は、鞍馬(「鞍馬天狗」)貴船(「鉄輪」)市原野の小町寺(「通小町」)など、上野原(「紅葉」)など、前後したが能の佳境。露上(観世元正)高砂(岡元)田村(西村欽也)の礼賜は佳。田村(傳太郎)雲林院(喜之)小畑(橋岡久共)杜若(梅若紀彰)として、六之丞改め)遊行(大坪十喜雄、最も印象にのこる)後寛(宝生英雄)殺生石(岡英照)枕蓑童(前後之替はか、金剛殿、感銘深い)善界(喜多長世、白頭)に舟弁慶(久田敬二)安達原(武田邦弘)羽衣(清沢一政、以上会名を省く)など。
なお清経徳之音取(泉嘉夫)狂言鬼瓦(又・礼)は期待に反した。また舟弁慶・金春信高、景清・武田太加志と梅若盛義はみず。
◎学生能が三回行われたことも特記したい。名古屋能楽連の能・狂言の会(一月)宝生流学生能(六月)と学生金春会(七月)。
余録。七・八月の絵巻店発行のカレンダーは「春菜」の写真。清和・清頭両氏の橋掛のりりしい姿(四五二)。「観世・七月」の作品研究も同曲。「謡と舞台」はいつのまにか清田弘氏の名解説。掲載の写真は何と昭和十七年の観世会同曲(観世寿夫・静夫(現観之丞)ほか)これを私はみている。いまでも忘れない。
付、テレビ能のことは割愛。(五七・七・三〇)

本紙では、毎年謡曲名所めぐりのバス旅行を催してありますが、本年は、鞍馬(「鞍馬天狗」)貴船(「鉄輪」)市原野の小町寺(「通小町」)など、上野原(「紅葉」)など、前後したが能の佳境。露上(観世元正)高砂(岡元)田村(西村欽也)の礼賜は佳。田村(傳太郎)雲林院(喜之)小畑(橋岡久共)杜若(梅若紀彰)として、六之丞改め)遊行(大坪十喜雄、最も印象にのこる)後寛(宝生英雄)殺生石(岡英照)枕蓑童(前後之替はか、金剛殿、感銘深い)善界(喜多長世、白頭)に舟弁慶(久田敬二)安達原(武田邦弘)羽衣(清沢一政、以上会名を省く)など。
なお清経徳之音取(泉嘉夫)狂言鬼瓦(又・礼)は期待に反した。また舟弁慶・金春信高、景清・武田太加志と梅若盛義はみず。
◎学生能が三回行われたことも特記したい。名古屋能楽連の能・狂言の会(一月)宝生流学生能(六月)と学生金春会(七月)。
余録。七・八月の絵巻店発行のカレンダーは「春菜」の写真。清和・清頭両氏の橋掛のりりしい姿(四五二)。「観世・七月」の作品研究も同曲。「謡と舞台」はいつのまにか清田弘氏の名解説。掲載の写真は何と昭和十七年の観世会同曲(観世寿夫・静夫(現観之丞)ほか)これを私はみている。いまでも忘れない。
付、テレビ能のことは割愛。(五七・七・三〇)

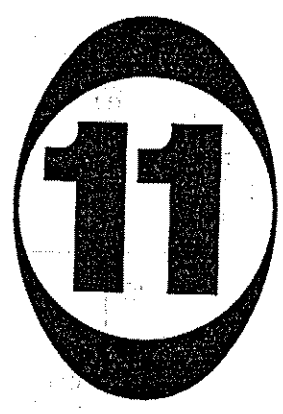
祝 第23回大衆能



中部日本放送



現代をみつめる眼 東海テレビ




名古屋テレビ

社 8 4 3 0 9 9 故藤田六郎兵衛師三回忌 山本勝一、後・観世喜之、ツレ橋 同久共、大槻文蔵、梅若盛義。 雲 大 会 九月十五日(水) (敬老の日) 午前十時始 熊 野 西村 欽也 寛助川 三男

願いは あたたかい 心のつながり

対話がはずむ



東海銀行

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一部 70円

題字は熱田神宮 藤田宮司

故藤田六郎兵衛師三回忌

大曲揃え 追善能

能三番各流宗家が来演

笛方藤田流十世宗家・故藤田六郎兵衛師の三回忌追善能が十一月二十一日(日)熱田神宮能楽殿で催され、シテ方各流、ウキ方、囃子方の各流宗家は、東京、関西の名師が来演。十一世宗家藤田陽彦師がこの機に代々の家元名である六郎兵衛の異名と合わせ、この秋の話題の演能として期待される。

主催・龍吟会(藤田陽彦師主宰) 能組予定は、手向・連吟「朝長」(地元熱田流シテ方)について、舞囃子「海人」(金春信高)「頼政」(龍世元昭)「雪」(金剛永謙)「那耶」(喜多節世)「乱」(双之舞片山博太郎、龍世領之丞)宝生流能「張良」宝生英雄 龍世流能「定家」龍世元正

なご当日午前八時半から、同門後藤正男師一周忌とあわせ、名古屋金春会の追善同門会が催される。(番組案内②面掲載)

本田秀男師17回忌追善 名古屋金春会能

10月10日 金春宗家の「砧」など能3番

金春流の重鎮として活躍した故本田秀男師(昭和四十一年逝去)

故本田秀男師は、関東大震災で焼失した明治版謡本の復興、また現在の流儀謡本の節拍子当り等の改訂を担当「砧」「恋重荷」など宗家とともに復曲上演、名古屋金春会を大正十五年発会するなど、戦前、戦後にわたって流儀のため貢献した。今回の追善能では、金春信高宗家父子による「砧」の上演、父の遺業を継承する本田光彦師の「那耶」、さらに精鋭・金春異業師の「鬼界」。当中部地方に礎をきいた故人の追善によむわしい演能が期待されよう。指定席五千円、自由席三千円、学生席千五百円。

名古屋新能盛會

二千人の観客でうま

第十七回名古屋新能は、八月七日、熱田神宮神苑の特設舞台で催され、観客は二千人を越え、真夏の夜の野外能として会場を埋めつくした。当日は好天にも恵まれ、午後五時半開演、金剛流舞囃子「岩船」にはじまり、金春、龍世各流の仕舞、熱田神宮長谷晴男師宮司による流能「橋弁慶」喜多節世「平部」狂言「茶童」上演、切能には龍世流「石橋」大獅子の豪華な舞で盛會のうちに終了した。

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- [9月]
 - 15日(祭) 龍吟会大会 (来場歓迎) (番組①面)
 - 18日(土) 中日文化センター発表会 (来場歓迎)
 - 19日(日) 宝生会定式能 (有料) (番組①面)
 - 23日(祭) 和泉流狂言大会 (来場歓迎) (番組①面)
 - 25日(土) 龍世九皇会定期能 (有料) (番組②面)
 - 26日(日) 名古屋音楽大会 (来場歓迎) (番組②面)
 - [10月]
 - 2日(土) 龍吟会大会 (来場歓迎) (番組②面)
 - 3日(日) 龍吟会大会 (来場歓迎) (番組②面)
 - 9日(土) 中日文化センター発表会 (来場歓迎)
 - 10日(日) 本田秀男師17回忌追善能 (有料) (番組②面)
 - 11日(祭) 龍吟会大会 (来場歓迎) (番組④面)
 - 16日(土) 青陽会定期能 (有料)
 - 17日(日) 邦謡会大会 (来場歓迎)
 - 24日(日) 淡修会大会 (来場歓迎)
 - 30日(土) 宝生会定式能 (来場歓迎)
 - 31日(日) 宝生会定式能 (有料)
 - [11月]
 - 3日(日) 幸友会大会 (来場歓迎)
 - 6日(土) 野村狂言の会名古屋公演 (有料)
 - 7日(日) 龍吟会大会 (来場歓迎)
 - 13日(土) 一龍会叶石会大会 (来場歓迎)
 - 14日(日) 龍吟会定式能 (有料)
 - 20日(土) 故藤田六郎兵衛追善能 (来場歓迎)
 - 21日(日) 故藤田六郎兵衛追善能 (有料)
 - 23日(祭) 初陽会大会 (来場歓迎)
 - 27日(土) 梅若盛義後援会 (有料)
 - 28日(日) 和泉流狂言 (有料)
 - [12月]
 - 5日(日) 歳末助け合い義捐能 (有料)
 - 12日(日) 和泉会能 (有料)
 - 19日(日) 青少年のための芸術劇場 (有料)
 - 26日(日) 乱能 (有料)
- (演能変更の節はご了承下さい)

名古屋宝生会定式能

九月十九日(日) 午後一時始

熱田神宮能楽殿

大仏供養	西村 欽也	鬼頭 英二	鹿取 希世
後見 倉本 博雅	山口 亮	門木 和雄	竹取 正勝
後見 玉井 博祐	地詔	大竹 利光	藤原 正一
井上松次郎	佐藤 友彦	井上礼之助	佐藤 友彦

能通小町	高安 勝久	寛原 敏一	鬼頭 季信
後見 野村 英雄	地詔	平野 幸三	辰巳 満次郎
後見 野村 英雄	地詔	平野 幸三	辰巳 満次郎

能道成寺	西村 欽也	吉田 定男	観世 元信
後見 野村 欽也	地詔	吉田 定男	観世 元信

能千手	西村 欽也	後藤 孝一郎	寛 三男
後見 内藤 泰二	地詔	吉田 定男	大塚 光夫

和泉流狂言大会

九月二十三日(祭) 正午始

熱田神宮能楽殿

梅枝	飯富 雅介	吉田 定男	森本 重一
後見 吉田 俊彦	地詔	寺部 一威	辰巳 満次郎

熊野	飯富 雅介	中島 啓一	鈴木 義久
後見 内藤 泰二	地詔	河野 邦雄	辰巳 満次郎

蚊相撲	井上 祐一	森 美智子	伊藤 淳子
文荷	伊藤 幸子	酒井 雅子	伊藤 淳子

桶の酒	今枝 郁雄	今枝 良治	今枝 郁雄
昆布	佐藤 友彦	佐藤 友彦	佐藤 友彦

名古屋千種区千種2丁目18-18
電話(052)731-7984
振替口座 0-36393

馬天狗(鉄輪)
市原野の町(通小町)
など(上賀茂神社)(賀茂)
電話(731)7984

観能独語

難しい三番目もの

第十七回新能を見て

八月七日夕五時半から熱田神宮で行われた恒例の新能を見ました。もう十七回目とあって名古屋市民にはおなじみの夏の夜の風物詩。神楽殿前の広場は、定刻前既に椅子席の大半を埋めるファンでいっぱい。「新能」と書いたうちをバタバタさせながら、開演を待つ風景は、にぎやかに楽しいものでした。

十三日大阪城西の丸庭園で行われた大阪新能を見る機会を得ました。夜空に浮かんだ大阪城を背景に、観世元正はじめ五流の家元総出演の豪華版、装束、音響すべてに行き届いたスケールの大きさに肝をつぶしましたが、見くらべて、大阪は大阪、名古屋は名古屋、これだけの違いという感じがしました。

耳目抄

故人追慕・放送と

八月のFM放送(NHK)で「故人をしのぶ」と題する放送が三回あった。八卒空軍少尉・梅若六郎、第一回Vと八卒・観世寿夫、第三回Vで第二回の八日の八松山鏡・松本謙三、山姥・藤波紫雪Vはきけなかつた。どちらも佳かつた。六郎氏の語は特に印象が深かつた。故人をしのぶに十分。ただどちらもかつての記念すべきテレビ能などを四十五分に編集したのも、切りの文句がごく少々欠けて八余情Vも欠けた。

能と狂言の世界へ増田正造・小林真共著V。講談社。百からなる短文ながら、矢張り写真(演能)本であるが、矢張り写真(演能)本には演者の氏名の発表・添付が望まれる。記録として、それは序文に丁寧に断つてあるが、なお八能楽堂一覽表Vのうち、熱田神宮能楽殿は新任所長八名古屋市熱田区神宮一丁目Vです。また八用語人名解説Vに狂言共同社。道行著八国文学時りませ(八)田地文字。群像。九月号V。中世文学の物語と謡物の例のうちに八道成寺V八能野V。

武田謡楽会秋季大会

Table listing performers and programs for the Wada Utaigaku Autumn Festival. Includes names like 三井寺, 水野あや子, 後藤孝一郎, 寛三男, 船井慶, 深見賀子, 後藤孝二郎, 寛三男, 龍夫, 三男.

本田秀男先生十七回忌追善同門会

Table listing performers and programs for the Benida Shunonobu 17th Anniversary Memorial Meeting. Includes names like 追善同門会, 追善同門会, 追善同門会.

Table listing broadcast schedules for NHK Radio and TV. Includes dates from 9/19 to 10/24 and program titles like 「宝生流」「鶴生」「近藤礼ほか」.

幸誼会大会

十月十一日(月)午前九時半始

熱田神社宮能楽殿

番外 舞臺子 高砂 近藤 幸江 河村 大助 川 龍夫 八段之舞 柳原富司 鹿取 希世

舞臺子 胡蝶 杉浦 則行 班女 小林 俊雄 老 小出 文子 小 竹本百合子 融 河津 清子 高藤さとみ

名譽師範披露 川淵 泰子 吉田 定男 三男 西村 欽也 福井啓次郎 寛 三男 間 野村又三郎

能 弱法師 後見 山本 正人 地蔵 栗林 愛子 加藤 春枝 泉 嘉夫 岡田 満子 前野 郁子

素田 山 上田 千代 大倉 豊 塩崎 眞次 榎田トミ子 戸 浅野よし子 谷野 博

舞臺子 鶴 亀 小島 照子 通 小町 寺西 繁子 耶 岡田 満子 熊 坂 村井 邦子

名譽師範披露 成 寺 金井 久枝 泉 泰孝 山本 正人 獨脚 岡田 川 成田 知子 福井啓次郎

舞臺子 天 鼓 谷野 博 大見 高美子 加藤 マサ子 連吟者 城 杉浦 ゆき 兵衛 ヤエ 前田 鈴子 荒川 志づ 柴山 勇 矢野 常彦 服部 俊介 伊奈 繁

能 乱 飯富 雅介 寛 鉢一 鬼頭喜太郎 後藤孝一郎 藤田 昭彦 後見 殿島 修二 地蔵 竹本百合子 生駒 里翠 大槻 秀夫 小出 文子 堀谷 幸江 村井 邦子 上田 知代

狂言 花 争 ひ 野村 信行 野村又三郎 大槻 文蔵 泉 嘉夫 堀谷 幸江 桐キリ 大槻 秀夫 崎道行 大槻 秀夫

附 祝 言 主権 幸 近 藤 幸 江 会

〔御来場歓迎〕 岡崎市鴨田本町十一ノ三 電話(052)二二二五二九

七月の舞台から

第24回「朝日狂言会」を観る

竹尾 邦太郎

朝日狂言会初回は昭和34年4月桜の頃でした。以後毎月不定期でしたが第6回以降は第11回の6月を除き7月に催され、夏の名物狂言会となりました。昭和45年の冷房化以前は通路のあちこちに花水の柱が立ち、風情一入でしたが演者にはさぞ辛い夏だったでしょう。因みに初回の入場料はA席三百円・B席二百円・C席百五十円で今回の指定席三千円・普通席二千円・随席千円と較べると今昔の感を新たにします。

さて今回初番は「三本柱」三本の柱をそれぞれ太郎冠者・礼之助は右肩に、次郎冠者・友彦と三郎冠者・弘之は左肩に担ぎます。一ノ松と二ノ松との間の侃侃諤諤は、柱と肩に担ぐ度「エイエイ」の掛け声が煩悩な気もしますが三人がそれぞれ二本の柱を無事に

持って唯し物での舞台入りはおおらかで、浮かれた主・松次郎を加え一管(昭彦)で揃って浮きに浮かれるところのなごやかさは芽出度き横溢の狂言世界です。(23分)

「佐渡狐」。佐渡ノ百姓・千之丞と桑者・千五郎の絡みが秀逸です。下から拘うような目使いで桑者にわいるを渡そうとする抜目「下れ下れ」と叱責しても四辺に知れないとみるや素早くわいるを取り込む桑者。このあたりの間のはきはきは流石です。更に、「ありがたりごさる」と礼を言われ「重ねてはならぬぞ」と、満腹気こころで柳眉とは柳の葉のように細く美しいまゆで、柳眉を逆立てるとは美人が怒る形容の謂です。さて、中世の男の哀歌を千五郎

演能予告

第二回野村狂言の会

名古屋公演

十一月六日(土)午後二時開演

熱田神社宮能楽殿

蚊相撲 野村万之丞 石田 幸雄 野村又三郎

川上 野村 万作 野村又三郎

木六駄 野村万之丞 井上礼之助 野村万作

主権 野村 狂言の会

事務所・千四八〇一 愛知郡長久手町長歌丁字田六―三浜田義孝方 電話〇五六―二一六四〇三

・千四六〇 名古屋市中区錦三―一五―三二

ホワイトビル四階 伽藍洞キヤラー内

電話(052)二二二五二九

電話(052)二二二五二九

取扱い 松坂屋・三越・名鉄各ブレイガイド・大学生協・熱田神社宮

能友随想

故梅若六郎・演能記録

先き頃、梅若六郎氏の放送・卒都段小町を拝聴。まことに感にたえず。それと前後して、六郎興業より「五十五世梅若六郎」の豪華本を贈っていただいた。

梅若六郎氏、梅若能学学院事務局長。九月から翌三三・一月まで演能記録がない。それにつけても、十月のこの梅若能ができたことには秘話があった。むしろ佳話であらう。名古屋T氏と東京M氏の間にはいづるいづる計らいがあったらしい。そして私たちは眼福を得た。演能果てて少数の人々による夕食の席では父上も六之丞(六郎)氏も終始無言、それでいて悠容追らぬ対応には心から引かれた。

もう一つは三三・十一月二〇。先代実氏五十年祭の催能。愛文講堂(八幡丸)が父上実氏の逆愛。六郎氏も「梅若能」で舞われた(前月六郎

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ!
舞姿の勉強と記念に是非どうぞ!

当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きつとご満足いただける自信があります。

お問い合わせは **ビデオプロダクション 西川企画**
TEL <0582> 63-9869 岐阜市北野町20-2

面打教室 於名古屋・朝日神社 毎週木曜日(月4回)午後5.30~8.00

指導 **林龍雲** **面巧社**

電話問合せ <052> 211-4451
教室の見学・能面お求めになりたい方 お気軽にお越し下さい

83 能画カレンダー

能画は「鶴」「岡田川」「草子洗小町」「鷲」「井筒」「紅葉狩」のオフセット4色刷。B4(タテ51・ヨコ38・0センチ)表紙本文とも7枚の美麗カレンダーです。表紙は「若女」(特注には社名刷込みします)。

◎予約特価一部千円、郵送の場合送料三百五十円が加わりますので一部千四百五十円。(但し二部以上は部数により送料が通減になります)

◎予約特価申込み期限 九月三十日
申込み方法 ハガキで郵政明記のうえお申込み下さい。代金は振替又は切手、現金書留で結構です。

申込み先 **能楽の友** 社
名古屋千種区千種2-18-18
電話(052)731-1784
本田 義孝 電話(052)363993

歳末助 演能案内

演能案内

名古屋邦謡会創立二十周年 記念能楽大会(二)

発行 能楽の友社

名古屋市中区千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一部 70円

題字は熱田神宮 篠田宮司様

能楽の友

若い御二人の門出に
ふさわしい結婚式場

若宮八幡社

各種会合や宴会にも御利用下さい
(駐車場完備)

名古屋市中区栄3丁目35-30 電話 (241) 0810

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

[10月]

- 16日(土) 青陽会定期能 (有料) (番組①面)
- 17日(日) 邦謡会大会 (来場歓迎) (番組①面)
- 23日(土) 上田隆一師追善 久田観正会秋の会 (来場歓迎) (番組②面)
- 24日(日) 淡交会大会 (来場歓迎) (番組②面)
- 30日(土) 修験会大会 (来場歓迎) (番組③面)
- 31日(日) 宝生会定式能 (有料) (番組③面)

[11月]

- 3日(祝) 幸友会大会 (来場歓迎)
- 6日(土) 野村狂言の会名古屋公演 (有料) (番組④面)
- 7日(日) 風韻会大会 (来場歓迎) (番組④面)
- 13日(土) 一謡会叶石会大会 (来場歓迎) (番組⑤面)
- 14日(日) 観世会定式能 (有料) (番組⑤面)
- 20日(土) 故藤田六郎兵衛追善龍吟会大会 (来場歓迎)
- 21日(日) 故藤田六郎兵衛追善能 (有料) (番組⑥面)
- 23日(祭) 初陽会大会 (来場歓迎) (番組⑥面)
- 27日(土) 梅若盛義後援会 (有料) (番組⑥面)
- 28日(日) 和泉狂言会 (有料)

[12月]

- 5日(日) 歳末助け合い義捐能 (有料)
- 12日(日) 豊泉会能 (有料)
- 19日(日) 青少年のための芸術劇場 (有料)
- 26日(日) 乱能 (有料)

[昭和58年1月]

- 3日(月) 能楽協会名古屋支部新年謁初式 (能楽協会関係者のみ)
- 8日(土) 学生能 (来場歓迎)
- 15日(祭) 清韻会能 (来場歓迎)
- 29日(土) 青陽会定期能 (有料)

(演能変更の節はご了承下さい)

名古屋宝生会の昭和五十八年度定式能は、二月六日(日)初回は「道成寺」(古式)を上演し、二回目は「道成寺」(古式)と「道成寺」(古式)の二回を上演する。とくに第二回(六月十九日)定式能では「道成寺」(古式)と「道成寺」(古式)の二回を上演する。日程および演能予定は次のとおりである。

●第一回 二月六日(日)
能「兼平」内藤泰二
能「舞丸」舞入 大坪十喜雄
能「感陽宮」鈴木義久
ほかに狂言・仕舞
●第二回 六月十九日(日)
能「清経」野村剛作

●第三回 九月十八日(日)
能「玉葱」戸田和
能「半蔵」吉生英照
能「野守」吉田俊彦
ほかに狂言・仕舞
●第四回 十一月二十日(日)
能「草薙」児頭嘉男
能「井筒」物着辰巳 孝
能「山姥」倉本雅
ほかに狂言・仕舞
●第五回 十二月二十日(日)
能「兼平」内藤泰二
能「舞丸」舞入 大坪十喜雄
能「感陽宮」鈴木義久
ほかに狂言・仕舞

58年度 宝生会定式能 初回2月6日、年4回公演

道成寺古式を上演

この歳末助け合い運動の協賛能は本年で第十四回目、義捐金は愛知県と名古屋市へ寄託される。ことしの演能は、宝生流能「西王母」(シテ高橋歌一) 観世流能「松虫」(シテ高橋歌一) 金剛流能「羽衣」(シテ吉川周子) 観世

歳末助け合い 義捐金募集能

能楽協会名古屋支部が主催

12月5日(日)、能4番を上演

能楽協会名古屋支部(井上松次郎支部長)主催による昭和五十七年度の歳末助け合い義捐金募集能は、きたる十二月五日(日)熱田神宮能楽殿で、能四番をはじめ、狂言、仕舞など、協会支部能楽師の出演で開催される。

演能案内	青陽会定期能	通小町	錦松	敦	竹生島	花	萩	鶉
十月十六日(日) 正午始	熱田神宮能楽殿	今村嘉男 加藤保彦 青木武弘	盛キリ 安藤勝朗 加賀敏彦 須部甫	高安勝久 飯富雅介 佐藤友彦	高安勝久 飯富雅介 河村大 後藤孝一郎 森本好信	高安勝久 飯富雅介 吉田定男 柳原富司忠 寛三男	井上礼之助 佐藤友彦 井上松次郎	久田徹二 山田義高 鬼頭英二 山口亮 鹿取川希世夫

名古屋邦謡会創立二十周年記念能楽大会	安達原	野宮	素山	文	附祝言
十月十七日(日) 午前九時始	熱田神宮能楽殿	河村総一郎 柳原富司忠 寛三男	丸井寿子 半田智子 小林富美子 西川喜代子	梅田邦久 吉田定男 後藤孝一郎 算三男	梅田邦久 吉田定男 後藤孝一郎 算三男

岡崎市鴨田本町十一ノ三
電話(052)二二五二九
取扱い 松坂屋、三越、名鉄各ブレイカイド、大学生協、熱田神宮
能楽殿 野村狂言の会名古屋事務所
昭三四〇(清経恋之音取・笹藤田 堂。(舞丸)が父上栗氏の遊覧。
六郎兵衛(昭四四)津波の巻(舞丸)が父上栗氏の遊覧。
本田義典(昭四四)津波の巻(舞丸)が父上栗氏の遊覧。
電話(052)七三二一七九八四
振替口座 0-36393

能の大衆化とは

23回大衆能を見て

前田 満穂

今年の大衆能(9月11日、愛知文化講堂)はどうだった。

旧態依然というところかな。

いや、そうでない。「恋愛、恋をテーマとして」といふ文句がついてた。

「テーマソングとしゃれたつもりかも知れないが、いささか苦しまぎれの感なきにしもあらず。

「そうばかりもい切れないよ見終ったあと、恋、愛、恋」と心の中でくり返してみると、場面々々の回想とダブって、かすかにメロディが聞えるような気がした。

やはり「テーマソング」を作っただけの効果はないとはいえない。

いや、大いにあったと思いたい。

「君のような反省なり回想なりをもって、余韻を味うような物ずきがどれほどあるかね。大多数の人は書き添えのテーマなどに関心はもたない。もつても「ああそうか」ぐらいのもの。そこに「テーマソング」を聞く期待など露ほどもなかったろう。テーマソングならもっと高らかに、大衆の関心をグッとひきつけるようなリズムとメロディを、演能全体で聞かせてほしい。

「ところで演能の成績は。

「毎年のように文句を云いつづけて来た僕に、いまさらこと新しくつけ加える言葉はない。演技の細評など実はどうでもよいことで企画一新の緊迫性の前には一切が雲霧消する。入りのよい悪いのも末の末の話だ。

「僕は能の大衆化は大衆能だけが万能ではないと思う。大衆能以外に、いろんな方法があつていい。能役者も狂言師も、もっと能楽殿の外へ出て、新しい観客層を開拓すべきだな。

「それはもう、かなり活発に行われてる。中日劇場、市民会館、名演会館などを利用した能、狂言の会はかなり増えている。もっとも、わかり易さからいって、能よ

り狂言の方が多いいのは止むを得ないがね。

「狂言といえはいつもいつも万之丞、万作、千五郎、千之丞とだけでは困るんでね。地元勢の奮起を促したい。佐藤友彦の名演劇場を舞台にした大衆能運動なんか、もっとがんばってほしいもの。

「そりゃあ、人気があつて関東関西の一流どころと張合うのは無理に違いないが、地元には地元の利もあり同情もあり、やりようはいくらでもあろう。要はやるという意欲をもつことだ。

「意欲だけで事はやれぬ。先立つものがないとね。

「そのジレンマの克服が、よそ以上に難しい土地柄でね。個人的な奮起だけでは、どうにもならない。つまり新しい意欲を削ぐ条件が余りにも多過ぎるというところだ。それだけに、どんなに小さな芽でも大事に育てる愛情と寛容さが絶対必要だ。

「笛の藤田昭彦がミュージカル「ファンタスティックス」に再度出演した。六郎兵衛襲名を前にして、と首をかしげる向きも多からうと思うが、いいじゃないか。友

彦君も以前、新劇に出たことがある。能、狂言以外の世界の人とつき合ひ、能、狂言以外の世界に生きてみることは決して悪いことではない。能の現代的な意義を考へる機縁ともなれば。

「昔は本業の邪魔になるとか、芸が荒れるとか云つたものだが、今の若い人にそんな心配はないと思う。人気一流の万作、千五郎だつて新劇やテレビドラマへの出演がマイナスになってるとは云えないではないか。

「万作といえはテレビのコマーシャルで一躍ファンをつかんだ。万作の名で狂言を見に来る人が増えたというが、これなんか、狂言の大衆化に一役果したといえるんじゃないか。八月に雲龍ホールで説教「小栗判官照手廻」を独り語りの新演出でやったが観衆ワンサ。狂言のあの手の手でアレンジして、うまくなるとめて楽しませた。才人だね。

「和泉元秀も対外的活躍が盛んだ。九月末にも名演会館で川上「寝音曲」をやつたが、明暗の対短かい橋掛りに余韻の乏しさを嘆かせたほどだ。宗家という肩書にこだわらない身軽さが、これまた狂言の大衆化に大きな役割を果たしている。

「必死、捨身、そこまでいかにと意欲も本ものでない。道も開けない。大衆能も能の大衆化、現代化の一環であることを思い、広い視野から、新しい角度から、あらためて「大衆化」の真意を探ってほしい。

「まさに「初心忘るべからず」だね。

昭和57年10月・11月放送予定

● NHKラジオ第2放送 (毎週日曜日午前9時30分)

- 〔10月〕
- 17日(日) 宝生流「杜若」金井章はか
 - 24日(日) 観世流「仏小」原大樹秀夫はか
 - 31日(日) 観世流「小」梅若万三郎はか
- 〔11月〕
- 7日(日) 宝生流「三山」野村蘭作はか
 - 14日(日) 観世流「夕顔」山本順之はか
 - 21日(日) 観世流「俊寛」片山博太郎はか
 - 28日(日) 狂言「和泉流「鳴子」三宅右近はか

● NHK・FM放送 (毎週日曜日午前7時10分)

- 〔10月〕
- 17日(日) 金春流「融生」松岡金太郎はか
 - 24日(日) 金春流「融生」松岡金太郎はか
 - 31日(日) 金春流「融生」松岡金太郎はか
- 〔11月〕
- 7日(日) 観世流「船山」井原慶太郎はか
 - 14日(日) 観世流「船山」井原慶太郎はか
 - 21日(日) 観世流「船山」井原慶太郎はか
 - 28日(日) 観世流「船山」井原慶太郎はか

(放送予定につき変更のときは)

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修調会

梅若修一

名古屋修調会大会

十月三十日(土) 午前十時始

熱田 神宮 能楽殿

〔御来場歓迎〕 主催 名古屋淡文会

一宮市浅井町東浅井 森徳子方

電話(〇五八六)七八一六四一一

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋淡文会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋淡文会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋淡文会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋淡文会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋淡文会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋淡文会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋淡文会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋淡文会

名古屋宝生会定式能

十月三十一日(日) 午後一時始

熱田 神宮 能楽殿

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋宝生会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋宝生会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋宝生会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋宝生会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋宝生会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋宝生会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋宝生会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋宝生会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋宝生会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋宝生会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋宝生会

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋宝生会

〔御来場歓迎〕

幸友会秋の会

十一月三日(祝) 午前十時始

熱田 神宮 能楽殿

〔御来場歓迎〕

主催 幸友会

〔御来場歓迎〕

主催 幸友会

〔御来場歓迎〕

主催 幸友会

〔御来場歓迎〕

主催 幸友会

〔御来場歓迎〕

主催 幸友会

〔御来場歓迎〕

主催 幸友会

〔御来場歓迎〕

主催 幸友会

〔御来場歓迎〕

主催 幸友会

〔御来場歓迎〕

主催 幸友会

〔御来場歓迎〕

主催 幸友会

〔御来場歓迎〕

主催 幸友会

〔御来場歓迎〕

主催 幸友会

〔御来場歓迎〕

観世流 金剛流 元流 剛行 流元 流本 金本 流宗 世宗

檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
 〒604 京都市中京区二条通鉄盛町東入

電話(291) 2488-9
 振替東京 3-3552
 電話(231) 1990
 振替 京都 1-113

かたてすなご
 かすが山
 十松屋
 十松屋
 十松屋
 十松屋

十松屋
 十松屋
 十松屋

入場券 五、〇〇〇円 主催 梅若盛義後援会

名古屋修調会大会
 名古屋宝生会定式能
 幸友会秋の会

井筒 篠原 真次
 笹之段 伊藤 茂

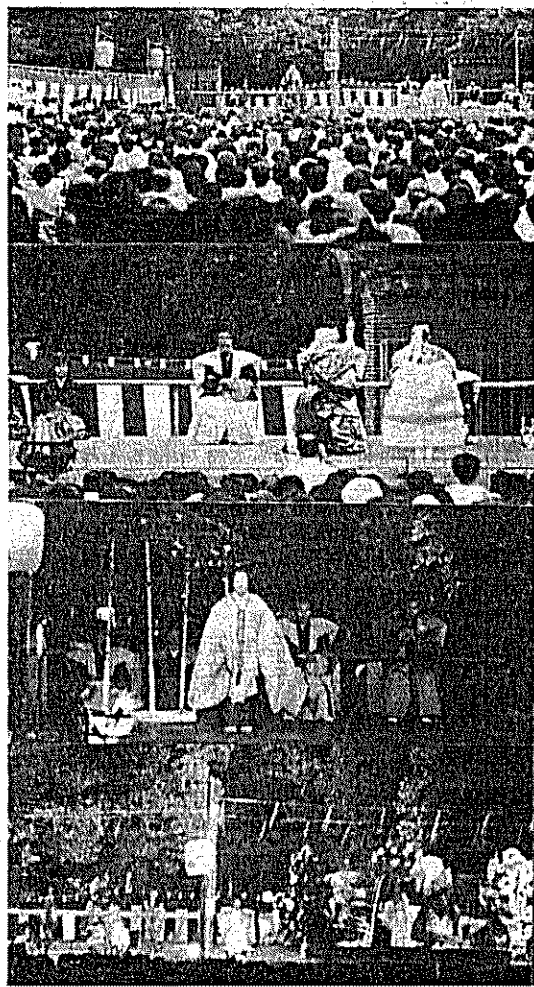
(〇面へつづく)

能楽協会名古屋支郎

演(能)の(記)録

第23回 大衆能

①から能「井筒」狂言「鏡男」能「葵上」



第17回 名古屋薪能

①から薪能会場・能「橋弁慶」能「半部」・能「石橋」

茂山忠三郎・狂言の会

東京、大阪など四回公演

狂言大流「茂山忠三郎・狂言の会」は、ことし九月二十九日・福岡(住吉能楽殿)十月五日・大阪(大阪能楽会館)の開催について、また十月十五日(金)・東京(宝生能楽堂)、十月二十一日(木)京都(京都観世会館)の四カ所で連続公演が行われる。

七二一四五一九。東京公演、京都公演の演目は次のとおりである。【東京公演】宝生能楽堂 十月十五日(金)午後6時45分 小舞「海人」茂山千作

一般 前売二千五百円(当日三千円) 学生二千円(当日二千五百円) 入場券は京都観世会館(電〇七五七七一一六一四)又は〇六一八六三一一八五〇柳川方。

第二回野村狂言の会 名古屋公演

十一月六日(土)午後二時開演 熱田神宮能楽殿 野村万之丞 野村又三郎 野村又三郎

事務所・千四八〇一一 愛知郡長久手町長瀬丁宇田 六二二浜田義孝方 電話〇五六六一二一六四〇三

風韻会能

十一月七日(日)午前十時始 熱田神宮能楽殿 平岩昌子 高木あき子

Table listing names and roles for the 'Fūryū Kaigai' performance, including names like 仕舞松、通小町、船井慶、素三井寺, and their respective roles and locations.

能弱法師

守部 啓子 西村 欽也 吉田 定男 藤田 陽彦

能蟬 殺生石 渡辺 節子 柳原富司 寛 三男

紅葉狩 鬼頭貴代子 後藤 孝一 寛 三男

獨吟鉢ノ木 日比大吉郎 林喜久子 吉田 文子

葛 輪 高田みね子 寛 三男

天 鼓 佐藤アヤ子 後藤 孝一 寛 三男

狂言盆 番外仕舞 山 佐藤 友彦 大野 弘之

〔御来場歓迎〕 後藤 毎 日 新 聞 社

九月の舞台から

一語会・叶石会大会

名古屋観世会定式能(五回)

先代藤田六郎兵衛重明三回忌

追善能

耳目抄

「序の舞」、テレビ能、野上豊一郎氏の

新聞小説「序の舞(朝日夕刊)」。八月二十八日、三九二回で筆をおさめる。同月三十一日の作者宮尾登美子氏の「同」連載を終えて「は実に心引かれた。そして一途にあの(上村松園)モデルの小説に、一年三か月の間、引きずられていった。(絵をかいた)より、(男)対女」としてはげしく、温かな主人公へ島村松翠(津也)が大きな眼目であった。少し恋人の下村桂三とのやりとりにつきまされたのではないかとと思われる。それは私が(能)と松園・松翠を特に結び付けたかった期待のせいもある。わずかな実名人物のなかに金剛殿氏(先代)が目についた。金剛殿のことで確かめたことが一、二ある。能の面は、この小説の題名にもなつた(序の舞)をはじめ(花燈籠・鉄輪・葵上)などが取り上げられ、挿画(下村良之助氏、佳)にもなつた。ほかに能面の挿画も一回あつた。なお「枕絵云々」は大胆な構想・筆致であつたが、名作(夕暮)(三八七回)と最後の回はひどく凝った気持・全編(厚物味)の菊の感じをほぐしてくれた。いくつか名古屋でも「上村松園展」が開かれるように望みたい(耳目抄・昭五六・六月開演)。

九月の「道成寺」(松岡道雄、十五日)と「土蜘蛛・千筋之伝」(前金剛殿・後同永徳、二三日)のテレビ能は佳かつた。道成寺は実に長い間待望の曲であつた(とにもNHK)。当日は、乱拍子で横一文字に持つ扇のカチカチ笑し、女の哀れ・怒りがきびしいなかにやさしく泣きとれた。天井の吊鉤も鐘もろともに写された。久し振りに放送の後者は鮮麗。上品でリズム感あり。作り物(思)の大きめの白とこられた前後十五・六回投げかける蜘蛛の糸の白色の乱舞が目をつけた。なお一時間半の曲は増田正造氏の解説が曲の進行につれて前半(大部分)入り、後者は実演五分(間狂言入り、茂山千五郎)、対話十分。渡会恵介(へき手)・権藤芳一(阿氏)。宝生能楽堂と京都観世会館。

付言するに、土蜘蛛後シテの金剛殿氏は、この十月、道成寺(古式)を舞う由。放送。止動方角(茂山忠三郎・山本東次郎・善竹幸四郎)。珍しい組み合わせ。おもしろい。「舞台をみてから、家へ帰って来たので笑いがあつたように父(先代)に教えられました」(忠)。「東京と関西とは味わいがちがいますね」(東)。「父(弥五郎)にはきびしい習わされました」(幸)の三者三様の発言があつた。これは古典芸能の伝承についてきかれた答えのうちのことである(NHK伝統芸能の会(録音)、八月)。

野上豊一郎氏の本復刊(能三部作(能・研究と発見)(能の再生)(能の幽玄と花)、岩波書店)。「横濱萬里雄氏は「図書・九月号」(同店)の「野上豊一郎の能三部作」で「ひと口で言え、(能)とは何ぞや」ということが論(注、三部作)のねらいなのであるから読者はこの書によつて個々の事実を知ろうとしないほうがよいのである。そうすればこの書は、読者の眼の輝を払う大導師の役を勤めてくれるであろう」と結ばれる。戦前の本(良書、大切な資料)がこれで数種類復刊(刻)される。

狂言・野村万蔵の世界。青木信二写真集(序・加藤周一、演目解説・野村万蔵。朝日ソノラマ)。観世流古型付集(法大能研編「能楽資料集第十二巻」)。西野春雄校訂。わんや書店)。

九月の「道成寺」(松岡道雄、十五日)と「土蜘蛛・千筋之伝」(前金剛殿・後同永徳、二三日)のテレビ能は佳かつた。道成寺は実に長い間待望の曲であつた(とにもNHK)。当日は、乱拍子で横一文字に持つ扇のカチカチ笑し、女の哀れ・怒りがきびしいなかにやさしく泣きとれた。天井の吊鉤も鐘もろともに写された。久し振りに放送の後者は鮮麗。上品でリズム感あり。作り物(思)の大きめの白とこられた前後十五・六回投げかける蜘蛛の糸の白色の乱舞が目をつけた。なお一時間半の曲は増田正造氏の解説が曲の進行につれて前半(大部分)入り、後者は実演五分(間狂言入り、茂山千五郎)、対話十分。渡会恵介(へき手)・権藤芳一(阿氏)。宝生能楽堂と京都観世会館。

で。朝日九・三朝刊)。
古代ギリシヤ美の規範(黄金比)についての新事実。関隆志・大阪市大助教授・西洋古典考古学。朝日九・二二文化欄)。
西脇順三郎氏のこと(追悼号の)

本、九月耳目抄(開演)は次号に。十月は、十日に、金春流本田秀男師十七回忌追善能が催される。能組前月号に、好番組。(五七・十一、一〇)

業平はついに口説いたことはなし(川柳漫歩・林富士馬。東京九・十四学芸欄)。

能の手法でハムレット上演。金五郎。英語。「シテ(舞い手)の謡や地謡は原作の英語のセリフに節付け」。静岡市(能・シエークスピア研究会(主宰・宗片邦義・静大教授、アマグループ)公演。静岡市内日本庭園(醍醐荘)野外能舞台。来年二月来能楽堂で再上演の予定。くわしくは(東京八・三〇芸能欄)を参照されたい。

暗殺の舞台を発掘。ギリシヤ(アレキサンダー大王の父王暗殺の場所(円形劇場)。古代マケドニアの首都があつた村ベルギナ

名古屋市教育委員会、能楽協会

して解説が行なわれる。

初陽会大会

十一月二十三日(祭)午前九時始

熱田神宮能楽殿

- 番外狂言 天 鼓 武田 宗和
菊 童 岩城 ヌキ 森 郷巳
清 経 山崎 尚志
井 筒 宮川 美代子 武田 宗和
雲 林 松浦 忠男 関根 知孝
蟬 丸 久米 七子 武田 宗和
弱法師 鈴木信太郎 山森 幸男
仕舞 紅 葉 狩 吉田シズカ
社 正 若 渡辺 郁
紅 葉 聖子

西行桜 杉本 勉 宮崎 幸男
(十二時頃)

忠 度 河村 總一郎 寛 三男
山本 一 藤 晴蔵 佐藤 友彦

- 百 万 浅井 一元 後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛
胡 蝶 立野 善吉 後藤 孝一郎 鬼頭 喜太郎
求 塚 竹内 正 河村 總一郎 藤田 六郎兵衛
融 山田 武嗣 河村 總一郎 藤田 六郎兵衛
船 弁 慶 大谷シズカ 福井 啓次郎 助川 竜夫
遊 行 柳 清水かな子 郷 郭太郎
狂言 舟 小 井上松次郎 井上礼之助
仕舞 玄 象 武田 宗典 (三時二十分頃)

吉野 野崎 博子 藤 晴蔵 鬼頭 喜太郎
野崎 博子 藤 晴蔵 鬼頭 喜太郎
野崎 博子 藤 晴蔵 鬼頭 喜太郎

名古屋市教育委員会、能楽協会

藤 戸 加藤 ヤス岡 久田 徹二 河村 總一郎 寛 三男
西 王 母 小林 絹子 柳原 富司忠 藤田 六郎兵衛
通 小 町 大谷 藤吉 福井 啓次郎 藤田 六郎兵衛
野 宮 高橋 三郎 河村 總一郎 寛 三男
雲 雀 山 鈴木 容子 河村 總一郎 藤田 六郎兵衛
鞍馬 天狗 神沢 幸吉 後藤 孝一郎 寛 三男

梅若 盛義 後援会
十一月二十七日(土)午後二時始
熱田神宮能楽殿

- 番 井戸 和男 池内光之助 梅若 盛義
塚 西村 敏也 福井 啓次郎 助川 竜夫
求 塚 橋本 雅一 梅若 善高 山田 並彦 井上 朗
雁 磯 井上松次郎 大野 弘之
石 橋 西村 敏也 吉田 定男 鬼頭 喜太郎

先代藤田六郎兵衛重明三回忌

名古屋市教育委員会、能楽協会

世界の動き 身近な話題

東京新聞 中日新聞

東京中日スポーツ

中日新聞本社・名古屋市中区三の九一丁目6番1号 電話052-201-8811
東京本社・東京都港区港南2丁目3番13号 電話03-471-2211
北陸本社・金沢市香林坊2丁目7番15号 電話0762-61-3111
東海本社・浜松市東町45番地 電話0534-21-7111

外科・せいかい外科・皮膚、泌尿器科

東山整形外科

TEL 781-7835

東山公園駅下車 オークランドビル2F

割烹・小料理

城

- 熱田神宮能楽殿喫茶部
- 住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248
- 喫茶・グリル(愛宕野地下ビル) 電話 731-1128

藤 戸 加藤 ヤス岡 久田 徹二 河村 總一郎 寛 三男

発行 能 楽 の 友 社
名古屋市中区千種千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7 9 8 4
振替口座 名古屋0-36393
送料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
— 部 70円

能 楽 の 友

年金のお受取りは名銀で

- 自動的に振込まれて便利です
- 共済年金の方もご利用ください。

名古屋相互銀行

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[11月]

- 13日(土) 一謡会叶石会大会 (来場歓迎)
- 14日(日) 観世会定式能 (有料)
- 20日(土) 故藤田六郎兵衛追善龍吟会大会 (来場歓迎)
- 21日(日) 故藤田六郎兵衛追善能 (有料)
- 23日(祭) 初陽会大会 (来場歓迎) (番組①面)
- 27日(土) 梅若盛義後援会 (有料) (番組①面)
- 28日(日) 和泉宗家後援会名古屋特別公演 (有料) (番組②面)

[12月]

- 5日(日) 歳末助け合い義捐能 (有料) (番組②面)
- 12日(日) 登泉会能 (有料) (番組③面)
- 19日(日) 青少年のための芸術劇場 (有料) (番組③面)
- 26日(日) 乱 能 (有料)

[昭和58年1月]

- 3日(月) 能楽協会名古屋支部新年謡初式 (能楽協会関係者のみ) (来場歓迎)
- 8日(土) 学 生 能 (来場歓迎)
- 15日(祭) 清 浄 会 能 (来場歓迎)
- 29日(土) 青 陽 会 定 期 能 (有料)

[2月]

- 6日(日) 宝 生 会 定 式 能 (有料)
- 11日(祝) 麦 の 会 公 演 (有料)
- 13日(日) 観 世 会 定 式 能 (有料)
- 19日(土) 観 世 会 九 草 会 定 期 能 (有料)
- 20日(日) 春 鼓 会 春 の 会 (来場歓迎)
- 27日(日) 登 泉 会 春 の 会 (来場歓迎)

(演能変更の節はご了解下さい)

名古屋観世会の昭和五十八年度定式能は、初回二月十三日(日)で年五回行われる。予定番組は次のとおり。

●第一回 二月十三日
能「屋 島」 観世 元昭
能「百 万」 観世 元正
●第二回 四月十日(日)
能「嵐 山」 関根 祥六
能「揚 貴 妃」 梅若 紀彰
●第三回 六月十二日(日)
能「水無月夜」 山本 勝一

58年度 観世会定式能 初回 2月13日、年5回公演

能「玄 象」 観世 喜之
●第四回 九月十一日(日)
能「盛 久」 武田太加志
能「三 輪」 大槻 秀夫
●第五回 十一月十三日(日)
能「定 家」 片山博太郎
能「安 達 原」 観世鉄之丞
各回とも能のほかに、狂言、素謡、舞囃子、仕舞がある。
会員券は、指定席(年五回分)二万五千円▽自由席(年五回分)一万五千円。

本年の乱能は、能「菊慈童」(シテ寛三男II笛方)「羽衣」(シテ福井啓次郎II小鼓方)「船弁慶」(シテ野村又三郎II狂言方)の能三番は狂言、舞囃子など、開演十時三十分。

能 船弁慶 狂言 太刀奪

青少年のための芸術劇場

12月19日 熱田能楽殿で

名古屋市教育委員会 能楽協会 名古屋支部主催による、名古屋市青少年のための芸術劇場「能・狂言」は、十二月十九日(日)熱田神宮能楽殿で、午前十時と午後二時からの二回上演される。

この公演は、働く青少年、高校生など広く青少年に能・狂言を鑑賞できる機会を与えようと毎年催されている。

第一部、狂言「太刀奪」(シテ野村又三郎)能「船弁慶」(前シテ内藤泰二、後シテ衣笠正直)
第二部狂言「太刀奪」(シテ井上松次郎)能「舟弁慶」(前シテ内藤泰二、後シテ衣笠正直)
なお「能の話」「狂言の話」として解説が行なわれる。

12月26日「乱能」

熱田能楽殿で11年ぶり

能楽協会名古屋支部(井上松次郎支部長)では、きたる十二月二十六日(日)熱田神宮能楽殿で、十一年ぶりに「乱能」(らんのか)を上演することになった。

中部の楽師会としては、昭和四十四年までは毎年歳末に「乱能」を開催、翌四十五年は休業したが四十六年十二月に上演され、それ以来久しく開催されていなかった。このたびは能楽関係者の努力で開催されることになった。

「乱能」とは、能楽師がそれぞれ他の役々をつとめて演能を構成するもので、単に「興味深い」というだけでなく、本来は他の役々を勉強することによって本当に能とすることができるといふことで、芸の練磨することに意義があり、役がかわっても立派にその役を上演するのが本来のものである。

初陽会大会

十一月二十三日(祭) 午前九時始

- 番外狂言 天 鼓 武田 宗和 森 郷巴
- 雲 井 清 松木 千俊
林 院 筒 山崎 尚志
丸 院 宮川 美代子
丸 院 松浦 忠男
丸 院 関根 知孝
丸 院 武田 宗和
丸 院 山森 幸男
- 仕舞 紅葉 狩 吉田シズカ
弱法師 丸 渡辺 郁
仕舞 紅 葉 狩 渡辺 郁
- 西 行 桜 杉本 勉 宮崎 幸男

追善 能

十一月二十一日(日) 午前十時始

指定席 一万三千元
自由席 一万円
お問合せ 九号 藤田昭彦方
御申込所 電話(五七)一五七六三番
(自由席のみ松坂屋アレイガイドでも扱っております)

梅若盛義後援会能

十一月二十七日(土) 午後二時始

- 雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助
- 求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男
- 雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助
- 求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

能 吉野 天人

- 野崎 博子 森 晴蔵
間 岡次郎右衛門 寛 鉦一 鬼頭喜太郎
後見 武田太加志 地謡 松本 千俊 関根 知孝
久田 雅章 岡 久広

能 遊 行 柳

- 仕舞 玄 象 武田 宗典 井上礼之助

能 融 舟 慶

- 山田 武嗣 河村 隆一郎 助川 竜夫
大谷シズカ 福井啓次郎 藤田六郎兵衛
清水かなみ 郷 郭太郎

能 求 塚

- 立野 善吉 後藤 孝一郎 鬼頭喜太郎
竹内 正 河村 隆一郎 助川 竜夫
山田 武嗣 福井啓次郎 藤田六郎兵衛

能 胡 蝶

- 後見 武田 宗和 地謡 河村 隆一郎 古橋 正士
武田太加志 中川 雅章 野村 四郎
関根 知孝 藤田 完治

能 万 一

- 後見 武田 宗和 地謡 河村 隆一郎 古橋 正士
武田太加志 中川 雅章 野村 四郎
関根 知孝 藤田 完治

能 度 一

- 後見 武田 宗和 地謡 河村 隆一郎 古橋 正士
武田太加志 中川 雅章 野村 四郎
関根 知孝 藤田 完治

能 雲 井 清

- 松木 千俊 山崎 尚志
宮川 美代子 武田 宗和
松浦 忠男 関根 知孝
武田 宗和 山森 幸男

能 仕舞 紅葉 狩

- 吉田シズカ 渡辺 郁

能 西 行 桜

- 杉本 勉 宮崎 幸男

能 雁 磔

- 井上松次郎 大野 弘之助

能 求 塚

- 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

能 雁 磔

- 井上松次郎 大野 弘之助

能 求 塚

- 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

能 雁 磔

- 井上松次郎 大野 弘之助

能 求 塚

- 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

能 雁 磔

- 井上松次郎 大野 弘之助

能 求 塚

- 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

能 雁 磔

- 井上松次郎 大野 弘之助

能 求 塚

- 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

能 雁 磔

- 井上松次郎 大野 弘之助

能 求 塚

- 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

能 雁 磔

- 井上松次郎 大野 弘之助

能 求 塚

- 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

能 雁 磔

- 井上松次郎 大野 弘之助

能 求 塚

- 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

能 雁 磔

- 井上松次郎 大野 弘之助

能 求 塚

- 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

能 雁 磔

- 井上松次郎 大野 弘之助

能 求 塚

- 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

能 雁 磔

- 井上松次郎 大野 弘之助

能 求 塚

- 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

能 雁 磔

- 井上松次郎 大野 弘之助

能 求 塚

- 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

能 雁 磔

- 井上松次郎 大野 弘之助

正面自由席 五、〇〇〇円 一般自由席 三、〇〇〇円
入場券申込所 能楽殿及び出演楽師

〔有料〕 主催 梅若盛義後援会

石 橋 西村 欽也 吉田 定男 後藤 孝一郎 鬼頭喜太郎 藤田六郎兵衛

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

雁 磔 井上松次郎 大野 弘之助

求 塚 西村 欽也 寛 鉦一 助川 三男

友の楽能

昇

二井栄逸

ちて、隠れいゆかば、念ほえんかも

叙景歌人、山辺赤人の名歌に想を得て作られた新曲能で、作詩は

能楽の自由な空間と、時間の処理や、露わな形而上学的な主題などを、そのまま現代に生かすために、シチュエーションの方を現代化したものである。というものは近代能楽集の作者である三島由紀夫の言葉である。能のテーマを現代に生かそうとする演劇活動は盛んに行われる。



にひきこまれることもしばしばあった。それは、自分が薄青いイリネーションにおぼれてしまうのかもしれないが、画家はイリネーションの世界にあって、絶えず未知への思考実験を始めようとする。

(2)

土岐善磨博士、作曲は第十五世家の喜多実先生である。

和泉宗家後援会、十一月二十八日(日)午後一時始

和泉宗家後援会 名古屋特別公演

十一月二十八日(日)午後一時始

犬山伏 井上松次郎

井杭 三宅藤九郎

花子 和泉元秀

素袍落 野村万之丞

能狸々乱 梅田邦久

入場料 A五千元(指定席) B三千元(自由席) 〇三(九七四)〇五〇六

お申込みは 和泉宗家後援会 〇五二(三三二)一四三〇

歳末助け合い 義捐金募集能(第十四回)

十二月五日(日)午前十時始

西王母 西村欽也

田村 長田 豊

玉葛 前田 茂穂

松虫 飯富 雅介

羽衣 西村 欽也

狐塚 井上松次郎

藤戸 久田 秀雄

七ツ子 野村又三郎

鶴間 飯富 雅介

附祝言 主催 能楽協会名古屋支部

名古屋青少年のための芸術劇場

各地だより

名古屋観劇会秋の会

名古屋観劇会は、十一月二十三日(日)名古屋市中区栄五丁目四の能楽舞台で、秋の素齋会を開催する。

春日井

春日井市、春日井市教育委員会主催により、十一月二十八日(日)春日井市民会館で「狂言」を開催する。

岐阜

岐阜県立文化センターで、十一月二十三日(日)岐阜市中央公会堂で「故郷」を開催する。

能「羽衣」

「班女」

能「羽衣」は、十一月二十三日(日)名古屋市中区栄五丁目四の能楽舞台で、秋の素齋会を開催する。

大槻文蔵師「恋重荷」

大槻文蔵師の「恋重荷」は、十一月十六日(日)大槻文蔵師の「恋重荷」を開催する。

大

大槻文蔵師の「恋重荷」は、十一月十六日(日)大槻文蔵師の「恋重荷」を開催する。

(2)

能友随想

能友随想

能友随想

能友随想

能友随想

春日井 青委員会の主催により、十一月二十八日(日)春日井市民会館で「狂言を...

能友随想

道成寺・古式と

卒都婆小町

野村広二

十月、京都へ二度行く。眼福を得た。

十一月は室町へ道成寺・古式(金剛永護)を。大鼓は名古屋・河村総一郎氏。昨年より待望の同曲を...

能友随想

道成寺・古式と

卒都婆小町

野村広二

前後のうすくまらぬ姿の対比、そして最後の合掌の「カタチ」の風情が得も言われぬ。

十一月は室町へ道成寺・古式(金剛永護)を。大鼓は名古屋・河村総一郎氏。昨年より待望の同曲を...

名古屋観劇会秋の会

十一月二十三日(祭)午前十時始

名古屋市中区第五丁目一四

栄能楽ビル四階

電話二六二二一八三

番外連吟

番組

素田村

素千手

素遊行柳

素遊玄

素遊景

- 河村信重 山本博通 岡村イッ子 地頭山田伸子 安藤恵子 地頭伊藤一枝 武藤愛子 久納希秋 水野浩司 鈴木幸子 (正午頃)

観劇会懇親会

熱田神宮会館で開催

宝生流・豊雲会(内藤泰二師主)

十一月十五日熱田神宮

宝生流・豊雲会(内藤泰二師主)



宝生流・豊雲会(内藤泰二師主)十一月十五日熱田神宮

MOA美術館定期能

熱海・MOA美術館定期能は十月五日(火)同能楽舞台で催され

宝生流能「半部」(シテ大坪十高)

能「船弁慶」(シテ宝生英照)

後シテ辰己孝(狂言「鐘の音」)

野村又三郎、井上礼之助(能)、「半部」(船弁慶)の大鼓に河村総一郎、河村大の両氏がそれぞれ出演した。

壺泉会

十二月十二日(日)午後一時始

熱田神宮能楽殿

壺泉会

壺泉会

- 後見 朝山清 泉 雅一郎 水藤 元三 大槻 秀夫 泉 泰孝 今村 嘉男 泉 泰孝 藤 芭 泉 泰孝 藤 芭 泉 泰孝

能楽協会名古屋支部

十二月十九日(日)

午後二時 二回公演

熱田神宮能楽殿

能楽協会名古屋支部

- 狂言について 佐藤友彦 第一部(午前十時始) 内藤泰二

船弁慶

十二月十九日(日)

午後二時 二回公演

熱田神宮能楽殿

船弁慶

- 狂言について 佐藤友彦 第一部(午前十時始) 内藤泰二

第二部(午後二時始)

能について

狂言について

太刀奪

船弁慶

- 佐藤友彦 内藤泰二 佐藤友彦 井上松次郎 井上礼之助

Table with columns for dates (11月, 12月) and program details (NHKラジオ第2放送, NHK-FM放送). Includes program names like '夕顔', '流世', '三流', '流世', '流世', '流世'.

附祝言 主催 名古屋教育委員会 能楽協会名古屋支部 入場料 五百円 市内各ブレイクアードにて発売

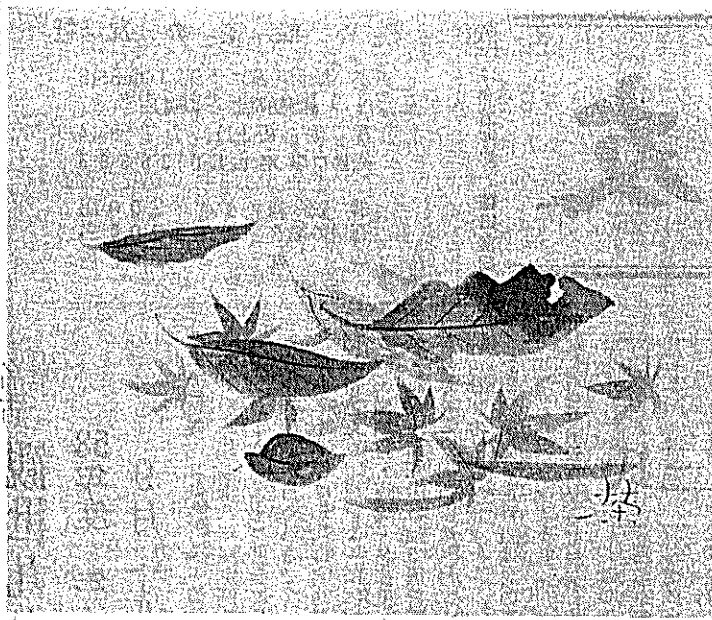
附祝言 主催 能楽協会名古屋支部 入場料 五百円 市内各ブレイクアードにて発売

附祝言 主催 能楽協会名古屋支部 入場料 五百円 市内各ブレイクアードにて発売

五月雅日記

落葉する頃

二井 栄逸



楓、桜の落葉が散る。
 風がなくても、ひとひら、ふたひら、紅や黄色にそまった紅葉が散ってゆくのをみていると、一入晩秋の静けさが身にしみてくる。野や山を錦でかきわたった木々の葉は地上に散って又、錦の絨毯を敷く。ひと夜、強い風が吹くと、広い道路にも、ビルの谷間にも落葉が風に舞う。古新聞等が散らばるのと違って少しも苦にならない。あおぎりのような大きな落葉はカサカサと音を立てるけれど少しもうらさびしい感じはない。やはり冬の景色からくる感覚である。

嵐吹く、三室の山の、もみぢ葉は、龍田の川の、錦なりけり——能因法師の歌による紅葉散景色の伝花は、私の家に伝わる伝承花の一つなので晩秋になるとよく生けさせる。

川面に散った紅葉は流れにのって私達は、同じ落葉と書いても、

24

葉が木から落ちてゆく現象のことを落葉(らくよう)といひ、すでに地上に落ちてゐる葉のことを落葉(おちば)と区別したりする。

所は六浦の浦風山風
 吹きしをり吹きしをり
 散るもみぢ葉の
 月も照りそいで
 唐紅の庭の面——

一首の歌を題材にして、草木の精を舞わせる能、六浦(むつら)のキリの優雅さは、散るもみぢ葉の雨を通して見るように美しい。昔私達の宗家の喜多家十二代能

狂言、中国で公演

野村狂言団、北京、上海を訪問

「舟渡智」「棒縛」「茸」上演

中国との文化交流を深めるため野村狂言の会が北京、上海で十二月末から新春にかけて公演する。狂言団には、野村万之丞、野村万作、野村万之介、野村耕介、それに名古屋から野村又三郎氏が参加する。一行は十二月二十七日出発、北京、上海でそれぞれ二回ずつ公演、演目は「舟渡智」「棒縛」「茸」を上演、帰国は一月七日の予定。

金剛会の運営活動

地方との連繋を強める

金剛会(廣田隆一理事長)は、同会の趣旨である四大方針、組織伝承・普及・養成に宗家を頂点にした組織の確立、職分、準職分、師範、流友の連繋を強化すべく活動を行っており、流儀の基礎である京都の定期例会をこれまでには在任の者で勤めてきたのを、まず地方との連繋を密に、情報の交流を考へ、ことし一月の謡初式より豊嶋訓三、豊嶋一喜、豊嶋敬三郎、田村信一郎の四氏が毎例会に出動、例会後理事会を開催、金剛会の運営に当たっている。

なお、金剛会の昭和五十八年度の活動として、青少年劇場は広田隆一氏が団長となり明年八月下旬「船弁慶」を五公演、国立能楽堂は九月の舞台披露に宗家父子の

名古屋清韻会能

昭和五十八年一月十五日(祭)十時始

神歌	大橋 広行	千歳 桑原 信夫
高砂	大橋 広行	桑原 信夫
安宅	伊藤 俊義	赤松 慎友
	浮貝 鎮一	高橋 博彦
	高橋 宗三	同山 貞三
	子方 松山 忠司	加野 昭三郎
	鈴木 明	鈴木 明
小	伊藤 俊義	赤松 慎友
	浮貝 鎮一	高橋 博彦
	高橋 宗三	同山 貞三
	子方 松山 忠司	加野 昭三郎
	鈴木 明	鈴木 明
花	伊藤 俊義	赤松 慎友
	浮貝 鎮一	高橋 博彦
	高橋 宗三	同山 貞三
	子方 松山 忠司	加野 昭三郎
	鈴木 明	鈴木 明
二人	伊藤 俊義	赤松 慎友
	浮貝 鎮一	高橋 博彦
	高橋 宗三	同山 貞三
	子方 松山 忠司	加野 昭三郎
	鈴木 明	鈴木 明
富士太鼓	伊藤 俊義	赤松 慎友
	浮貝 鎮一	高橋 博彦
	高橋 宗三	同山 貞三
	子方 松山 忠司	加野 昭三郎
	鈴木 明	鈴木 明

57年12月・58年1月放送予定

● NHKラジオ第2放送 (毎週日曜日午前9時30分)

〔12月〕
 19日(日) 観世流「唐流」山本真賀ほか
 26日(日) 金春流「爽」金春信高ほか

〔58年1月〕
 9日(日) 喜多流「鉢木」友枝喜久夫ほか
 16日(日) 同流「上松」同 上
 23日(日) 観世流「老松」井上喜久ほか
 30日(日) 金剛流「雪」豊嶋訓三ほか

● NHK・FM放送 (毎週日曜日午前7時10分)

〔12月〕
 29日(日) 観世流「俊寛」片山博太郎ほか
 26日(日) 宝生流「山姥」今井泰男ほか

〔58年1月〕
 9日(日) 観世流「雲林院」観世鎮之丞ほか
 16日(日) 同流「上松」同 上
 23日(日) 観世流「唐流」山本真賀ほか
 30日(日) 宝生流「鶴」近藤 礼ほか

● NHK教育テレビ
 12月31日(金) 午前8時30分~10時
 能「權風」宝生英雄、宝生閑ほか
 (放送予定につき変更のときはご了承下さい)

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋清韻会
 指導 大槻 秀夫

山姥	富士道周明	吉田 定男	鬼頭喜太郎
間	柳原富司忠	柳原富司忠	寛 三男
女	寛 三男	寛 三男	寛 三男
遊	池田 忠三	吉田 定男	助川 竜夫
自然居士	長谷川 実	吉田 定男	藤田 六郎兵衛
井筒	殿島満里子	後藤 孝一郎	寛 三男
藤戸	高田みね子	吉田 定男	藤田 六郎兵衛
玄象	佐藤アヤ子	吉田 定男	寛 三男
熊坂	渡辺 節子	鬼頭 英二	助川 竜夫
祝言	島 大槻 文蔵	島 大槻 文蔵	赤松 慎友
祝言	松 城 修二	松 城 修二	泉 嘉夫
祝言	大槻 秀夫	大槻 秀夫	泉 嘉夫

(終演五時頃の予定)

多影、十一月の狂言

各地だより

忠 度 山本 勝一

大阪能楽観賞会 大阪府北区

第二十六期第四回

能

多彩、十一月の狂言

「川上」「花子」「井杭」など

「早いものだね。もう年の暮近すこまどまどと上げた手腕は買うが、きぬさぬの別れを語る濡れ草の間が、ちよっとばかりダレかかった。もっとメリハリを、もっと色気を、といたいたところだ。つまり「情に流され」かかっていやしませんか」と懸念する次第だ。それも大曲意識が過ぎたのかな。

「川上」(野村万作)だ。つい九月末に和泉元秀がやっただけ、場所が名演会館だったから、まともな比較はしにくい。それだけに万作への興味、期待は大きかった。

「花子」(野村万作)だ。つい九月末に和泉元秀がやっただけ、場所が名演会館だったから、まともな比較はしにくい。それだけに万作への興味、期待は大きかった。

「元秀の「川上」は情の川上、二人の仲直りを納得させる演出だが、それはそれで面白い。ほのぼのとした後味を残して楽しかったが、望むらくは、もう一度、本格的な舞台で見たものだ。

「元秀を「情」といえば、万作は「知」かな。いずれも、技においてひけをとらぬ同士だけに、この形容は人間のそれだ。遊石が云っているではないか。「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される」とね。もっとも二人とも、角は立たず、流されぬところが大したもの。

各地だより

山本定期能

山本定期能楽会の昭和五十八年度上半期予定番組は次のとおりである。

- 一月九日(日) 梅老 松浦信一郎
- 一月十三日(日) 駿馬天狗 山本 真賀
- 二月十三日(日) 後寛 千崎 隆一
- 吉野 山本 勝一
- 海士 河村 慎二
- 懐中之舞 山本 真賀
- 四月九日(土) 東居岸士 山本 真賀
- 桜川 八木 康夫
- 船井慶 山本 章博
- 研究会 旭山本 博通

能友随想

先代藤田六郎兵衛

十一月、頭書の追善能が催された。あれは藤田六郎兵衛の追善能だ。六郎兵衛(うろくびょう)を名乗ることとなる。二十九才。朝十時から夕方五時過ぎまで。終れば、熱田の社(もり)の上にて六日の月がきれいにかかる。大能。シテ方五流・笛方三流が顔を揃え、三役の豪華な演出が先代の人柄をしのばせ、新元来の将来を祝う。狂言は和泉流。

追善能に「卒都婆小町」・橋岡久太郎(前家元高安滋郎嗣子)氏は初代金剛殿を十一月に披かれた。右追善能で観世元正氏が小鍛冶をうける様が親子のようであった。勝久氏も高い山をまた一つ越えた。第二部(第一部は朝長)とも言うべき舞臺五つ。古拙で神味ある海人(金春信高)で始り、懸河の勢あるしやうしやな頼政(観世元昭)清純で永遠の姿を見せる雪(金剛永徳)質実かつ節度あり、やさしい御前(喜多節、久方振り)に美しいリズム感に富む乱(双ノ舞、観世鏡之丞・片山博太郎)それぞれに興味つきず。これだけで堪能(たんのう)する思い十分。(雪)の鹿取希世・笛は印象にのこる。また金剛流・下掛

大阪能楽観賞会

昭和58年度公演

大阪能楽観賞会の昭和五十八年度公演予定は次のとおり。

- 一月十八日(火) 一月十八日(火) 梅若 紀彰
- 三月二十二日(火) 「井 高」 松本 忠雄
- 五月十七日(火) 「海士」 関根 祥六
- 九月十三日(火) 「半 節」 梅若万三郎
- 十一月十五日(火) 「善知鳥」 河村 隆司

追善能

野村 広二

追善能に「卒都婆小町」・橋岡久太郎(前家元高安滋郎嗣子)氏は初代金剛殿を十一月に披かれた。右追善能で観世元正氏が小鍛冶をうける様が親子のようであった。勝久氏も高い山をまた一つ越えた。第二部(第一部は朝長)とも言うべき舞臺五つ。古拙で神味ある海人(金春信高)で始り、懸河の勢あるしやうしやな頼政(観世元昭)清純で永遠の姿を見せる雪(金剛永徳)質実かつ節度あり、やさしい御前(喜多節、久方振り)に美しいリズム感に富む乱(双ノ舞、観世鏡之丞・片山博太郎)それぞれに興味つきず。これだけで堪能(たんのう)する思い十分。(雪)の鹿取希世・笛は印象にのこる。また金剛流・下掛

追善能に「卒都婆小町」・橋岡久太郎(前家元高安滋郎嗣子)氏は初代金剛殿を十一月に披かれた。右追善能で観世元正氏が小鍛冶をうける様が親子のようであった。勝久氏も高い山をまた一つ越えた。第二部(第一部は朝長)とも言うべき舞臺五つ。古拙で神味ある海人(金春信高)で始り、懸河の勢あるしやうしやな頼政(観世元昭)清純で永遠の姿を見せる雪(金剛永徳)質実かつ節度あり、やさしい御前(喜多節、久方振り)に美しいリズム感に富む乱(双ノ舞、観世鏡之丞・片山博太郎)それぞれに興味つきず。これだけで堪能(たんのう)する思い十分。(雪)の鹿取希世・笛は印象にのこる。また金剛流・下掛

58年新春放送予定

NHK教育テレビ

一月一日(祝) 能(金春流) 一月二日(日) 東西狂言 和泉流「福屋」三宅藤九郎、和泉元秀ほか、大蔵流「弥山伏」茂山千作、千之丞ほか

一月三日(月) 能(観世流)「鶴」観世鏡之丞ほか 一月九日(日) 能(金春流) 一月二日(日) 東西狂言 和泉流「福屋」三宅藤九郎、和泉元秀ほか、大蔵流「弥山伏」茂山千作、千之丞ほか

続・九段下より

佐藤 芳彦氏著

「続・九段下より」佐藤 芳彦氏著 雑誌「宝生」の九段下よりの連載をはじめ、宝生流師の図解、宝生流地拍子書など温習ふかい著

追善能に「卒都婆小町」・橋岡久太郎(前家元高安滋郎嗣子)氏は初代金剛殿を十一月に披かれた。右追善能で観世元正氏が小鍛冶をうける様が親子のようであった。勝久氏も高い山をまた一つ越えた。第二部(第一部は朝長)とも言うべき舞臺五つ。古拙で神味ある海人(金春信高)で始り、懸河の勢あるしやうしやな頼政(観世元昭)清純で永遠の姿を見せる雪(金剛永徳)質実かつ節度あり、やさしい御前(喜多節、久方振り)に美しいリズム感に富む乱(双ノ舞、観世鏡之丞・片山博太郎)それぞれに興味つきず。これだけで堪能(たんのう)する思い十分。(雪)の鹿取希世・笛は印象にのこる。また金剛流・下掛

NHK第2放送

新春五流謡曲・狂言

一月一日(祝) 観世流「翁」 一月二日(日) 金春信高 一月二日(日) 金剛流「蟻通」 一月三日(月) 和泉流「今夢」 一月三日(月) 八幡前「善竹忠一郎」ほか

一月三日(月) 能(観世流)「鶴」観世鏡之丞ほか 一月九日(日) 能(金春流) 一月二日(日) 東西狂言 和泉流「福屋」三宅藤九郎、和泉元秀ほか、大蔵流「弥山伏」茂山千作、千之丞ほか

能高

砂

「砂」 飯富 雅介 河村 大 西村 欽也 柳原富司忠

追善能に「卒都婆小町」・橋岡久太郎(前家元高安滋郎嗣子)氏は初代金剛殿を十一月に披かれた。右追善能で観世元正氏が小鍛冶をうける様が親子のようであった。勝久氏も高い山をまた一つ越えた。第二部(第一部は朝長)とも言うべき舞臺五つ。古拙で神味ある海人(金春信高)で始り、懸河の勢あるしやうしやな頼政(観世元昭)清純で永遠の姿を見せる雪(金剛永徳)質実かつ節度あり、やさしい御前(喜多節、久方振り)に美しいリズム感に富む乱(双ノ舞、観世鏡之丞・片山博太郎)それぞれに興味つきず。これだけで堪能(たんのう)する思い十分。(雪)の鹿取希世・笛は印象にのこる。また金剛流・下掛

青陽会

昭和五十八年一月二十九日(土)正午始

熱田 神宮 能楽殿 歌 河村 純二 千歳 高橋 暎一 高木美智子 服部 妙枝 祖父江修一 今村 喜勇 安藤 勝朗 須部 甫 須部 甫 須部 甫

高砂 飯富 雅介 河村 大 西村 欽也 柳原富司忠 井上松次郎 生駒 里翠 高木美智子 祖父江修一 高橋 暎一 須部 甫 須部 甫

能班 今沢 美和 西村 欽也 高安 勝久 福井啓次郎 寛 三男 後見 生駒 里翠 前野 郁子 加賀 敏彦 久田 敬二 地謡 安藤 勝朗 須部 甫 須部 甫 須部 甫

能車 本田 寛 飯富 雅介 柳原富司忠 鬼頭 英二 柳原富司忠 柳原富司忠 柳原富司忠 柳原富司忠 柳原富司忠

狂言末 後見 安藤 勝朗 地謡 今沢 美和 須部 甫 須部 甫 須部 甫 須部 甫 須部 甫

「船弁慶」を五公演、国立能楽堂は九月の舞台披露に宗家父子の... 通小町 殿島 博子 寛 敏一 藤田六郎兵衛 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛

附祝言 当日券 二千元(普通席) 主催 青陽会

錦秋の十一月舞台から

竹尾 邦太郎

(その一)

観世会と 十世藤田六郎兵衛追善能

「朝長」久しぶりの演能はこの曲の特殊性から来るのでしようか。名直笛(昭彦)の蕭条とした気配の中をワキ(欽也)・ツキツレ(勝久・雅介)が黙々と運びます。茶の同系の無地熨斗目だけに一山の僧が連れ立って行脚に赴く態です。そしてワキの銀鼠色の水衣が、ツキツレの暗緑色の襦袢水衣に比べて冷え冷えとした感じを与え、名ノリ・道行・着セリフからアイ(松次郎)との問答もひっそりと鎮まり返ります。次第ノ離子(昭彦・舜一郎・総一郎)も奥床しく、シテ(鉄之丞)は憂愁の面・深井を掛け、胸元きつちりと白襟・白指の気品に、銀鼠に沈んだ地色に菊花散らし文様の無紅唐織を着、左手に木ノ葉右手に珠数を持ってツレ(那久)トモ(敏二)を随えます。六人の登場人物が居てざわついた感じが少しもなく、心よい緊張に舞台が引き締まっているのは流石です。

次第の進時、シテのサシ謡はなめらかな朗詠風で奥深く、シテ・ワキ問答の閑寂な雰囲気はそのままだと謡(博太郎・慶次郎・順之助)に引き継がれ、哀憐一人の流れるような初問は、ワキならずとも朝長自らの有様を知りたい気持ちにさせます。正中下居してのシテ謡(4分余)には万感の思いが籠り身をつまされ、込み上げる気持ちを自制するかのシテを、地はその押し流すように下歌を詠懐しシテのシテ左手は暫し空に留まり、更に地上の歌を凝然と己が心と聞いて、へこめるならば、とワキにアシライ、へかくて夕陽影うつる、と我に返った様にワキ正に向くと心持ち右をウケて立ちます。冬ざれの野末の墓所に、肌目細やかな情趣の交流が深いしづもりの中で展開する前場が、各役の好演で秀逸です。

誘います。常に重苦しい感じを受けるのは太鼓(喜太郎)の低く腹に伝わる音色からでしょう。裂打に白鉢巻、面は今若か。ほのかに紅を帯いた面差しは紅顔可憐薄幸の源氏の若武者です。紅白段厚板は蝶に申文様。白地金青海波文様大口に白地桐花文様腰帯。そして申法被は宗家伝来の所謂竹屋町申法被の写しでしょう。濃黄緑色の地に菱縹緞給文様金紗です。装束の細心の気配りは鉄之丞がその曲にかける意欲をうかがわせます。

後シテの眼目、へ旗は白雲紅葉の、とサシ廻して見、足拍子踏んで、へ籠深に、と左袖きりと巻さ、へ射させて馬の、と扇を矢に振って突き立てる電撃の連さ、へ馬は頻りに跳ね上れば、と拍子二ツ踏むところに狂った悍馬の姿を見せて鮮烈な印象を残しました。(2時間2分)

「阿彌」日数経て急ぎ候程に、「のワキ(宗二郎)の腹れた南調が通々九州からの長旅の感じがあつて面白く、シテ(太加志)との問答にも人恋しさの情が通じ、しみりとしたシテ謡が聞きます。悲憤の深い心の渾は居くせに拙い所作となり、釣竿の紐を解く手もどかしく、へ俄かに疾風吹き、の面使いには蒼い光芒が閃くと思わせ、更に耳を聳する叫喚の幻聴に耳を敲つて一瞬立ちつくす様に、シテは天への畏怖と己が性(さが)の哀れを繊細に見せます。

後シテは立廻まで、四手綱をスミに置き、細かく左右を見ながら徐々に二ノ松へ抜け、するすると勾欄に寄つて前髪を取り四手綱を見込むところの気力の充実が際立ちました。(1時間14分)

なお今回の番組は三修羅と三早殿の一。両曲ともこつてりして

る上前シテの語・アイの居語・待語から後シテの出、と付きすぎでくどい感じが残るのは否めません。また入仕舞に大観秀夫が「遊行柳」で好演でした。(11月14日・観世会所見)

先代藤田六郎兵衛追善能に当代昭彦が六郎兵衛を襲名します。東西から各流宗家、名手が来名し午前十時から休憩なしの七時間余の大能です。華義太郎を除き全て地元離子方による五番立の舞離子はシテに宗家・流儀の重鎮を得て久しぶりに親友会(故郷太郎・惣一郎、六郎兵衛ら)によって発会した名離子方の勉強会)の雰囲気も堪能させて呉れます。ついで能三番に狂言一番(「腰折」・元秀)「張良」枯れたやや重い名直笛(光春)にワキ方の重畳を抜く高安勝久の初らしい緊張の名直笛が好対象で惹きつけます。宝生では前ワキも唐冠をつけ、唐帽子に白垂・小扇の面に白っぽい小格子に褐色水衣のシテ老翁(十萬雄)の立立(いでたち)と共に唐物を強く印象づけます。

呼樹のうちに二ノ松まで出たシテはワキを見込みますが、叱責はこのシテにはむしろ老翁な腹芸のうちとも思え、恐ろするワキ張良の卒直を勝久は自己の持味に発揮します。

後ワキは紺地に大きな鱗文様半切。急流の鱗(うろずく・魚の異称)と龍神との関わりを仄かに暗示するかのようです。後シテは唐帽子に白垂・鼻コブ悪戯、前巻色に金で巴に火焰と雲文様狩衣・紫地に金で雲に唐草文半切で威風あたりを払い、一臺台に上つて床几にかかると、ワキは地を掃くように袖あしらいをして平伏します。高さの視覚がシテの貫録・ワキの恭順を直截に見せ、見どころの香投げ(辰巳満次郎)も目付柱の前に見事に決まり、流れに翻弄されるワキの流し足もそつなく、シテツレ龍神(正宣)の目覚し働きのこの曲のもつ何がなし重い印象を払拭する軽快さがありました。

離子方(光春・博朗・総一郎・惣右衛門)・地謡(孝・富四夫ら)(60分)

第9回 神戸五流能

1月15日、神戸文化ホールで

「神戸五流能」は、神戸市、神戸市民文化振興財団主催、能楽協会神戸支部の後援で、一月十五日(成人の日)二部制で開催される。

第一部(午前十時始)
 ◎第一部(午前十時始)
 宝生流能「巻絹」(イロエ)宝生英雄
 観世流能「井筒」(物着)観世元正
 金春流能「黒塚」(雷鳴ノ出)金春信高
 狂言「栗焼」善竹忠一郎
 仕舞「那耶」辰巳孝「那耶」上田照也「昭君」高橋汎
 ◎第二部(午後三時始)
 観世流能「安宅」(勧進帳・流)

鞍馬、貴船を訪ねる

紅葉の洛北、小町寺など 能楽の友・謡曲名所めぐり

(写真) ①鞍馬寺にて記念撮影



能楽の友社では、恒例の謡曲名所めぐり旅行を、さる十月三十一日、京都の鞍馬、貴船を訪ねるコースで催しました。

当日は、五十四名が参加、午前八時愛知文化講堂前を出発、名神高速京都東インターチェンジから京都市内に入り、鞍馬街道を経て正午すぎ鞍馬に到着、「くらま温泉」で昼食ののち、ケーブルに乗る。紅葉の鞍馬寺に参詣、内陣にて法話を拝聴、一行は二手にわかれ、鞍馬の山越えには三十余名が参加し、老木が根を張る山道を経て貴船川の流れを聞きつつ下山、貴船神社では、祈符とともに、水の神のゆかりの説話を承り、鑑真上人の故事を承りました。

流シ)観世元昭
 喜多流能「富士太鼓」(狂乱ノ楽)喜多長世
 金剛流能「鶴鶴」(無間)金剛巖
 狂言「千鳥」茂山千五郎
 仕舞「白楽天」藤井久雄「桜川」大島久見「野守」豊嶋三千春
 入場料 一階四千円、二階三千円、学生券千円(各一部料金)
 お問い合わせ 神戸文化ホール事業課、電話(078)351-3535

山口亮氏逝去

幸清流小波方・山口亮氏は、十一月二十一日午前三時三十分、クモ膜下出血のため逝去された。享年五十一歳。

通夜は二十二日、告別式は二十三日、伊勢斎場で神式により執り行われ、幸義太郎氏らはじめ能楽関係者ら多数が会葬、冥福を祈った。

故山口亮氏は、昭和六年十月生れ、観世流大波方・山口義郎氏の長男、翁、乱、獅子を抜き、能楽協会名古屋支部会員として活躍、嘱望されていた。

自宅は伊勢市吹上二一七四一。

御料理 あつた 菜軒

本店 熱田区神戸町三四 電話(67)868618
 本宮東門店 熱田区新宮坂町一 電話(682)5598(代表)

流元 剛行 流本 宗家 観世

書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
 〒604 京都市中京区二条通鉄町東入

電話(291)2488-9
 振替東京 3-35552
 電話(231)1990
 振替 京都 1-113

外科・せいけい外科・皮膚、泌尿器科

東山整形外科

TEL 781-7835
 東山公園駅下車 オークランドビル2F

割烹・小料理

城

●熱田神宮能楽股喫茶部
 ●住吉小路(中区栄3-10)
 ●電話 241-0248
 ●喫茶・グリル(愛労野地下ビル)
 ●電話 731-1128

七番

直見

法研能

会

幽

花

会